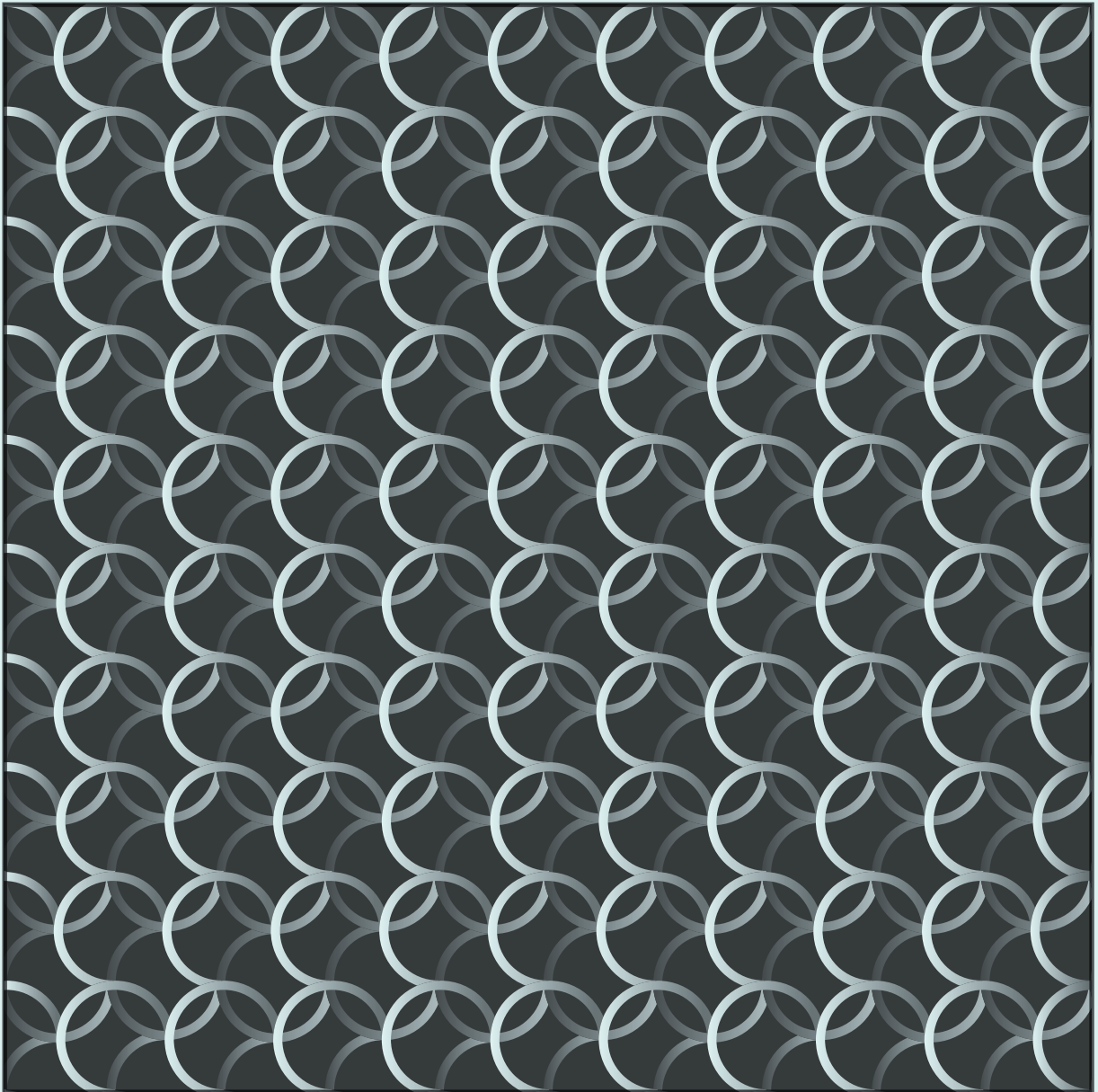

2017年度

シラバス

フランス語学科



秋学期は配布しません。1年間必ず保管すること。

獨協大学

シラバスは、科目の担当教員が学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。

【シラバスの見方】

1. 目次について

①シラバスページの検索方法

ページ端にあるインデックスで自分の入学年度に該当する目次ページを探してください。

目次の科目は、授業科目表(学則別表)と同じ順序で掲載しています。

※入学年度によっては授業科目表とシラバスの順序が一致していない場合があります。ご注意ください。

②履修できない科目

「履修不可」の欄に入学年度・所属学部・学科名等が記されている場合は、該当者はその科目を履修することができません。

〈略称説明〉

外：外国語学部

養：国際教養学部

経：経済学部

独：ドイツ語学科

養(*1)：国際教養学部、スペイン語履修者

済：経済学科

英：英語学科

養(*2)：国際教養学部、中国語履修者

営：経営学科

仏：フランス語学科

養(*3)：国際教養学部、韓国語履修者

環：国際環境経済学科

交：交流文化学科

法：法学部

律：法律学科

国：国際関係法学科

総：総合政策学科

免：2013年度以降入学の教職課程登録者

2. シラバスページの見方(右図参照)

①入学年度

②入学年度に対応した科目名

③授業の目的や講義全体の説明、学生への要望

④学期の授業計画

各回ごとの講義のテーマ、内容を記載しています。

授業計画回数と実際の回数は必ずしも一致しません。

⑤到達目標

⑥事前・事後学修の内容

⑦授業で使用するテキスト、参考文献

⑧評価方法

※「全学総合講座」および一部の科目は、記載方法が異なる場合があります。

①	②	担当者
講義目的、講義概要	授業計画	
③	④	
春学期		
到達目標	⑤	
事前・事後学修の内容	⑥	
テキスト、参考文献	⑦	
評価方法	⑧	

①	②	担当者
講義目的、講義概要	授業計画	
③	④	
秋学期		
到達目標	⑤	
事前・事後学修の内容	⑥	
テキスト、参考文献	⑦	
評価方法	⑧	

3. 注意事項

①履修条件

担当教員が履修者に対して、その他の科目の履修や単位の修得などを条件としている科目があります。

必ず「講義目的、講義概要」の欄(上図③の部分)および『授業時間割表』を確認してください。

②定員

「全学共通授業科目」は定員を設けています。『授業時間割表』の「定員」の欄を参照してください。

③集中講義

集中講義を伴うスポーツ・レクリエーション科目は上・下両段に記載してあります。

開講学期に注意してください。

— 総 合 目 次 —

2009 年度以降入学者用目次

-----2

外国語学部共通科目（2006 年度以降入学者用）

-----6

担当者別授業内容

-----7

フランス語学科 授業科目(2009年度以降入学用 目次)

学科基礎科目

09年度以降入学用

開講科目名称	担当者	開講 学期	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
フランス語Ⅰ(文法)	授業時間割表を参照してください。	春	1	1	全	7
フランス語Ⅱ(文法)		秋	1	1	全	7
フランス語Ⅰ(講読)既修者のみ	野澤 丈二	春	1	1	全	8
フランス語Ⅱ(講読)既修者のみ	野澤 丈二	秋	1	1	全	8
フランス語Ⅰ(総合)	授業時間割表を参照してください。	春	1	1	全	9
フランス語Ⅱ(総合)		秋	1	1	全	9
フランス語Ⅰ(TP) 既修者のみ	江花 輝昭	春	1	1	全	10
フランス語Ⅱ(TP) 既修者のみ	江花 輝昭	秋	1	1	全	10
フランス語Ⅰ(会話)未修者のみ	授業時間割表を参照してください。	春	1	1	全	11
フランス語Ⅱ(会話)未修者のみ		秋	1	1	全	11
フランス語Ⅰ(LL)		春	1	1	全	12
フランス語Ⅱ(LL)		秋	1	1	全	12
フランス語Ⅲ(文法)	授業時間割表を参照してください。	春	1	2	全	13
フランス語Ⅳ(文法)		秋	1	2	全	13
フランス語Ⅲ(講読)	尾玉 剛士	春	1	2	全	14
フランス語Ⅳ(講読)	尾玉 剛士	秋	1	2	全	14
フランス語Ⅲ(講読)	竹内 久雄	春	1	2	全	15
フランス語Ⅳ(講読)	竹内 久雄	秋	1	2	全	15
フランス語Ⅲ(講読)	富田 正二	春	1	2	全	16
フランス語Ⅳ(講読)	富田 正二	秋	1	2	全	16
フランス語Ⅲ(講読)	鈴木 隆	春	1	2	全	17
フランス語Ⅳ(講読)	鈴木 隆	秋	1	2	全	17
フランス語Ⅲ(講読)	廣田 愛理	春	1	2	全	18
フランス語Ⅳ(講読)	廣田 愛理	秋	1	2	全	18
フランス語Ⅲ(総合)	授業時間割表を参照してください。	春	1	2	全	19
フランス語Ⅳ(総合)		秋	1	2	全	19
フランス語Ⅲ(TP) 既修者のみ	小石 悟	春	1	2	全	20
フランス語Ⅳ(TP) 既修者のみ	小石 悟	秋	1	2	全	20
フランス語Ⅲ(会話)未修者のみ	授業時間割表を参照してください。	春	1	2	全	21
フランス語Ⅳ(会話)未修者のみ		秋	1	2	全	21
フランス語Ⅲ(構文)	竹内 久雄	春	1	2	全	22
フランス語Ⅳ(構文)	竹内 久雄	秋	1	2	全	22
フランス語Ⅲ(構文)	藤田 朋久	春	1	2	全	23
フランス語Ⅳ(構文)	藤田 朋久	秋	1	2	全	23
フランス語Ⅲ(構文)	井上 美穂	春	1	2	全	24
フランス語Ⅳ(構文)	井上 美穂	秋	1	2	全	24
フランス語Ⅲ(構文)	富塚 真理子	春	1	2	全	25
フランス語Ⅳ(構文)	富塚 真理子	秋	1	2	全	25
フランス語Ⅲ(構文)	青木 三郎	春	1	2	全	26
フランス語Ⅳ(構文)	青木 三郎	秋	1	2	全	26

開講科目名称	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
フランス芸術文化入門Ⅰ	根木 昭英	春	木1	2	1		27
フランス芸術文化入門Ⅱ	根木 昭英	秋	木1	2	1		27
フランス現代社会入門Ⅰ	廣田 愛理	春	水3	2	1		28
フランス現代社会入門Ⅱ	廣田 愛理	秋	水3	2	1		28

学科共通科目

開講科目名称	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
総合フランス語Ⅰ	授業時間割表を参照してください。	春		2	3	全	29
総合フランス語Ⅱ		秋		2	3	全	29
フランス語文章表現法Ⅰ	Ph. ヴァネ	春	月1	2	3		30
フランス語文章表現法Ⅰ	Ch. ペリセロ	春	火3	2	3		31
フランス語文章表現法Ⅱ	Ch. ペリセロ	秋	火3	2	3		31
フランス語文章表現法Ⅰ	M. ミズバヤシ	春	水2	2	3		32
フランス語文章表現法Ⅱ	M. ミズバヤシ	秋	水2	2	3		32
フランス語文章表現法Ⅰ	山崎 夏絵	春	水3	2	3		33
フランス語文章表現法Ⅱ	山崎 夏絵	秋	水3	2	3		33
フランス語文章表現法Ⅰ	C. ラビニヤス	春	木2	2	3		34
フランス語文章表現法Ⅱ	C. ラビニヤス	秋	木2	2	3		34
フランス語文章表現法Ⅰ	小石 悟	春	木3	2	3		35
フランス語文章表現法Ⅱ	小石 悟	秋	木3	2	3		35
フランス語文章表現法Ⅰ	D. ベルテ	春	金3	2	3		36
フランス語文章表現法Ⅱ	D. ベルテ	秋	金3	2	3		36
フランス語会話Ⅰ	L. フォンテース	春	月3	2	3		37
フランス語会話Ⅱ	L. フォンテース	秋	月3	2	3		37
フランス語会話Ⅰ	M. ミズバヤシ	春	木2	2	3		38
フランス語会話Ⅱ	M. ミズバヤシ	秋	木2	2	3		38
フランス語会話Ⅰ	D. ベルテ	春	金1	2	3		39
フランス語会話Ⅱ	D. ベルテ	秋	金1	2	3		39
フランス語会話Ⅰ	B. ピケ	春	金3	2	3		40
フランス語会話Ⅱ	B. ピケ	秋	金3	2	3		40
ビジネスフランス語Ⅰ	C. パジエス	春	月3	2	3		41
ビジネスフランス語Ⅱ	C. パジエス	秋	月3	2	3		41
上級フランス語Ⅰ	井上 美穂	春	木1	2	3		42
上級フランス語Ⅱ	井上 美穂	秋	木1	2	3		42

09年度以降入学者用

学科専門科目

開講科目名称	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
フランス語学論Ⅰ	田中 善英	春	水2	2	2		43
フランス語学論Ⅱ	田中 善英	秋	水2	2	2		43
フランス語文章理論Ⅰ	小石 悟	春	水2	2	2		44
フランス語文章理論Ⅱ	小石 悟	秋	水2	2	2		44
フランス語言語教育論Ⅰ	中村 公子	春	木2	2	2		45
フランス語言語教育論Ⅱ	中村 公子	秋	木2	2	2		45
マスメディアのフランス語Ⅰ【2013年度以降入学者】	野澤 丈二	春	木3	2	3		46
マスメディアのフランス語Ⅱ【2013年度以降入学者】	野澤 丈二	秋	木3	2	3		46
フランス語コミュニケーション各論Ⅰ	青木 三郎	春	金5	2	3		47
フランス語コミュニケーション各論Ⅱ	青木 三郎	秋	金5	2	3		47
フランス語コミュニケーション講読Ⅰ	Ph. ヴァネ	春	月2	2	3		48
フランス語コミュニケーション講読Ⅰ	中村 公子	春	月3	2	3		49
フランス語コミュニケーション講読Ⅱ	中村 公子	秋	月3	2	3		49
フランス語コミュニケーション講読Ⅰ	田桐 正彦	春	火3	2	3		50
フランス語コミュニケーション講読Ⅱ	田桐 正彦	秋	火3	2	3		50
フランス語コミュニケーション講読Ⅰ	田中 善英	春	水1	2	3		51
フランス語コミュニケーション講読Ⅱ	田中 善英	秋	水1	2	3		51
フランス語コミュニケーション講読Ⅰ	小石 悟	春	木4	2	3		52
フランス語コミュニケーション講読Ⅱ	小石 悟	秋	木4	2	3		52

開講科目名称	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
フランスの美術Ⅰ	阿部 明日香	春	木3	2	2	交	53
フランスの美術Ⅱ	阿部 明日香	秋	木3	2	2	交	53
フランスの音楽Ⅰ	松橋 麻利	春	木2	2	2	交	54
フランスの音楽Ⅱ	松橋 麻利	秋	木2	2	2	交	54
フランスの舞台芸術Ⅰ	江花 輝昭	春	木3	2	3		55
フランスの舞台芸術Ⅱ	江花 輝昭	秋	木3	2	3		55
フランス文学史Ⅰ	湯浅 博雄	春	月4	2	2		56
フランス文学史Ⅱ	湯浅 博雄	秋	月4	2	2		56
フランス語圏の文学Ⅰ【2013年度以降入学者】 フランスの文学Ⅰ【2012年度以前入学者】	谷口 亜沙子	春	火1	2	3		57
フランス語圏の文学Ⅱ【2013年度以降入学者】 フランスの文学Ⅱ【2012年度以前入学者】	谷口 亜沙子	秋	火1	2	3		57
フランス芸術文化各論Ⅰ	湯浅 博雄	春	水4	2	3		58
フランス芸術文化各論Ⅱ	湯浅 博雄	秋	水4	2	3		58
フランス芸術文化各論Ⅰ	福田 美雪	春	木2	2	3		59
フランス芸術文化各論Ⅱ	福田 美雪	秋	木2	2	3		59
フランス芸術文化講読Ⅰ	湯浅 博雄	春	月3	2	3		60
フランス芸術文化講読Ⅱ	湯浅 博雄	秋	月3	2	3		60
フランス芸術文化講読Ⅰ	江花 輝昭	春	火2	2	3		61
フランス芸術文化講読Ⅱ	江花 輝昭	秋	火2	2	3		61
フランス芸術文化講読Ⅰ	阿部 明日香	春	水2	2	3		62
フランス芸術文化講読Ⅱ	阿部 明日香	秋	水2	2	3		62
フランス芸術文化講読Ⅰ	M. ミズバヤシ	春	木1	2	3		63
フランス芸術文化講読Ⅱ	M. ミズバヤシ	秋	木1	2	3		63
フランス芸術文化講読Ⅰ	筒井 伸保	春	木4	2	3		64
フランス芸術文化講読Ⅱ	筒井 伸保	秋	木4	2	3		64
フランス芸術文化講読Ⅰ	谷口 亜沙子	春	金3	2	3		65
フランス芸術文化講読Ⅱ	谷口 亜沙子	秋	金3	2	3		65
フランス芸術文化講読Ⅰ	福田 美雪	春	金4	2	3		66
フランス芸術文化講読Ⅱ	福田 美雪	秋	金4	2	3		66

開講科目名称	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
フランス地域論Ⅰ	尾玉 剛士	春	火3	2	3		67
フランス地域論Ⅱ	尾玉 剛士	秋	火3	2	3		67
フランスの歴史Ⅰ	藤田 朋久	春	水2	2	2		68
フランスの歴史Ⅱ	藤田 朋久	秋	水2	2	2		68
フランスの政治経済Ⅰ	尾玉 剛士	春	火2	2	2	交	69
フランスの政治経済Ⅱ	尾玉 剛士	秋	火2	2	2	交	69
フランスの政治経済Ⅰ	廣田 愛理	秋	水1	2	2	交	70
フランスの政治経済Ⅱ	廣田 愛理	秋	水1	2	2	交	70
フランス現代思想Ⅰ	根木 昭英	春	木3	2	3		71
フランス現代思想Ⅱ	根木 昭英	秋	木3	2	3		71
フランス語圏の現代社会Ⅰ【2013年度以降入学者】 現代フランス論Ⅰ【2012年度以前入学者】	根木 昭英	春	金4	2	2		72
フランス語圏の現代社会Ⅱ【2013年度以降入学者】 現代フランス論Ⅱ【2012年度以前入学者】	根木 昭英	秋	金4	2	2		72
フランス現代社会各論Ⅰ	廣田 愛理	春	月3	2	3		73
フランス現代社会各論Ⅱ	廣田 愛理	秋	月3	2	3		73
フランス現代社会各論Ⅰ	Ph. ヴァネ	秋	火1	2	3		74
フランス現代社会講読Ⅰ	廣田 愛理	春	月2	2	3		75
フランス現代社会講読Ⅱ	廣田 愛理	秋	月2	2	3		75
フランス現代社会講読Ⅰ	藤田 朋久	春	月4	2	3		76
フランス現代社会講読Ⅱ	藤田 朋久	秋	月4	2	3		76
フランス現代社会講読Ⅰ	尾玉 剛士	秋	水1	2	3		77
フランス現代社会講読Ⅱ	尾玉 剛士	秋	水1	2	3		77
フランス現代社会講読Ⅰ	湯浅 博雄	春	水2	2	3		78
フランス現代社会講読Ⅱ	湯浅 博雄	秋	水2	2	3		78
フランス現代社会講読Ⅰ	横地 卓哉	春	木1	2	3		79
フランス現代社会講読Ⅱ	横地 卓哉	秋	木1	2	3		79
フランス現代社会講読Ⅰ	根木 昭英	春	金3	2	3		80
フランス現代社会講読Ⅱ	根木 昭英	秋	金3	2	3		80

交流文化論

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修不可	ページ
交流文化論(国際会議・イベント事業論)	井上 泰日子	秋	月1	2	2	交・養・経・法	81
交流文化論(開発文化論)	北野 収	春	月2	2	2	交・養・経・法	82
交流文化論(航空産業論)	井上 泰日子	春	月3	2	2	交・養・経・法	83
交流文化論(ツーリズム政策論)	井上 泰日子	秋	月3	2	2	交・養・経・法	84
交流文化論(食の文化論)	北野 収	春	月3	2	2	交・養・経・法	85
交流文化論(ツーリズム特殊講義 (紛争事例から学ぶ旅行契約法入門))【2013年度以降入学者】	花本 広志	春	月3	2	2	交・養・経・法	86
交流文化論(地域開発論)【2013年度以降入学者】/ 交流文化論(市民参加のまちづくり論)【2012年度以前入学者】	北野 収	秋	火1	2	2	交・養・経・法	87
交流文化論(トランスナショナル社会学)	北野 収	秋	火2	2	2	交・養・経・法	88
交流文化論(ツーリズム・マネジメント論)	鈴木 涼太郎	春	火3	2	2	交・養・経・法	89
交流文化論(ツーリズム文化論)	鈴木 涼太郎	秋	火3	2	2	交・養・経・法	90
交流文化論(トランスナショナル文化特殊講義 (グローバリゼーションと子ども))【2013年度以降入学者】	堀 芳枝	春	水2	2	2	交・養・経・法	91
交流文化論(トランスナショナル文化特殊講義 (グローバル経済とジェンダー))【2013年度以降入学者】	堀 芳枝	秋	水2	2	2	交・養・経・法	91
交流文化論(トランスナショナル・メディア論)	山口 誠	春	木2	2	2	交・養・経・法	92
交流文化論(トランスナショナル文化特殊講義 (「観る」ことと文化史))【2013年度以降入学者】	山口 誠	秋	木2	2	2	交・養・経・法	93
交流文化論(トランスナショナル文化特殊講義 (シティズンシップ教育論))【2013年度以降入学者】	花本 広志	秋	木3	2	2	交・養・経・法	94
交流文化論(ツーリズム人類学)	須永 和博	春	木4	2	2	交・養・経・法	95
交流文化論(表象文化論)	高橋 雄一郎	春	木4	2	2	交・養・経・法	96
交流文化論(旅行・宿泊産業論)	井上 泰日子	秋	木4	2	2	交・養・経・法	97
交流文化論(オルタナティブ・ツーリズム論)	須永 和博	秋	木4	2	2	交・養・経・法	98
交流文化論(ツーリズム特殊講義(ツーリズム・メディア論))【2013年度以降入学者】 交流文化論(ツーリズム・メディア論)【2012年度以前入学者】	山口 誠	秋	金1	2	2	交・養・経・法	99
交流文化論(トランスナショナル文化特殊講義 (グローバル社会での平和))【2013年度以降入学者】	堀 芳枝	春	金2	2	2	交・養・経・法	100
交流文化論(トランスナショナル文化特殊講義 (グローバリゼーションと市民社会))【2013年度以降入学者】	堀 芳枝	秋	金2	2	2	交・養・経・法	100

外国語学部共通科目

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
総合講座	大重 光太郎	春	水3	2	1	養・経・法	101
総合講座	M. ビティヒ	秋	水3	2	1	養・経・法	101
総合講座	木村 佐千子	春	火3	2	1	養・経・法	102
総合講座	木村 佐千子	秋	火3	2	1	養・経・法	102
情報科学概論a	呉 浩東	春	月2	2	1	養・経・法	103
情報科学概論b	休講						
(入門)情報科学各論	各担当教員						104～106
(情報処理演習)[総合]	田中 雅英	春	火2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[総合]	田中 雅英	春	火3	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[総合]	金子 憲一	秋	木3	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[英語]	内田 富男	春	水2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[英語]	内田 富男	秋	水2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	金井 満	春	木2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	春	金1	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	春	金2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	金井 満	秋	木2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	秋	金1	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	秋	金2	2	1	養・経・法	
(応用)情報科学各論	各担当教員						107～110
(Excel・プレゼンテーション中級)	松山 恵美子	春	月2	2	1	養・経・法	
(Excel・プレゼンテーション中級)	金子 憲一	春	木3	2	1	養・経・法	
(Excel・プレゼンテーション中級)	田中 雅英	秋	火4	2	1	養・経・法	
(Excel・プレゼンテーション中級)	松山 恵美子	秋	月2	2	1	養・経・法	
(プレゼンテーション中級)	金子 憲一	春	月4	2	1	養・経・法	
(プレゼンテーション中級)	金子 憲一	秋	月4	2	1	養・経・法	
(Word中級)	金子 憲一	春	月3	2	1	養・経・法	
(Word中級)	金子 憲一	春	月5	2	1	養・経・法	
(Word中級)	松山 恵美子	春	月1	2	1	養・経・法	
(Word中級)	田中 雅英	秋	火2	2	1	養・経・法	
(Word中級)	松山 恵美子	秋	月1	2	1	養・経・法	
(Office中級)	休講						
(Office中級)	休講						
(言語情報処理1)【2015年度以前入学者】/ (コーパス言語学a)【2016年度以降入学者】	羽山 恵	春	木2	2	2	英・養・経・法	
(言語情報処理2)【2015年度以前入学者】/ (コーパス言語学b)【2016年度以降入学者】	羽山 恵	秋	木2	2	2	英・養・経・法	
(HTML)情報科学各論	各担当教員						111～112
(HTML初級)	金子 憲一	春	木4	2	1	養・経・法	
(HTML初級)	金子 憲一	秋	月3	2	1	養・経・法	
(HTML初級)	田中 雅英	秋	火3	2	1	養・経・法	
(HTML初級)	金子 憲一	秋	木4	2	1	養・経・法	
(HTML中級)	金子 憲一	秋	月5	2	1	養・経・法	
経済原論a	野村 容康	春	木3	2	2	養・経・法	113
経済原論b	野村 容康	秋	木3	2	2	養・経・法	113
社会心理学a	樋口 匡貴	春	金2	2	2	養・経・法	114
社会心理学b	樋口 匡貴	秋	金2	2	2	養・経・法	114

※定員のある科目はオンライン登録による抽選となります。必ず抽選結果を確認してください。

フランス語学科シラバス

09 年度以降	フランス語Ⅰ（文法）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
1 年間でフランス語文法の概略を学ぶことを目的としています。未修クラスは週 2 回、既修クラスは週 1 回授業が行われます。使用教材や授業の進め方については、最初の授業時に各クラスの担当教員より説明があります。		1. イントロダクション・音と綴り 2. 基本的な動詞の活用 3. 名詞・冠詞・形容詞 4. 疑問文 5. 否定文 6. 指示形容詞・所有形容詞・数形容詞 7. 直接法現在の活用 1 8. 直接法現在の活用 2 9. 直接法現在の活用 3 10. 命令法 11. 疑問詞 12. 近接未来と近接過去 13. 半過去 14. 複合過去 15. まとめ ＊クラスによって使用教材と進度が異なるため、各回の内容はここに挙げた項目と異なることがあります。	
到達目標	フランス語の文法と時制、代名詞といった基礎的な文法項目を理解し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ文法事項を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。		
テキスト、参考文献	担当教員から指示があります。		
評価方法	平常点、学期末試験（担当教員から指示があります）。		

09 年度以降	フランス語Ⅱ（文法）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
1 年間でフランス語文法の概略を学ぶことを目的としています。未修クラスは週 2 回、既修クラスは週 1 回授業が行われます。使用教材や授業の進め方については、最初の授業時に各クラスの担当教員より説明があります。		1. 単純未来 2. 大過去・前未来 3. 代名詞 1 4. 関係代名詞 1 5. 強調構文・感嘆文 6. 比較構文 7. 能動態と受動態 8. 代名動詞 9. 非人称構文・不定詞構文 10. ジェロンディフ 11. 代名詞 2 12. 関係代名詞 2・関係副詞 13. 条件法 14. 接続法 15. まとめ ＊クラスによって使用教材と進度が異なるため、各回の内容はここに挙げた項目と異なることがあります。	
到達目標	フランス語の文法と時制、代名詞といった基礎的な文法項目を理解し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ文法事項を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。		
テキスト、参考文献	担当教員から指示があります。		
評価方法	平常点、学期末試験（担当教員から指示があります）。		

09 年度以降	フランス語 I（講読）（既修クラスのみ履修）	担当者	野澤 丈二
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的】 フランス語圏に滞在したり、フランス語を話す友人ができたとき、まず一番最初に話題となるのは、自分自身に関する事柄です。この講義では、これまでに学んできたフランス語の能力を土台として、日本に関する基礎知識をフランス語で読み、理解し、説明できるようになることを目的とします。 【講義概要】 教材に沿って進行し、日本の地理、歴史、教育、政治・経済、信仰、日常生活、言語、伝統文化などを、フランスとの比較の視点を重視しながら考えていきます。 授業では、文法事項も再確認し、語彙やさまざまな表現も身に付けていきます。		1. Leçon 1 : Tokyo et la mégalopole 2. 文法事項と語彙の確認、小テスト 3. Leçon 2 : D'Edo à Tokyo 4. 文法事項と語彙の確認、小テスト 5. Leçon 3 : Les Jeux Olympiques à Tokyo 6. 文法事項と語彙の確認、小テスト 7. Leçon 4 : L'éducation au Japon 8. 文法事項と語彙の確認、小テスト 9. Leçon 5 : Tokyo, capitale économique et politique 10. 文法事項と語彙の確認、小テスト 11. Leçon 6 : La religion des Japonais 12. 文法事項と語彙の確認、小テスト 13. Leçon 7 : Une journée à Tokyo 14. 文法事項と語彙の確認、小テスト 15. 期末試験	
到達目標	文法事項を踏まえて体系的な文章を講読し、フランス語の基礎的な語彙や表現を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	講読の授業です、予習は欠かさないようにしましょう。		
テキスト、参考文献	Jérôme Le Bois et Sakurako Inoue, Découvrir le Japon, 2016, Hakusuisha ジェローム・ルボワ、井上櫻子『日本再発見！』（2016 年、白水社）		
評価方法	平常点（積極的な参加、授業内課題、小テストなど）と期末試験の結果を総合的に判断し、評価する。		

09 年度以降	フランス語Ⅱ（講読）（既修クラスのみ履修）	担当者	野澤 丈二
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的】 フランス語圏に滞在したり、フランス語を話す友人ができたとき、まず一番最初に話題となるのは、自分自身に関する事柄です。この講義では、これまでに学んできたフランス語の能力を土台として、日本に関する基礎知識をフランス語で読み、理解し、説明できるようになることを目的とします。 【講義概要】 教材に沿って進行し、日本の地理、歴史、教育、政治・経済、信仰、日常生活、言語、伝統文化などを、とりわけフランスとの比較の視点から考えていきます。 授業では、文法事項も再確認し、語彙やさまざまな表現も身に付けていきます。		1. Leçon 8 : Une année à Tokyo 2. 文法事項と語彙の確認、小テスト 3. Leçon 9 : La langue japonaise 4. 文法事項と語彙の確認、小テスト 5. Leçon 10 : Tokyo traditionnel 6. 文法事項と語彙の確認、小テスト 7. Leçon 11 : Tokyo modern 8. 文法事項と語彙の確認、小テスト 9. Leçon 12 : Autour de Tokyo (1) 10. 文法事項と語彙の確認、小テスト 11. Leçon 13 : Autour de Tokyo (2) 12. 文法事項と語彙の確認、小テスト 13. Leçon 14 : Ukiyoe : les images du monde flottant 14. 文法事項と語彙の確認、小テスト 15. 期末試験	
到達目標	文法事項を踏まえて体系的な文章を講読し、フランス語の基礎的な語彙や表現を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	講読の授業です、予習は欠かさないようにしましょう。		
テキスト、参考文献	Jérôme Le Bois et Sakurako Inoue, Découvrir le Japon, 2016, Hakusuisha ジェローム・ルボワ、井上櫻子『日本再発見！』（2016 年、白水社）		
評価方法	平常点（積極的な参加、授業内課題や小テストなど）と期末試験で総合的に判断し、評価する。		

09 年度以降	フランス語Ⅰ（総合）	担当者	各担当教員																																
講義目的、講義概要		授業計画																																	
この授業はフランス語の実力を総合的に養うことを目的としています。授業は週2回あり（同日2コマ連続）、未修クラスは「LL」、「会話」と同じ教科書 <i>Amical 1</i> を用います。既修クラスでは「LL」と同じ <i>Totem 2</i> を使います。未修クラスでは特に文法や語彙の修得に中心を置きます。各課の最初にある <i>dialogue</i> の理解、関連した文法事項の学習、口頭練習、練習問題を通して、フランス語の基礎となる知識と基本的な表現を確実に身につけてゆきます。既修クラスではネイティヴ・スピーカーが授業を担当し、会話を中心に、総合的な運用能力を身につけることを目標にします。授業の進め方については、各担当教員から説明があります。		<table><thead><tr><th><i>Amical 1</i></th><th><i>Totem 2</i></th></tr></thead><tbody><tr><td>1. Leçon 0</td><td>Dossier 1-Leçon 1</td></tr><tr><td>2. Unité 1-Leçon 1~2</td><td>Dossier 1-Leçon 2</td></tr><tr><td>3. Unité 1-Leçon 1~2</td><td>Dossier 1-Leçon 3</td></tr><tr><td>4. Unité 1-Leçon 1~2</td><td>Dossier 1-Leçon 4</td></tr><tr><td>5. Unité 1-Leçon 3~4</td><td>Révision</td></tr><tr><td>6. Unité 1-Leçon 3~4</td><td>Dossier 2-Leçon 5</td></tr><tr><td>7. Unité 1-Leçon 3~4</td><td>Dossier 2-Leçon 6</td></tr><tr><td>8. Unité 2-Leçon 5~6</td><td>Dossier 2-Leçon 7</td></tr><tr><td>9. Unité 2-Leçon 5~6</td><td>Dossier 2-Leçon 8</td></tr><tr><td>10. Unité 2-Leçon 5~6</td><td>Révision</td></tr><tr><td>11. Unité 2-Leçon 7~8</td><td>Dossier 3-Leçon 9</td></tr><tr><td>12. Unité 2-Leçon 7~8</td><td>Dossier 3-Leçon 10</td></tr><tr><td>13. Unité 2-Leçon 7~8</td><td>Dossier 3-Leçon 11</td></tr><tr><td>14. Révision</td><td>Dossier 3-Leçon 12</td></tr><tr><td>15. Révision</td><td>Révision</td></tr></tbody></table> ※原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少の差があります。		<i>Amical 1</i>	<i>Totem 2</i>	1. Leçon 0	Dossier 1-Leçon 1	2. Unité 1-Leçon 1~2	Dossier 1-Leçon 2	3. Unité 1-Leçon 1~2	Dossier 1-Leçon 3	4. Unité 1-Leçon 1~2	Dossier 1-Leçon 4	5. Unité 1-Leçon 3~4	Révision	6. Unité 1-Leçon 3~4	Dossier 2-Leçon 5	7. Unité 1-Leçon 3~4	Dossier 2-Leçon 6	8. Unité 2-Leçon 5~6	Dossier 2-Leçon 7	9. Unité 2-Leçon 5~6	Dossier 2-Leçon 8	10. Unité 2-Leçon 5~6	Révision	11. Unité 2-Leçon 7~8	Dossier 3-Leçon 9	12. Unité 2-Leçon 7~8	Dossier 3-Leçon 10	13. Unité 2-Leçon 7~8	Dossier 3-Leçon 11	14. Révision	Dossier 3-Leçon 12	15. Révision	Révision
<i>Amical 1</i>	<i>Totem 2</i>																																		
1. Leçon 0	Dossier 1-Leçon 1																																		
2. Unité 1-Leçon 1~2	Dossier 1-Leçon 2																																		
3. Unité 1-Leçon 1~2	Dossier 1-Leçon 3																																		
4. Unité 1-Leçon 1~2	Dossier 1-Leçon 4																																		
5. Unité 1-Leçon 3~4	Révision																																		
6. Unité 1-Leçon 3~4	Dossier 2-Leçon 5																																		
7. Unité 1-Leçon 3~4	Dossier 2-Leçon 6																																		
8. Unité 2-Leçon 5~6	Dossier 2-Leçon 7																																		
9. Unité 2-Leçon 5~6	Dossier 2-Leçon 8																																		
10. Unité 2-Leçon 5~6	Révision																																		
11. Unité 2-Leçon 7~8	Dossier 3-Leçon 9																																		
12. Unité 2-Leçon 7~8	Dossier 3-Leçon 10																																		
13. Unité 2-Leçon 7~8	Dossier 3-Leçon 11																																		
14. Révision	Dossier 3-Leçon 12																																		
15. Révision	Révision																																		
到達目標	フランス語の基礎的な文法、語彙、文語・口語表現を総合的に習得し、運用できるようにする。																																		
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。																																		
テキスト、参考文献	未修クラス：Amical 1 既修クラス：Totem 2																																		
評価方法	平常点、学期末試験（担当教員から指示があります）。																																		

09 年度以降	フランス語Ⅱ（総合）	担当者	各担当教員																														
講義目的、講義概要		授業計画																															
この授業はフランス語の実力を総合的に養うことを目的としています。授業は週2回あり（同日2コマ連続）、未修クラスは「LL」、「会話」と同じ教科書 <i>Amical 1</i> を用います。既修クラスでは「LL」と同じ <i>Totem 2</i> を使います。未修クラスでは特に文法や語彙の修得に中心を置きます。各課の最初にある <i>dialogue</i> の理解、関連した文法事項の学習、口頭練習、練習問題を通して、フランス語の基礎となる知識と基本的な表現を確実に身につけてゆきます。既修クラスではネイティブ・スピーカーが授業を担当し、会話を中心に、総合的な運用能力を身につけることを目標にします。授業の進め方については、各担当教員から説明があります。		<i>Amical 1</i> <i>Totem 2</i> <table><tr><td>1. 春学期の復習</td><td>Dossiers 4・Leçon 13</td></tr><tr><td>2. Unité 3・Leçon 9~10</td><td>Dossiers 4・Leçon 14</td></tr><tr><td>3. Unité 3・Leçon 9~10</td><td>Dossiers 4・Leçon 15</td></tr><tr><td>4. Unité 3・Leçon 9~10</td><td>Dossiers 4・Leçon 16</td></tr><tr><td>5. Unité 3・Leçon 11~12</td><td>Révision</td></tr><tr><td>6. Unité 3・Leçon 11~12</td><td>Dossiers 5・Leçon 17</td></tr><tr><td>7. Unité 3・Leçon 11~12</td><td>Dossiers 5・Leçon 18</td></tr><tr><td>8. Unité 4・Leçon 13~14</td><td>Dossiers 5・Leçon 19</td></tr><tr><td>9. Unité 4・Leçon 13~14</td><td>Dossiers 5・Leçon 20</td></tr><tr><td>10. Unité 4・Leçon 13~14</td><td>Révision</td></tr><tr><td>11. Unité 4・Leçon 15~16</td><td>Dossiers 6・Leçon 21</td></tr><tr><td>12. Unité 4・Leçon 15~16</td><td>Dossiers 6・Leçon 22</td></tr><tr><td>13. Unité 4・Leçon 15~16</td><td>Dossiers 6・Leçon 23</td></tr><tr><td>14. Révision</td><td>Dossiers 6・Leçon 24</td></tr><tr><td>15. Révision</td><td>Révision</td></tr></table> ※原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少の差があります。		1. 春学期の復習	Dossiers 4・Leçon 13	2. Unité 3・Leçon 9~10	Dossiers 4・Leçon 14	3. Unité 3・Leçon 9~10	Dossiers 4・Leçon 15	4. Unité 3・Leçon 9~10	Dossiers 4・Leçon 16	5. Unité 3・Leçon 11~12	Révision	6. Unité 3・Leçon 11~12	Dossiers 5・Leçon 17	7. Unité 3・Leçon 11~12	Dossiers 5・Leçon 18	8. Unité 4・Leçon 13~14	Dossiers 5・Leçon 19	9. Unité 4・Leçon 13~14	Dossiers 5・Leçon 20	10. Unité 4・Leçon 13~14	Révision	11. Unité 4・Leçon 15~16	Dossiers 6・Leçon 21	12. Unité 4・Leçon 15~16	Dossiers 6・Leçon 22	13. Unité 4・Leçon 15~16	Dossiers 6・Leçon 23	14. Révision	Dossiers 6・Leçon 24	15. Révision	Révision
1. 春学期の復習	Dossiers 4・Leçon 13																																
2. Unité 3・Leçon 9~10	Dossiers 4・Leçon 14																																
3. Unité 3・Leçon 9~10	Dossiers 4・Leçon 15																																
4. Unité 3・Leçon 9~10	Dossiers 4・Leçon 16																																
5. Unité 3・Leçon 11~12	Révision																																
6. Unité 3・Leçon 11~12	Dossiers 5・Leçon 17																																
7. Unité 3・Leçon 11~12	Dossiers 5・Leçon 18																																
8. Unité 4・Leçon 13~14	Dossiers 5・Leçon 19																																
9. Unité 4・Leçon 13~14	Dossiers 5・Leçon 20																																
10. Unité 4・Leçon 13~14	Révision																																
11. Unité 4・Leçon 15~16	Dossiers 6・Leçon 21																																
12. Unité 4・Leçon 15~16	Dossiers 6・Leçon 22																																
13. Unité 4・Leçon 15~16	Dossiers 6・Leçon 23																																
14. Révision	Dossiers 6・Leçon 24																																
15. Révision	Révision																																
到達目標	フランス語の基礎的な文法、語彙、文語・口語表現を総合的に習得し、運用できるようにする。																																
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。																																
テキスト、参考文献	未修クラス：Amical 1 既修クラス：Totem 2																																
評価方法	平常点、学期末試験（担当教員から指示があります）。																																

09 年度以降	フランス語 I （TP）（既修クラスのみ履修）	担当者	江花 輝昭
講義目的、講義概要		授業計画	
フランスには、英語におけるTOEICのようなTest de connaissance du français（以下TCF）と呼ばれる資格試験があります。フランスの大学編入に使えるフランス語資格はこれしかありません。本学でも12月にこの試験を実施しています。 この授業では、TCFの模擬テスト練習を通じて受講者の総合的なフランス語力レベルアップを目指します。		1. 授業概要の説明、キーボード入力練習 2. TCF対策模擬テスト練習と解説 3. 〃 4. 〃 5. 〃 6. 〃 7. 〃 8. 〃 9. 〃 10. 〃 11. 〃 12. 〃 13. 〃 14. 〃 15. 〃	
到達目標	PC 等を使った学習により、フランス語の基礎、および、フランスに関する情報に自らアクセスする方法の基礎を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テスト練習で間違えた箇所を確認し次に備えること。		
テキスト、参考文献	プリントで配付		
評価方法	定期試験 50%、平常点 50%		

09 年度以降	フランス語Ⅱ（TP）（既修クラスのみ履修）	担当者	江花 輝昭
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に同じ。		1. TCF対策模擬テスト練習と解説 2. 〃 3. 〃 4. 〃 5. 〃 6. 〃 7. 〃 8. 〃 9. 〃 10. 〃 11. 〃 12. 〃 13. 〃 14. 〃 15. 〃	
到達目標	PC等を使った学習により、フランス語の基礎、および、フランスに関する情報に自らアクセスする方法の基礎を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テスト練習で間違えた箇所を確認し次に備えること。		
テキスト、参考文献	プリントで配付		
評価方法	定期試験 50%、平常点 50%		

09 年度以降	フランス語Ⅰ（会話）（未修クラスのみ履修）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業はフランス語の運用能力をつけることを目的としています。フランス語のネイティブ・スピーカーが担当して、特に会話と決まった言い回しの修得を中心とした授業になります。教科書は、「総合」「LL」と連動して、同じ<i>Amical 1</i>を使用します。 授業の進め方については各担当教員から説明があります。		<i>Amical 1</i> 1. Leçon 0 2. Unité 1-Leçon 1~2 3. Unité 1-Leçon 1~2 4. Unité 1-Leçon 1~2 5. Unité 1-Leçon 3~4 6. Unité 1-Leçon 3~4 7. Unité 1-Leçon 3~4 8. Unité 2-Leçon 5~6 9. Unité 2-Leçon 5~6 10. Unité 2-Leçon 5~6 11. Unité 2-Leçon 7~8 12. Unité 2-Leçon 7~8 13. Unité 2-Leçon 7~8 14. Révision 15. Révision ※原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少の差があります。	
到達目標	基礎的な事柄について口述のやりとりができるフランス語会話力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。		
テキスト、参考文献	Amical 1		
評価方法	平常点と学期末試験（担当教員から指示があります）。		

09 年度以降	フランス語Ⅱ（会話）（未修クラスのみ履修）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業はフランス語の運用能力をつけることを目的としています。フランス語のネイティブ・スピーカーが担当して、特に会話と決まった言い回しの修得を中心とした授業になります。教科書は、「総合」「LL」と連動して、同じ <i>Amical 1</i> を使用します。 授業の進め方については各担当教員から説明があります。		<i>Amical 1</i> 1. 春学期の復習 2. Unité 3-Leçon 9~10 3. Unité 3-Leçon 9~10 4. Unité 3-Leçon 9~10 5. Unité 3-Leçon 11~12 6. Unité 3-Leçon 11~12 7. Unité 3-Leçon 11~12 8. Unité 4-Leçon 13~14 9. Unité 4-Leçon 13~14 10. Unité 4-Leçon 13~14 11. Unité 4-Leçon 15~16 12. Unité 4-Leçon 15~16 13. Unité 4-Leçon 15~16 14. Révision 15. Révision ※原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少の差があります。	
到達目標	基礎的な事柄について口述のやりとりができるフランス語会話力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。		
テキスト、参考文献	Amical 1		
評価方法	平常点と学期末試験（担当教員から指示があります）。		

09 年度以降	フランス語 I （LL）	担当者	各担当教員																																													
講義目的、講義概要		授業計画																																														
この授業では、発音、綴り字と音、聞き取りの練習に力を入れます。未修クラスでは「総合」や「会話」と同じ教科書 Amical 1、既修クラスでは「総合」と同じ Totem 2 を使用します。どちらのクラスも通常この授業は CAL 教室で行います。 授業の進め方については各担当教員から説明があります。		Amical 1 Totem 2 <table><tr><td>1.</td><td>Leçon 0</td><td>Dossier 1-Leçon 1</td></tr><tr><td>2.</td><td>Unité 1-Leçon 1~2</td><td>Dossier 1-Leçon 2</td></tr><tr><td>3.</td><td>Unité 1-Leçon 1~2</td><td>Dossier 1-Leçon 3</td></tr><tr><td>4.</td><td>Unité 1-Leçon 1~2</td><td>Dossier 1-Leçon 4</td></tr><tr><td>5.</td><td>Unité 1-Leçon 3~4</td><td>Révision</td></tr><tr><td>6.</td><td>Unité 1-Leçon 3~4</td><td>Dossier 2-Leçon 5</td></tr><tr><td>7.</td><td>Unité 1-Leçon 3~4</td><td>Dossier 2-Leçon 6</td></tr><tr><td>8.</td><td>Unité 2-Leçon 5~6</td><td>Dossier 2-Leçon 7</td></tr><tr><td>9.</td><td>Unité 2-Leçon 5~6</td><td>Dossier 2-Leçon 8</td></tr><tr><td>10.</td><td>Unité 2-Leçon 5~6</td><td>Révision</td></tr><tr><td>11.</td><td>Unité 2-Leçon 7~8</td><td>Dossier 3-Leçon 9</td></tr><tr><td>12.</td><td>Unité 2-Leçon 7~8</td><td>Dossier 3-Leçon 10</td></tr><tr><td>13.</td><td>Unité 2-Leçon 7~8</td><td>Dossier 3-Leçon 11</td></tr><tr><td>14.</td><td>Révision</td><td>Dossier 3-Leçon 12</td></tr><tr><td>15.</td><td>Révision</td><td>Révision</td></tr></table> ※原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少の差があります。		1.	Leçon 0	Dossier 1-Leçon 1	2.	Unité 1-Leçon 1~2	Dossier 1-Leçon 2	3.	Unité 1-Leçon 1~2	Dossier 1-Leçon 3	4.	Unité 1-Leçon 1~2	Dossier 1-Leçon 4	5.	Unité 1-Leçon 3~4	Révision	6.	Unité 1-Leçon 3~4	Dossier 2-Leçon 5	7.	Unité 1-Leçon 3~4	Dossier 2-Leçon 6	8.	Unité 2-Leçon 5~6	Dossier 2-Leçon 7	9.	Unité 2-Leçon 5~6	Dossier 2-Leçon 8	10.	Unité 2-Leçon 5~6	Révision	11.	Unité 2-Leçon 7~8	Dossier 3-Leçon 9	12.	Unité 2-Leçon 7~8	Dossier 3-Leçon 10	13.	Unité 2-Leçon 7~8	Dossier 3-Leçon 11	14.	Révision	Dossier 3-Leçon 12	15.	Révision	Révision
1.	Leçon 0	Dossier 1-Leçon 1																																														
2.	Unité 1-Leçon 1~2	Dossier 1-Leçon 2																																														
3.	Unité 1-Leçon 1~2	Dossier 1-Leçon 3																																														
4.	Unité 1-Leçon 1~2	Dossier 1-Leçon 4																																														
5.	Unité 1-Leçon 3~4	Révision																																														
6.	Unité 1-Leçon 3~4	Dossier 2-Leçon 5																																														
7.	Unité 1-Leçon 3~4	Dossier 2-Leçon 6																																														
8.	Unité 2-Leçon 5~6	Dossier 2-Leçon 7																																														
9.	Unité 2-Leçon 5~6	Dossier 2-Leçon 8																																														
10.	Unité 2-Leçon 5~6	Révision																																														
11.	Unité 2-Leçon 7~8	Dossier 3-Leçon 9																																														
12.	Unité 2-Leçon 7~8	Dossier 3-Leçon 10																																														
13.	Unité 2-Leçon 7~8	Dossier 3-Leçon 11																																														
14.	Révision	Dossier 3-Leçon 12																																														
15.	Révision	Révision																																														
到達目標	フランス語の発音・リズム、綴りと発音に関する基礎を理解し、運用できるようにする。																																															
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、音源を聞いて練習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。																																															
テキスト、参考文献	未修クラス：Amical 1 既修クラス：Totem 2																																															
評価方法	平常点、学期末試験（担当教員から指示があります）。																																															

09 年度以降	フランス語Ⅱ（LL）	担当者	各担当教員																																																
講義目的、講義概要		授業計画																																																	
この授業では、発音、綴り字と音、聞き取りの練習に力を入れます。未修クラスでは「総合」や「会話」と同じ教科書 <i>Amical 1</i> 、既修クラスでは「総合」と同じ <i>Totem 2</i> を使用します。どちらのクラスも通常この授業は CAL 教室で行います。 授業の進め方については各担当教員から説明があります。		<table><thead><tr><th></th><th><i>Amical 1</i></th><th><i>Totem 2</i></th></tr></thead><tbody><tr><td>1.</td><td>春学期の復習</td><td>Dossier 4・Leçon 13</td></tr><tr><td>2.</td><td>Unité 3・Leçon 9~10</td><td>Dossier 4・Leçon 14</td></tr><tr><td>3.</td><td>Unité 3・Leçon 9~10</td><td>Dossier 4・Leçon 15</td></tr><tr><td>4.</td><td>Unité 3・Leçon 9~10</td><td>Dossier 4・Leçon 16</td></tr><tr><td>5.</td><td>Unité 3・Leçon 11~12</td><td>Révision</td></tr><tr><td>6.</td><td>Unité 3・Leçon 11~12</td><td>Dossier 5・Leçon 17</td></tr><tr><td>7.</td><td>Unité 3・Leçon 11~12</td><td>Dossier 5・Leçon 18</td></tr><tr><td>8.</td><td>Unité 4・Leçon 13~14</td><td>Dossier 5・Leçon 19</td></tr><tr><td>9.</td><td>Unité 4・Leçon 13~14</td><td>Dossier 5・Leçon 20</td></tr><tr><td>10.</td><td>Unité 4・Leçon 13~14</td><td>Révision</td></tr><tr><td>11.</td><td>Unité 4・Leçon 15~16</td><td>Dossier 6・Leçon 21</td></tr><tr><td>12.</td><td>Unité 4・Leçon 15~16</td><td>Dossier 6・Leçon 22</td></tr><tr><td>13.</td><td>Unité 4・Leçon 15~16</td><td>Dossier 6・Leçon 23</td></tr><tr><td>14.</td><td>Révision</td><td>Dossier 6・Leçon 24</td></tr><tr><td>15.</td><td>Révision</td><td>Révision</td></tr></tbody></table> ※原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少の差があります。			<i>Amical 1</i>	<i>Totem 2</i>	1.	春学期の復習	Dossier 4・Leçon 13	2.	Unité 3・Leçon 9~10	Dossier 4・Leçon 14	3.	Unité 3・Leçon 9~10	Dossier 4・Leçon 15	4.	Unité 3・Leçon 9~10	Dossier 4・Leçon 16	5.	Unité 3・Leçon 11~12	Révision	6.	Unité 3・Leçon 11~12	Dossier 5・Leçon 17	7.	Unité 3・Leçon 11~12	Dossier 5・Leçon 18	8.	Unité 4・Leçon 13~14	Dossier 5・Leçon 19	9.	Unité 4・Leçon 13~14	Dossier 5・Leçon 20	10.	Unité 4・Leçon 13~14	Révision	11.	Unité 4・Leçon 15~16	Dossier 6・Leçon 21	12.	Unité 4・Leçon 15~16	Dossier 6・Leçon 22	13.	Unité 4・Leçon 15~16	Dossier 6・Leçon 23	14.	Révision	Dossier 6・Leçon 24	15.	Révision	Révision
	<i>Amical 1</i>	<i>Totem 2</i>																																																	
1.	春学期の復習	Dossier 4・Leçon 13																																																	
2.	Unité 3・Leçon 9~10	Dossier 4・Leçon 14																																																	
3.	Unité 3・Leçon 9~10	Dossier 4・Leçon 15																																																	
4.	Unité 3・Leçon 9~10	Dossier 4・Leçon 16																																																	
5.	Unité 3・Leçon 11~12	Révision																																																	
6.	Unité 3・Leçon 11~12	Dossier 5・Leçon 17																																																	
7.	Unité 3・Leçon 11~12	Dossier 5・Leçon 18																																																	
8.	Unité 4・Leçon 13~14	Dossier 5・Leçon 19																																																	
9.	Unité 4・Leçon 13~14	Dossier 5・Leçon 20																																																	
10.	Unité 4・Leçon 13~14	Révision																																																	
11.	Unité 4・Leçon 15~16	Dossier 6・Leçon 21																																																	
12.	Unité 4・Leçon 15~16	Dossier 6・Leçon 22																																																	
13.	Unité 4・Leçon 15~16	Dossier 6・Leçon 23																																																	
14.	Révision	Dossier 6・Leçon 24																																																	
15.	Révision	Révision																																																	
到達目標	フランス語の発音・リズム、綴りと発音に関する基礎を理解し、運用できるようにする。																																																		
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、音源を聞いて練習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。																																																		
テキスト、参考文献	未修クラス：Amical 1 既修クラス：Totem 2																																																		
評価方法	平常点、学期末試験（担当教員から指示があります）。																																																		

09 年度以降	フランス語Ⅲ（文法）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
基礎フランス語の初級文法（文法Ⅰ、Ⅱ）を踏まえて、その内容を発展させたより詳細な文法を学びます。実際の言葉の表現の中で文法を活かして、正しいフランス語を修得することを目的とします。 授業で使用する教材および進め方などについては、担当教員から具体的な指示・説明があります。		1. 名詞の性と数 2. 形容詞のはたらき 3. 冠詞の使い方 4. 指示形容詞と所有形容詞 5. 疑問形容詞 6. 不定形容詞 7. 分量を表す表現 8. 人称代名詞 9. 再帰代名詞・代名動詞 10. 中性代名詞 11. 指示代名詞 12. 不定代名詞 13. 関係代名詞 14. 否定の表現 15. 直接話法と間接話法 ＊クラスによって使用教材と進度が異なるため、各回の内容はここに挙げた項目と異なることがあります。	
到達目標	フランス語の初級文法を理解し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ文法事項を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。		
テキスト、参考文献	担当教員から指示があります。		
評価方法	平常点、学期末試験（担当教員から指示があります）。		

09 年度以降	フランス語Ⅳ（文法）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
基礎フランス語の初級文法（文法Ⅰ、Ⅱ）を踏まえて、その内容を発展させたより詳細な文法を学びます。実際の言葉の表現の中で文法を活かして、正しいフランス語を修得することを目的とします。 授業で使用する教材および進め方などについては、担当教員から具体的な指示・説明があります。		1. 動詞の法と時制 2. 直接法現在・複合過去・半過去・大過去（1） 3. 直接法現在・複合過去・半過去・大過去（2） 4. 直接法単純過去・前過去・重複過去 5. 北摂法単純未来・前未来 6. 条件法現在 7. 条件法過去 8. 接続法現在 9. 接続法過去 10. 接続法半過去・大過去 11. 命令法 12. 不定法 13. 現在分詞・ジェロンディフ 14. 過去分詞 15. まとめ ＊クラスによって使用教材と進度が異なるため、各回の内容はここに挙げた項目と異なることがあります。	
到達目標	フランス語の中級文法を理解し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ文法事項を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。		
テキスト、参考文献	担当教員から指示があります。		
評価方法	平常点、学期末試験（担当教員から指示があります）。		

09 年度以降	フランス語Ⅲ（講読）	担当者	尾玉 剛士
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト『時事フランス語（2017年度版）A la page』を用いて、フランス語の発音の習熟、訳出の上達、フランス（語圏）の社会や文化に関する理解の向上を目指します。 授業への参加度・積極性を重視します。一緒に良い授業を作りましょう。		1. ガイダンス 2. 表現の自由 3. 生地主義 4. フランス人そしてユダヤ人であること 5. フランスにおける死刑廃止 6. フランスの経済学者たち 7. 中間まとめ 8. ドローン 9. 食料の浪費 10. 主日の安息 11. フランスの出生率 12. フランスの大麻問題 13. レジオン・ドヌール 14. まとめ① 15. まとめ②	
到達目標	フランス語の初歩的なテキストを講読できる力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回、テキストを1課ずつ予習して、発音練習と翻訳を済ませておくことが求められます。復習時には、どのような問題がテストに出るのか想像しながら取り組むと効果的です。		
テキスト、参考文献	加藤晴久、ミシェル・サガズ『時事フランス語（2017年度版）A la page』朝日出版社		
評価方法	平常点（授業態度）30％・中間テスト30％・期末テスト40％		

09 年度以降	フランス語Ⅳ（講読）	担当者	尾玉 剛士
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期の続き。 テキストを読み終えた後はフランス語のニュースサイトを読むことで、フランス語力の向上を図るとともに、フランスのニュースメディアの活用法を学びます。		1. ガイダンス 2. アカデミー・フランセーズ 3. オラドゥール・スュール・グラース 4. ディエン・ビエン・フー 5. ラスコー洞窟 6. カキ 7. 中間まとめ 8. セルジュ・ゲンズブール 9. サンタクロース 10. オリガミ 11. チュニジア 12. ニュースサイトを読む① 13. ニュースサイトを読む② 14. まとめ① 15. まとめ②	
到達目標	フランス語の初歩的なテキストを講読できる力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回、テキストを1課ずつ予習して、発音練習と翻訳を済ませておくことが求められます。復習時には、どのような問題がテストに出るのか想像しながら取り組むと効果的です。		
テキスト、参考文献	加藤晴久、ミシェル・サガズ『時事フランス語（2017 年度版）A la page』朝日出版社		
評価方法	平常点（授業態度）30％・中間テスト 30％・期末テスト 40％		

09 年度以降	フランス語Ⅲ（講読）	担当者	竹内 久雄
講義目的、講義概要		授業計画	
(1) 初級文法の知識をフランス語文を読むことにつなげる。(2)世界のフランス語圏についての基本的な知識を身につけてもらう。(3) 言語を通じてフランス文化の流れ、現代フランス事情を知る。		1. 授業の説明、履修者のフランス語力判定。 2. 1 課会話。聞き取り。作文。名詞関連の文法復習。 3. 1 課本文。名詞関連の文法復習。 4. 2 課会話。聞き取り。作文。être と avoir 復習。 5. 2 課本文。être と avoir 関連の文法復習。 6. 3 課会話。聞き取り。作文。er 動詞復習。 7. 3 課本文。er 動詞復習。 8. 復習と応用。 9. 4 課会話。聞き取り。作文。不規則動詞復習 1。 10. 4 課本文。不規則動詞復習。 11. 5 課会話。聞き取り。作文。不規則動詞復習 2。 12. 5 課本文。不規則動詞復習 2。 13. 復習と応用 1 / 14. 復習と応用 2 15. 総まとめ	
到達目標	フランス語の初歩的なテキストを講読できる力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前には、教科書巻末の各課ごとの文法まとめを読んでおいてください。事後は、テキストを構文という観点から復習してください。興味の持てた内容についてはいろいろ調べてもらいたいと思います。		
テキスト、参考文献	小松 祐子、フランコフォニーへの旅（駿河台出版社）		
評価方法	平常点（発表、宿題など：50%）と期末試験（50%）		

09 年度以降	フランス語Ⅳ（講読）	担当者	竹内 久雄
講義目的、講義概要		授業計画	
(1) 初級文法の知識をフランス語文を読むことにつなげる。(2)世界のフランス語圏についての基本的な知識を身につけてもらう。(3) 言語を通じてフランス文化の流れ、現代フランス事情を知る..		1. 授業の説明、前期のまとめ。 2. 6 課会話。聞き取り。作文。代名詞、代名動詞復習。 3. 6 課本文。代名詞、代名動詞復習。 4. 7 課会話。聞き取り。作文。複合過去復習。 5. 7 課本文。複合過去復習。 6. 8 課会話。聞き取り。作文、半過去復習。 7. 8 課本文。半過去復習。 8. 復習と応用。 9. 9 課会話。聞き取り。作文。単純未来復習。 10. 9 課本文。単純未来復習。 11. 10 課会話。聞き取り。作文。条件法、接続法復習。 12. 10 課本文。条件法、接続法復習。 13. 復習と応用 1 / 14. 復習と応用 2 15. 総まとめ	
到達目標	フランス語の初歩的なテキストを講読できる力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前には、教科書巻末の各課ごとの文法まとめを読んでおいてください。事後は、テキストを構文という観点から復習してください。興味の持てた内容についてはいろいろ調べてもらいたいと思います		
テキスト、参考文献	小松 祐子、フランコフォニーへの旅（駿河台出版社）		
評価方法	平常点（発表、宿題など：50%）と期末試験（50%）		

09 年度以降	フランス語Ⅲ（講読）	担当者	富田 正二
講義目的、講義概要		授業計画	
女流小説家マルグリット・デュラス（1914-1996年、ベトナムのサイゴン生）の小説「Moderato cantabile」を読みます。語彙数はさほど多くないので、その意味では読みやすい作品です。新聞や雑誌など実用文に接する一方で、文学作品を読むこともいい経験になると思います。たんに単語をつなぎ合わせるだけでは日本語にはなりません。ことばによる思考力が必要になります。和訳できても内容が理解できないということもあります。ことばや文のコノタシオンについて考えることで、フランス語を平面的ではなく、多層的な観点から見直す機会になるかもしれません。内容は、過去の男女の愛と現在の2人の危険な情念を描いた心理小説です。男女のあいだでかわされる何気ない会話から、複雑で微妙な男女の心理を読みとってください。授業は演習形式でおこないます。		1 ピアノレッスン 2 波止場のカフェで起こる殺傷事件 3 カフェでの出会い 4 殺傷事件の概要 5 男女の距離感 6 海岸の散歩 7 カフェでの再会 8 殺傷事件の分析 9 アンヌ・デバレードの自宅 10 アンヌ・デバレードの私生活 11 カフェへ 12 殺傷事件の分析とワイン 13 ショーヴァン 14 アンヌ・デバレードの恐れ 15 講義のまとめ	
到達目標	フランス語の初歩的なテキストを講読できる力を習得し、運用できるようにする		
事前・事後学修の内容	毎回2頁くらいのペースで読み進める予定です。事前に目をとおしてから授業に出席してください。不確かだった箇所については復習を欠かさないようにしましょう。		
テキスト、参考文献	Marguerite Duras : « Moderato cantabile », 第三書房		
評価方法	学期末試験（60%）を中軸にして、日常の授業にとりくむ態度（40%）を考慮して判定します。		

09 年度以降	フランス語Ⅳ（講読）	担当者	富田 正二
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に続いて <i>Moderato cantabile</i> を読みます。小説のもつトーンや文体の特徴にも慣れてきたのではないのでしょうか。フランス語を日本語におきかえるだけではなく、ことばがもっている広がりをよく味わいながら読み進めましょう。理解できない文章に出会ったら立ち止まってゆっくり考えましょう。読解をとおして、自分自身や各自が置かれている生活環境、さらには現代社会などを見直すきっかけになればと思います。 授業は演習形式でおこないます。		1 アンヌ・デバレードが過ごす暑い夜 2 カフェでの女主人とショーヴァン 3 カフェを訪れる客の視線 4 ピアノレッスン 5 ソナティネと少年の性格 6 7 晩目のカフェ 7 殺傷事件とアンヌの心情の交錯 8 日常としてのディナー 9 海岸で夜を過ごす男 10 最後のカフェ 11 アンヌ・デバレードとショーヴァンの距離 12 ショーヴァンの思い 13 アンヌ・デバレードの思い 14 別れ 15 講義のまとめ	
到達目標	フランス語の初歩的なテキストを講読できる力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回 2 頁くらいのペースで読み進める予定です。事前に目をとおしてから授業に出席してください。不確かだった箇所については復習を欠かさないようにしましょう。		
テキスト、参考文献	Marguerite Duras：« Moderato cantabile », 第三書房		
評価方法	学期末試験（60％）を中軸にして、日常の授業にとりくむ態度（40％）を考慮して判定します。		

09 年度以降	フランス語Ⅲ（講読）	担当者	鈴木 隆
講義目的、講義概要		授業計画	
フランス語中級者向けに編まれたテキストの講読を通して、一年次に習った文法事項の確認と復習をします。とくに訳読の練習によって、生きたフランス語を読み解く力をつけるステップとします。 教科書は、『時事フランス語 2017 年度版』を使用します。私たちにも身近なトピックを通して、語学のみならず、フランスならではの文化事象や社会システムも学ぶことができます。関心を惹かれたトピックによっては、3 年次のゼミ選択の参考にもなるでしょう。 事前にならず予習をしてください。適宜、補足資料も配布します。毎回の授業への参加度や課題の提出状況、および期末試験の成績をもって評価します。		1. イントロダクション 2. 第 1 課 3. 第 2 課 4. 第 3 課 5. 第 4 課 6. 第 5 課 7. 文法の復習Ⅰ 8. 第 6 課 9. 第 7 課 10. 第 8 課 11. 第 9 課 12. 第 10 課 13. 文法の復習Ⅱ 14. 語彙の復習とディクテ 15. まとめ	
到達目標	フランス語の初歩的なテキストを講読できる力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回の授業で読む課の予習復習を必ずすること。		
テキスト、参考文献	『時事フランス語 2017 年度版』、ミシェル・サガス、加藤晴久、朝日出版社、2017 年。		
評価方法	毎回の小テストおよび中間、期末テストの総合点で評価する。		

09 年度以降	フランス語Ⅳ（講読）	担当者	鈴木 隆
講義目的、講義概要		授業計画	
フランス語中級者向けに編まれたテキストの講読を通して、一年次に習った文法事項の確認と復習をします。とくに訳読の練習によって、生きたフランス語を読み解く力をつけるステップとします。 教科書は、『時事フランス語 2017 年度版』を使用します。私たちにも身近なトピックを通して、語学のみならず、フランスならではの文化事象や社会システムも学ぶことができます。関心を惹かれたトピックによっては、3 年次のゼミ選択の参考にもなるでしょう。 事前にならず予習をしてください。適宜、補足資料も配布します。毎回の授業への参加度や課題の提出状況、および期末試験の成績をもって評価します。		1. イントロダクション 2. 第 11 課 3. 第 12 課 4. 第 13 課 5. 第 14 課 6. 第 15 課 7. 文法の復習Ⅰ 8. 第 16 課 9. 第 17 課 10. 第 18 課 11. 第 19 課 12. 第 20 課 13. 文法の復習Ⅱ 14. 語彙の復習とディクテ 15. まとめ	
到達目標	フランス語の初歩的なテキストを講読できる力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回の授業で読む課の予習復習を必ずすること。		
テキスト、参考文献	『時事フランス語 2017 年度版』、ミシェル・サガス、加藤晴久、朝日出版社、2017 年。		
評価方法	毎回の小テストおよび中間、期末テストの総合点で評価する。		

09 年度以降	フランス語Ⅲ（講読）	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業は、初級文法で学んだ知識を使って、フランス語で書かれた簡単なテキストを読むことにより、読解力を養うことを目的としています。 下記の教科書に沿って、フランスの様々な地方の特色について学んでいきます。詳しい授業の進め方については、初回のガイダンスで説明しますが、毎回、テキストの指定する範囲を予習してくることが必要となります。		1. ガイダンス 2. La Bretagne (1) 3. La Bretagne (2) 4. La Normandie (1) 5. La Normandie (2) 6. Les Hauts-de-France (1) 7. Les Hauts-de-France (2) 8. まとめ 9. Le Grand-Est (1) 10. Le Grand-Est (2) 11. La Bourgogne-Franche-Comté (1) 12. La Bourgogne-Franche-Comté (2) 13. L'Auvergne-Rhône-Alpes (1) 14. L'Auvergne-Rhône-Alpes (2) 15. まとめ	
到達目標	フランス語の初歩的なテキストを講読できる力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に教科書の指定範囲を読んでくること。事後学修については、授業で学んだ文章表現などを復習すること。		
テキスト、参考文献	ファビエンヌ・ギユマン『フランス、地方を巡る旅』駿河台出版社		
評価方法	平常点（30％）とテスト（70％）で評価します。		

09 年度以降	フランス語Ⅳ（講読）	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要は春学期を参照してください。		1. ガイダンス 2. PACA et la Corse (1) 3. PACA et la Corse (1) 4. L'Occitanie (1) 5. L'Occitanie (2) 6. La Nouvelle Aquitaine (1) 7. La Nouvelle Aquitaine (2) 8. まとめ 9. Les Pays de la Loire (1) 10. Les Pays de la Loire (2) 11. Le Centre-Val de Loire (1) 12. Le Centre-Val de Loire (2) 13. Les DROM (1) 14. Les DROM (2) 15. まとめ	
到達目標	フランス語の初歩的なテキストを講読できる力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に教科書の指定範囲を読んでくること。事後学修については、授業で学んだ文章表現などを復習すること。		
テキスト、参考文献	ファビエンヌ・ギユマン『フランス、地方を巡る旅』駿河台出版社		
評価方法	平常点（30％）とテスト（70％）で評価します。		

09 年度以降	フランス語Ⅲ（総合）	担当者	各担当教員																																													
講義目的、講義概要		授業計画																																														
この授業はフランス語の実力を総合的に伸ばすことを目的としています。授業は週2回あり（同日2コマ連続）、未修クラスでは「会話」と同じ教科書 <i>Amical 1</i>、既修クラスでは <i>Totem 2, 3</i> を使います。 未修クラスは日本人教員、既修クラスはネイティブ・スピーカーが授業を担当します。 授業の進め方については、各担当教員から説明があります。		<i>Amical 1</i> <i>Totem 2, 3</i> <table><tr><td>1.</td><td>Unité 5-Leçon 17</td><td><i>Totem 2</i>, Dossier 7- Leçon 25, 26</td></tr><tr><td>2.</td><td>Unité 5-Leçon 17~18</td><td>Dossier 7-Leçon 27, 28</td></tr><tr><td>3.</td><td>Unité 5-Leçon 18</td><td>Dossier 8-Leçon 29, 30</td></tr><tr><td>4.</td><td>Unité 5-Leçon 19</td><td>Dossier 8-Leçon 31, 32</td></tr><tr><td>5.</td><td>Unité 5-Leçon 19</td><td>Révision</td></tr><tr><td>6.</td><td>Unité 5-Leçon 20</td><td><i>Totem 3</i>, Dossier 1-Leçon 1</td></tr><tr><td>7.</td><td>Unité 5-Leçon 20</td><td>Dossier 1-Leçon 2</td></tr><tr><td>8.</td><td>Unité 6-Leçon 21</td><td>Dossier 1-Leçon 3</td></tr><tr><td>9.</td><td>Unité 6-Leçon 21</td><td>Dossier 1-Leçon 4</td></tr><tr><td>10.</td><td>Unité 6-Leçon 22</td><td>Dossier 1-Leçon 5</td></tr><tr><td>11.</td><td>Unité 6-Leçon 22</td><td>Révision</td></tr><tr><td>12.</td><td>Unité 6-Leçon 23</td><td>Dossier 2-Leçon 6</td></tr><tr><td>13.</td><td>Unité 6-Leçon 23</td><td>Dossier 2-Leçon 7</td></tr><tr><td>14.</td><td>Unité 6-Leçon 24</td><td>Dossier 2-Leçon 8</td></tr><tr><td>15.</td><td>Unité 6-Leçon 24</td><td>Révision</td></tr></table> ※原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少の差があります。		1.	Unité 5-Leçon 17	<i>Totem 2</i> , Dossier 7- Leçon 25, 26	2.	Unité 5-Leçon 17~18	Dossier 7-Leçon 27, 28	3.	Unité 5-Leçon 18	Dossier 8-Leçon 29, 30	4.	Unité 5-Leçon 19	Dossier 8-Leçon 31, 32	5.	Unité 5-Leçon 19	Révision	6.	Unité 5-Leçon 20	<i>Totem 3</i> , Dossier 1-Leçon 1	7.	Unité 5-Leçon 20	Dossier 1-Leçon 2	8.	Unité 6-Leçon 21	Dossier 1-Leçon 3	9.	Unité 6-Leçon 21	Dossier 1-Leçon 4	10.	Unité 6-Leçon 22	Dossier 1-Leçon 5	11.	Unité 6-Leçon 22	Révision	12.	Unité 6-Leçon 23	Dossier 2-Leçon 6	13.	Unité 6-Leçon 23	Dossier 2-Leçon 7	14.	Unité 6-Leçon 24	Dossier 2-Leçon 8	15.	Unité 6-Leçon 24	Révision
1.	Unité 5-Leçon 17	<i>Totem 2</i> , Dossier 7- Leçon 25, 26																																														
2.	Unité 5-Leçon 17~18	Dossier 7-Leçon 27, 28																																														
3.	Unité 5-Leçon 18	Dossier 8-Leçon 29, 30																																														
4.	Unité 5-Leçon 19	Dossier 8-Leçon 31, 32																																														
5.	Unité 5-Leçon 19	Révision																																														
6.	Unité 5-Leçon 20	<i>Totem 3</i> , Dossier 1-Leçon 1																																														
7.	Unité 5-Leçon 20	Dossier 1-Leçon 2																																														
8.	Unité 6-Leçon 21	Dossier 1-Leçon 3																																														
9.	Unité 6-Leçon 21	Dossier 1-Leçon 4																																														
10.	Unité 6-Leçon 22	Dossier 1-Leçon 5																																														
11.	Unité 6-Leçon 22	Révision																																														
12.	Unité 6-Leçon 23	Dossier 2-Leçon 6																																														
13.	Unité 6-Leçon 23	Dossier 2-Leçon 7																																														
14.	Unité 6-Leçon 24	Dossier 2-Leçon 8																																														
15.	Unité 6-Leçon 24	Révision																																														
到達目標	フランス語の一般的な文法、語彙、文語・口語表現を総合的に習得し、運用できるようにする。																																															
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。																																															
テキスト、参考文献	未修クラス：Amical 1 既修クラス：Totem 2, 3																																															
評価方法	平常点、学期末試験（担当教員から指示があります）。																																															

09 年度以降	フランス語Ⅳ（総合）	担当者	各担当教員																																
講義目的、講義概要		授業計画																																	
この授業はフランス語の実力を総合的に伸ばすことを目的としています。授業は週 2 回あり（同日 2 コマ連続）、未修クラスでは「会話」と同じ教科書 <i>Amical 2</i>、既修クラスでは <i>Totem 3</i> を使います。 未修クラスは日本人教員、既修クラスはネイティブ・スピーカーが授業を担当します。 授業の進め方については、各担当教員から説明があります。		<table><tr><td><i>Amical 2</i></td><td><i>Totem 3</i></td></tr><tr><td>1. Unité 1-Leçon 1</td><td>Dossier 2-Leçon 9</td></tr><tr><td>2. Unité 1-Leçon 1~2</td><td>Dossier 2-Leçon 10</td></tr><tr><td>3. Unité 1-Leçon 2</td><td>Dossier 3-Leçon 11</td></tr><tr><td>4. Unité 1-Leçon 3</td><td>Dossier 3-Leçon 12</td></tr><tr><td>5. Unité 1-Leçon 3</td><td>Dossier 3-Leçon 13</td></tr><tr><td>6. Unité 1-Leçon 4</td><td>Dossier 3-Leçon 14</td></tr><tr><td>7. Unité 1-Leçon 4</td><td>Dossier 3-Leçon 15</td></tr><tr><td>8. Unité 2-Leçon 5</td><td>Révision</td></tr><tr><td>9. Unité 2-Leçon 5</td><td>Dossier 4-Leçon 16</td></tr><tr><td>10. Unité 2-Leçon 6</td><td>Dossier 4-Leçon 17</td></tr><tr><td>11. Unité 2-Leçon 6</td><td>Dossier 4-Leçon 18</td></tr><tr><td>12. Unité 2-Leçon 7</td><td>Dossier 4-Leçon 19</td></tr><tr><td>13. Unité 2-Leçon 7</td><td>Dossier 4-Leçon 20</td></tr><tr><td>14. Unité 2-Leçon 8</td><td>Révision</td></tr><tr><td>15. Unité 2-Leçon 8</td><td>Révision</td></tr></table> ※原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少の差があります。		<i>Amical 2</i>	<i>Totem 3</i>	1. Unité 1-Leçon 1	Dossier 2-Leçon 9	2. Unité 1-Leçon 1~2	Dossier 2-Leçon 10	3. Unité 1-Leçon 2	Dossier 3-Leçon 11	4. Unité 1-Leçon 3	Dossier 3-Leçon 12	5. Unité 1-Leçon 3	Dossier 3-Leçon 13	6. Unité 1-Leçon 4	Dossier 3-Leçon 14	7. Unité 1-Leçon 4	Dossier 3-Leçon 15	8. Unité 2-Leçon 5	Révision	9. Unité 2-Leçon 5	Dossier 4-Leçon 16	10. Unité 2-Leçon 6	Dossier 4-Leçon 17	11. Unité 2-Leçon 6	Dossier 4-Leçon 18	12. Unité 2-Leçon 7	Dossier 4-Leçon 19	13. Unité 2-Leçon 7	Dossier 4-Leçon 20	14. Unité 2-Leçon 8	Révision	15. Unité 2-Leçon 8	Révision
<i>Amical 2</i>	<i>Totem 3</i>																																		
1. Unité 1-Leçon 1	Dossier 2-Leçon 9																																		
2. Unité 1-Leçon 1~2	Dossier 2-Leçon 10																																		
3. Unité 1-Leçon 2	Dossier 3-Leçon 11																																		
4. Unité 1-Leçon 3	Dossier 3-Leçon 12																																		
5. Unité 1-Leçon 3	Dossier 3-Leçon 13																																		
6. Unité 1-Leçon 4	Dossier 3-Leçon 14																																		
7. Unité 1-Leçon 4	Dossier 3-Leçon 15																																		
8. Unité 2-Leçon 5	Révision																																		
9. Unité 2-Leçon 5	Dossier 4-Leçon 16																																		
10. Unité 2-Leçon 6	Dossier 4-Leçon 17																																		
11. Unité 2-Leçon 6	Dossier 4-Leçon 18																																		
12. Unité 2-Leçon 7	Dossier 4-Leçon 19																																		
13. Unité 2-Leçon 7	Dossier 4-Leçon 20																																		
14. Unité 2-Leçon 8	Révision																																		
15. Unité 2-Leçon 8	Révision																																		
到達目標	フランス語の一般的な文法、語彙、文語・口語表現を総合的に習得し、運用できるようにする。																																		
事前・事後学修の内容	事前に教科書を目を通す、授業で学んだ語彙・表現を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。																																		
テキスト、参考文献	未修クラス：Amical 2 既修クラス：Totem 3																																		
評価方法	平常点、学期末試験（担当教員から指示があります）。																																		

09 年度以降	フランス語Ⅲ(TP) (既修クラスのみ履修)	担当者	小石 悟
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業ではヒアリング能力を伸ばすことを目指します。フランス語が聞き取れるようになるためには様々な能力を伸ばす必要があります。文法力は勿論ですが、語彙力、話題になっている物・事に関する知識（一般教養）等です。教材は最初はPodcastで聞ける中級向けのヒヤリング教材Chocolatを用います。ノーマル・スピードのインタビューが中心になります。ノーマル・スピードに少し慣れたら、レベルアップして、やはりPodcastで聞けるTV5のニュースを用います。世界各地で起こっている出来事が、フランス語でどう報道されているかを理解できるようになることを目指します。1 2月に受験するTCF(フランス語能力検定試験)の準備にもなります。		第1回 ガイダンス 第2回 その週にアップロードされたChocolat 第3回 その週にアップロードされたChocolat 第4回 その週にアップロードされたChocolat 第5回 その週にアップロードされたChocolat 第6回 その週にアップロードされたChocolat 第7回 その週にアップロードされたChocolat 第8回 その週にアップロードされたTV5 第9回 その週にアップロードされたTV5 第10回 その週にアップロードされたTV5 第11回 その週にアップロードされたTV5 第12回 その週にアップロードされたTV5 第13回 その週にアップロードされたTV5 第14回 その週にアップロードされたTV5 第15回 その週にアップロードされたTV5	
到達目標	フランス語のインターネットサイトやメディア等を活用して実践的なフランス語を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	その週の後番組の教室外での聴解。取り扱った語彙の習得		
テキスト、参考文献	授業中に配布する		
評価方法	定期試験 100%		

09 年度以降	フランス語Ⅳ(TP) (既修クラスのみ履修)	担当者	小石 悟
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同じ		第1回 その週にアップロードされたTV5 第2回 その週にアップロードされたTV5 第3回 その週にアップロードされたTV5 第4回 その週にアップロードされたTV5 第5回 その週にアップロードされたTV5 第6回 その週にアップロードされたTV5 第7回 その週にアップロードされたTV5 第8回 その週にアップロードされたTV5 第9回 その週にアップロードされたTV5 第10回 その週にアップロードされたTV5 第11回 その週にアップロードされたTV5 第12回 その週にアップロードされたTV5 第13回 その週にアップロードされたTV5 第14回 その週にアップロードされたTV5 第15回 その週にアップロードされたTV5	
到達目標	フランス語のインターネットサイトやメディア等を活用して実践的なフランス語を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	その週の後番組の教室外での聴解。取り扱った語彙の習得		
テキスト、参考文献	授業中に配布する		
評価方法	定期試験 100%		

09 年度以降	フランス語Ⅲ（会話）（未修クラスのみ履修）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業はフランス語の運用能力をつけることを目的としています。フランス語のネイティブ・スピーカーが担当して、特に会話と決まった言い回しの修得を中心とした授業になります。教科書は、「総合」と連動して、同じ <i>Amical 1</i> を使用します。 授業の進め方については各担当教員から説明があります。		<i>Amical 1</i> - Unité 5-Leçon 17 - Unité 5-Leçon 17~18 - Unité 5-Leçon 18 - Unité 5-Leçon 19 - Unité 5-Leçon 19 - Unité 5-Leçon 20 - Unité 5-Leçon 20 - Unité 6-Leçon 21 - Unité 6-Leçon 21 - Unité 6-Leçon 22 - Unité 6-Leçon 22 - Unité 6-Leçon 23 - Unité 6-Leçon 23 - Unité 6-Leçon 24 - Unité 6-Leçon 24 ※原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少の差があります。	
到達目標	一般的な事柄について口述のやりとりができるフランス語会話力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。		
テキスト、参考文献	Amical 1		
評価方法	平常点と学期末試験（担当教員から指示があります）。		

09 年度以降	フランス語Ⅳ（会話）（未修クラスのみ履修）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業はフランス語の運用能力をつけることを目的としています。フランス語のネイティブ・スピーカーが担当して、特に会話と決まった言い回しの修得を中心とした授業になります。教科書は、「総合」と連動して、同じ <i>Amical 2</i> を使用します。 授業の進め方については各担当教員から説明があります。		<i>Amical 2</i> 1. Unité 1・Leçon 1 2. Unité 1・Leçon 1~2 3. Unité 1・Leçon 2 4. Unité 1・Leçon 3 5. Unité 1・Leçon 3 6. Unité 1・Leçon 4 7. Unité 1・Leçon 4 8. Unité 2・Leçon 5 9. Unité 2・Leçon 5 10. Unité 2・Leçon 6 11. Unité 2・Leçon 6 12. Unité 2・Leçon 7 13. Unité 2・Leçon 7 14. Unité 2・Leçon 8 15. Unité 2・Leçon 8 ※原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少の差があります。	
到達目標	一般的な事柄について口述のやりとりができるフランス語会話力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。		
テキスト、参考文献	Amical 2		
評価方法	平常点と学期末試験（担当教員から指示があります）。		

09 年度以降	フランス語Ⅲ（構文）	担当者	竹内 久雄
講義目的、講義概要		授業計画	
(1) 学習目標：フランス語についての中級レベルの知識，運用能力を深める．フランス語を様々な視点からとらえる力を養う．(2) 授業概要：中級レベルのフランス語についての知識，運用能力を深める．問題練習としては，構文理解，作文，語彙を増やすこと（派生語，関連語，名詞化などにより），論理的展開を助ける表現の理解などを試みます．クラスの数によっては聞き取り，書きとりも考えます．必要に応じて，基本文法の復習を行います．		(1) 動詞時制復習とまとめ 1 (2) 動詞時制復習とまとめ 2 (3) 動詞時制復習とまとめ 3 (4) 語彙を増やす． 1 (5) 語彙を増やす． 2 (6) 語彙を増やす． 3 (7) 文をつなぐ，論理的文章 1 (8) 文をつなぐ，論理的文章 2 (9) 文をつなぐ，論理的文章 3 (10) 文をつなぐ，論理的文章 4 (11) 動詞を使いこなす 1 (12) 動詞を使いこなす 2 (13) 動詞を使いこなす 3 (14) 作文と聞き取り (15) 総まとめ	
到達目標	フランス語構文の使い分けや応用を理解し、正字法にしたがって正しい文章を作成する作文力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業と並行して初級文法の参考書を読む．		
テキスト、参考文献	プリント使用		
評価方法	平常点（発表，宿題など：50％）と期末試験（50％）		

09 年度以降	フランス語Ⅳ（構文）	担当者	竹内 久雄
講義目的、講義概要		授業計画	
1) 学習目標：フランス語についての中級レベルの知識，運用能力を深める．フランス語を様々な視点からとらえる力を養う．(2) 授業概要：中級レベルのフランス語についての知識，運用能力を深める．問題練習としては，構文理解，作文，語彙を増やすこと（派生語，関連語，名詞化などにより），論理的展開を助ける表現の理解などを試みます．クラスの人数によっては聞き取り，書きとりも考えます．必要に応じて，基本文法の復習を行います．		(1) 動詞時制応用 1 (2) 動詞時制応用 2 (3) 動詞時制応用 3 (4) 複文に慣れる 1 (5) 複文に慣れる 2 (6) 複文に慣れる 3 (7) 文をつなぐ，論理的文章・分詞表現 1 (8) 文をつなぐ，論理的文章・分詞表現 2 (9) 文をつなぐ，論理的文章・分詞表現 3 (10) 語彙を増やす(同義語，名詞化など). 1 (11) 語彙を増やす(同義語，名詞化など). 2 (12) 語彙を増やす(同義語，名詞化など). 3 (13) 作文と聞き取り 1 (14) 作文と聞き取り 2 (15) 総まとめ	
到達目標	フランス語構文の使い分けや応用を理解し、正字法にしたがって正しい文章を作成する作文力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業と並行して初級文法の参考書を読む．		
テキスト、参考文献	プリント使用		
評価方法	平常点（発表，宿題など：50％）と期末試験（50％）		

09 年度以降	フランス語Ⅲ（構文）	担当者	藤田 朋久
講義目的、講義概要		授業計画	
1年次に学んだ初級文法の知識をもとに、フランス語で文章を書くために必要な基本的な構文を修得することを目標とする授業です。 下記の教科書を使用し、随時、追加の練習問題を配布します。春学期は、基本5文型とそのヴァリエーション、および受動構文を取り上げます。		1. 授業ガイダンス 2. 第1課：Ça marche. 3. 第2課：Jean est intelligent. 4. 第3課：Jean mange un gâteau. 5. 第4課：Jean donne des fleurs à Anne. 6. 第5課：Jean trouve Anne intelligente. 7. 第1部まとめ 8. 第6課：Elle est contente de toi. 9. 第7課：Je pense à toi. 10. 第8課：Il tient cet homme pour un menteur. 11. 第2部まとめ 12. 第9課：La porte est fermée. 13. 第10課：Il a été élu président. 14. 第3部まとめ 15. 全体のまとめ	
到達目標	フランス語構文の使い分けや応用を理解し、正字法にしたがって正しい文章を作成する作文力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	練習問題を事前に解いて授業に臨んでください。また基本例文を繰り返し復習してください。		
テキスト、参考文献	石野好一『フランス語構文練習帳』第三書房		
評価方法	平常点（10%）、小テスト（10%）、定期試験の成績（80%）を総合して評価します。		

09 年度以降	フランス語Ⅳ（構文）	担当者	藤田 朋久
講義目的、講義概要		授業計画	
1年次に学んだ初級文法の知識をもとに、フランス語で文章を書くために必要な基本的な構文を修得することを目標とする授業です。 下記の教科書を使用し、随時、追加の練習問題を配布します。秋学期は、代名動詞構文、不定詞構文、目的節構文を取り上げます。		1. 授業ガイダンス 2. 第11課：Il se lave 3. 第12課：Elle se lave les mains. 4. 第13課：Vous vous moquez de moi. 5. 第4部まとめ： 6. 第18課：Jean cesse de travailler. 7. 第21課：Elle est prête à partir. 8. 第22課：Jean voit Anne travailler. 9. 第24課：Elle a dit à sa fille de sortir. 10. 第5部・第6部まとめ 11. 第25課：Jean sait que Marie travaille. 12. 第26課：Je sais où vous allez. 13. 第28課：Je suis sûr que Pierre est en forme. 14. 第7部まとめ 15. 全体のまとめ	
到達目標	フランス語構文の使い分けや応用を理解し、正字法にしたがって正しい文章を作成する作文力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	練習問題を事前に解いて授業に臨んでください。また基本例文を繰り返し復習してください。		
テキスト、参考文献	石野好一『フランス語構文練習帳』第三書房		
評価方法	平常点（10％）、小テスト（10％）、定期試験の成績（80％）を総合して評価します。		

09 年度以降	フランス語Ⅲ（構文）	担当者	井上 美穂
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業の目的は、フランス語でよくつかわれる構文を獲得し、使えるようになることです。まず教科書である構文を学習し、練習問題を解きます。次に、共通教科書Totemの文章やビデオを利用して、学習した構文を使って作文を行います。最初の授業からパソコンを使いますので、パソコンにログインできるように準備しておいて下さい。練習問題の解答はすべてワード文書に記入し、そのワード文書をクラス全体でモニターで見ながら添削を加えます。この手法をとることにより、時間の節約ができて、全員の答を順次見ることができます。		第1回 不特定の数の表現 第2回 不特定の量の表現 第3回 数量の近似表現 第4回 人・物の不定名詞表現 第5回 人・物の不定冠詞・形容詞的表現 第6回 ばくぜんとした主語・動作主の表現 第7回 場所の状況表現 第8回 空間の状況表現 第9回 時間の状況表現 第10回 原因・理由の状況表現 第11回 方法・様態の状況表現 第12回 ～のようなもの 第13回 まるで・いわば・ほとんど 第14回 程度の表現「いくらか・少し」 第15回 程度の表現「やや・多少」	
到達目標	フランス語構文の使い分けや応用を理解し、正字法にしたがって正しい文章を作成する作文力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	予習は必要ありません。授業で学習した構文の応用力を身につけるために、復習を行うことが大切です。		
テキスト、参考文献	石野好一「フランス語ニュアンス表現練習帳」第三書房		
評価方法	試験期間に行われるテストの得点で評価を行います。90 点以上が AA、80 点以上が A、70 点以上が B、60 点以上が C、60 点未満は不可になります。		

09 年度以降	フランス語Ⅳ（構文）	担当者	井上 美穂
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業の目的は、フランス語でよくつかわれる構文を獲得し、使えるようになることです。まず教科書である構文を学習し、練習問題を解きます。次に、共通教科書Totemの文章やビデオを利用して、学習した構文を使って作文を行います。最初の授業からパソコンを使いますので、パソコンにログインできるように準備しておいて下さい。練習問題の解答はすべてワード文書に記入し、そのワード文書をクラス全体でモニターで見ながら添削を加えます。この手法をとることにより、時間の節約ができて、全員の答を順次見ることができます。		第1回 程度の表現「半ば・半分」 第2回 程度の表現「まあまあ・なかなか」 第3回 程度の表現「とても・かなり」 第4回 叙法・時制のニュアンス 第5回 「かもしれない」「にちがいない」(1) 第6回 「かもしれない」「にちがいない」(2) 第7回 「たぶん」 第8回 「きっと」 第9回 「思う」 第10回 「ようだ」「そうだ」 第11回 「私としては」「～によれば」 第12回 否定 第13回 二重否定 第14回 依頼 第15回 疑問	
到達目標	フランス語構文の使い分けや応用を理解し、正字法にしたがって正しい文章を作成する作文力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	予習は必要ありません。授業で学習した構文の応用力を身につけるために、復習を行うことが大切です。		
テキスト、参考文献	石野好一「フランス語ニュアンス表現練習帳」第三書房		
評価方法	試験期間に行われるテストの得点で評価を行います。90 点以上が AA、80 点以上が A、70 点以上が B、60 点以上が C、60 点未満は不可になります。		

09 年度以降	フランス語Ⅲ（構文）	担当者	富塚 真理子
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では、1 年次に習得した初級文法の知識を活用し、フランス語で文章を書くために必要な構文を学習します。フランス語の文の構造に重点をおきながら、様々な構文の理解と定着を目標とします。基本的な構文学習のためには、短い単文を書く作文課題から、より複雑で少し長めの複文（関係代名詞の使用、仮定を表す条件法の文、直接話法と間接話法の文）を扱う課題まで、教科書の練習問題を中心に行っていきます。合わせて語彙や慣用句の学習も、授業時間の許す限り実践しますが、まずは、教科書にある沢山の練習課題を優先します。いずれは長文にわたる作文ができるようになるプロセスですので、学習の際には文の構造など自分自身でよく考えることが大切です。従って、毎回の授業には、必ず、予習の上、出席してください。		1. 授業の概要 2. 不特定の数の表現（1） 3. 不特定の数の表現（2） 4. 数量（時間・年齢）の近似表現 5. 人・物の不定名詞表現 6. 人・物の不定冠詞・形容詞的表現 7. 漠然とした主語・動作主の表現 8. 中間試験、諸事検討 9. 場所・空間の状況表現 10. 時間の状況表現 11. 原因・理由の状況表現 12. 方法・様態の状況表現 13. 「～のようなもの」の表現 14. 「まるで・いわば・ほとんど～」の表現 15. 期末試験、諸事検討	
到達目標	フランス語構文の使い分けや応用を理解し、正字法にしたがって正しい文章を作成する作文力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に十分準備しておいてください。		
テキスト、参考文献	テキスト：石野好一『フランス語ニュアンス表現練習帳』（第三書房、2017 年）		
評価方法	定期試験 70%、小テスト 20%、授業での発言 10%		

09 年度以降	フランス語Ⅳ（構文）	担当者	富塚 真理子
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では、1 年次に習得した初級文法の知識を活用し、フランス語で文章を書くために必要な構文を学習します。フランス語の文の構造に重点をおきながら、様々な構文の理解と定着を目標とします。基本的な構文学習のためには、短い単文を書く作文課題から、より複雑で少し長めの複文（関係代名詞の使用、仮定を表す条件法の文、直接話法と間接話法の文）を扱う課題まで、教科書の練習問題を中心に行っていきます。合わせて語彙や慣用句の学習も、授業時間の許す限り実践しますが、まずは、教科書にある沢山の練習課題を優先します。いずれは長文にわたる作文ができるようになるプロセスですので、学習の際には文の構造など自分自身でよく考えることが大切です。従って、毎回の授業には、必ず、予習の上、出席してください。		1. 授業の概要 2. 程度の表現「いくらか・少し・やや・多少」 3. 程度の表現「半ば・半分」 4. 程度の表現「まあまあ・なかなか」 5. 程度の表現「とても・かなり」 6. 叙法・時制のニュアンス 7. 「かもしれない」「～にちがいない」の表現（1） 8. 中間試験、諸事検討 9. 「かもしれない」「～にちがいない」の表現（2） 10. 「たぶん」「きっと」の表現 11. 「思う」「ようだ」「そうだ」の表現 12. 「私としては」「～によれば」の表現 13. 否定・二重否定の表現 14. 依頼・疑問の表現 15. 期末試験、諸事検討	
到達目標	フランス語構文の使い分けや応用を理解し、正字法にしたがって正しい文章を作成する作文力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に十分準備しておいてください。		
テキスト、参考文献	テキスト：石野好一『フランス語ニュアンス表現練習帳』（第三書房、2017 年）		
評価方法	定期試験 70%、小テスト 20%、授業での発言 10%		

09 年度以降	フランス語Ⅲ（構文）	担当者	青木 三郎
講義目的、講義概要		授業計画	
目的 この授業では1年次に習得した初級文法の知識を基礎にして、フランス語で文章を書くために必要な構文の理解と定着を目的とします。必要に応じて1年生で学習した文法項目について復習しながら、フランス語の文の構造を学習することに重点をおきます。 概要 基本的な構文学習のために、短い単文を書く練習を行います。授業では受講生自身が辞書を調べ（どの語や表現が適切か自分自身で判断して）、実際に単語をつなげて文にしていく過程を通して、フランス語の構文の基礎を身に着けるようにします。		1. フランス語構文の基礎（総論） 2. 動詞の活用 3. フランス語の自動詞文 4. フランス語の自動詞文 5. フランス語の直接他動詞文 6. フランス語の間接他動詞文 7. 主語の種類 8. 目的語の種類（直接目的語） 9. 目的語の種類（間接目的語） 10. 状況補語の種類 11. 状況補語の表現法 12. 疑問文の特徴 13. 感嘆文の特徴 14. 否定文の特徴 15. まとめ	
到達目標	フランス語構文の使い分けや応用を理解し、正字法にしたがって正しい文章を作成する作文力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	予定される単元のコラムを読み（事前学習）、授業で学んだ単元を徹底的に復習する（事後学習）。		
テキスト、参考文献	倉方秀憲 Nouvelle grammaire systématique du français 早美出版社		
評価方法	1）授業の参加度（質問・議論）35％（2）課題に対する復習度 35％ （3）試験（期末試験、月次）30％		

09 年度以降	フランス語Ⅳ（構文）	担当者	青木 三郎
講義目的、講義概要		授業計画	
目的 この授業では、フランス語Ⅲに引き続き、1 年次に習得した初級文法の知識を基礎にして、フランス語で文章を書くために必要な構文を学習し、様々な構文の理解と定着を目的とします。3 年生で行われる文章表現の授業につなげるための準備段階の授業として、随時、必要に応じて1 年生で学習した文法項目について復習しながら、フランス語の文の構造を学習することに重点をおきます。 概要 秋学期では、基本的な構文力を定着させるために、より複雑で少し長めの構文（関係代名詞の使用、仮定を表す条件法の文、直接話法と間接話法、等）練習をとりいれます		1. フランス語構文の基礎（複文） 2. 文の接続（等位接続詞） 3. 文の接続（従属接続詞） 4. 文の接続（接続副詞） 5. 文の接続（並置） 6. 関係代名詞と関係節 7. 関係代名詞と関係節 8. 状況補語（原因） 9. 状況補語（方法） 10. 状況補語（仮定） 11. 状況補語（譲歩） 12. 直接・間接話法 13. テキストの種類 14. 物語と論述文 15. まとめ	
到達目標	フランス語構文の使い分けや応用を理解し、正字法にしたがって正しい文章を作成する作文力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	予定される単元のコラムを読み（事前学習）、授業で学んだ単元を徹底的に復習する（事後学習）。		
テキスト、参考文献	倉方秀憲 Nouvelle grammaire systématique du français 早美出版社		
評価方法	1）授業の参加度（質問・議論）35％（2）課題に対する復習度 35％（3）試験（期末試験、月次）30％		

09 年度以降	フランス芸術文化入門Ⅰ	担当者	根木 昭英																														
講義目的、講義概要		授業計画																															
この授業は、フランスの芸術文化に関する基礎知識の習得、そして3・4年の専門科目への導入を目的としています。 春学期は、文学や詩、マスメディアについて学びます。これらの分野はばらばらに存在しているわけではなく、必ずどこかで関連しあい、つながりあっています。全講義を通じて、それぞれのトピックスがどのようにして現在のフランスを形作っているのかを考えるようにしてください。 この科目はフランス語学科の基礎科目になっているので、授業はフランス語学科の学生を念頭において行われます。他学科の学生もこの授業を履修できますが、そのことを了承したうえで受講するようにしてください。 初回の授業に詳細を説明しますので、必ず出席してください。		<table><tr><td>1. ガイダンス</td><td>(根木昭英)</td></tr><tr><td>2. 図書館セミナー</td><td></td></tr><tr><td>3. 大衆文学 1</td><td>(筒井伸保)</td></tr><tr><td>4. 大衆文学 2</td><td>(筒井伸保)</td></tr><tr><td>5. 大衆文学 3</td><td>(筒井伸保)</td></tr><tr><td>6. メディア 1</td><td>(野澤丈二)</td></tr><tr><td>7. メディア 2</td><td>(野澤丈二)</td></tr><tr><td>8. メディア 3</td><td>(野澤丈二)</td></tr><tr><td>9. 20世紀文学 1</td><td>(谷口亜沙子)</td></tr><tr><td>10. 20世紀文学 2</td><td>(谷口亜沙子)</td></tr><tr><td>11. 20世紀文学 3</td><td>(谷口亜沙子)</td></tr><tr><td>12. フランスの詩 1</td><td>(湯浅博雄)</td></tr><tr><td>13. フランスの詩 2</td><td>(湯浅博雄)</td></tr><tr><td>14. まとめ 1</td><td>(根木昭英)</td></tr><tr><td>15. まとめ 2</td><td>(根木昭英)</td></tr></table>		1. ガイダンス	(根木昭英)	2. 図書館セミナー		3. 大衆文学 1	(筒井伸保)	4. 大衆文学 2	(筒井伸保)	5. 大衆文学 3	(筒井伸保)	6. メディア 1	(野澤丈二)	7. メディア 2	(野澤丈二)	8. メディア 3	(野澤丈二)	9. 20世紀文学 1	(谷口亜沙子)	10. 20世紀文学 2	(谷口亜沙子)	11. 20世紀文学 3	(谷口亜沙子)	12. フランスの詩 1	(湯浅博雄)	13. フランスの詩 2	(湯浅博雄)	14. まとめ 1	(根木昭英)	15. まとめ 2	(根木昭英)
1. ガイダンス	(根木昭英)																																
2. 図書館セミナー																																	
3. 大衆文学 1	(筒井伸保)																																
4. 大衆文学 2	(筒井伸保)																																
5. 大衆文学 3	(筒井伸保)																																
6. メディア 1	(野澤丈二)																																
7. メディア 2	(野澤丈二)																																
8. メディア 3	(野澤丈二)																																
9. 20世紀文学 1	(谷口亜沙子)																																
10. 20世紀文学 2	(谷口亜沙子)																																
11. 20世紀文学 3	(谷口亜沙子)																																
12. フランスの詩 1	(湯浅博雄)																																
13. フランスの詩 2	(湯浅博雄)																																
14. まとめ 1	(根木昭英)																																
15. まとめ 2	(根木昭英)																																
到達目標	フランスの芸術・文化（文学・言語・音楽・思想・美術など）に関する基礎的な知識を習得し、鑑賞・批評できるようにする。																																
事前・事後学修の内容	授業中に紹介される作品の中から、自分自身が特に気になるものを見つけ、実際に触れてみること。																																
テキスト、参考文献	それぞれの授業担当者から授業内で直接指示があります。																																
評価方法	各教員の課した小テストまたはコメントペーパーによって評価します。（100％）																																

09 年以降	フランス芸術文化入門Ⅱ	担当者	根木 昭英
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的は上記を参照してください。 秋学期にはフランスの食文化、思想、美術、ファッション等を学んでゆきます。1年生を主な対象者とするので、翻訳の抜粋や映像資料などを活用し、フランスの文化に親しむための導入となることを目的としています。 この科目はフランス語学科の基礎科目になっているので、授業はフランス語学科の学生を念頭において行われます。他 学科の学生もこの授業を履修できますが、そのことを了承 したうえで受講するようにしてください		1. ガイダンス (根木昭英) 2. フランスの食文化 1 (江花輝昭) 3. フランスの食文化 2 (江花輝昭) 4. フランスの食文化 3 (江花輝昭) 5. 公開授業 (外部講師) 6. フランスの思想 1 (根木昭英) 7. フランスの思想 2 (根木昭英) 8. フランスの思想 3 (根木昭英) 9. フランスの美術 1 (阿部明日香) 10. フランスの美術 2 (阿部明日香) 11. フランスの美術 3 (阿部明日香) 12. シャンソンに学ぶ (若森栄樹) 13. ファッション (福田美雪) 14. まとめ 1 (根木昭英) 15. まとめ 2 (根木昭英)	
到達目標	フランスの芸術・文化（文学・言語・音楽・思想・美術など）に関する基礎的な知識を習得し、鑑賞・批評できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業中に紹介される作品の中から、自分自身が特に気になるものを見つけ、実際に触れてみること。		
テキスト、参考文献	それぞれの授業担当者から授業内で直接指示があります。		
評価方法	各教員が課した小テストまたはコメントペーパーによって評価します。（100％）		

09 年度以降	フランス現代社会入門 I	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
現代フランス社会を理解するために必要な基礎知識を習得し、分析および見解の提示ができるようにすることを目指します。 授業は、複数の教員によるオムニバス形式で行い、春学期はフランスの歴史を通史で確認したうえで、フランコフォニー、教育などのテーマを学びます。 この科目はフランス語学科の基礎科目になっているので、授業はフランス語学科の学生を念頭において行われます。他学科の学生もこの授業を履修できますが、そのことを了承したうえで受講するようにしてください。 初回の授業に詳細を説明しますので、必ず出席してください。		1. ガイダンス (廣田愛理) 2. フランスの歴史：古代～近世 1 (藤田朋久) 3. フランスの歴史：古代～近世 2 (藤田朋久) 4. フランスの歴史：古代～近世 3 (藤田朋久) 5. フランスの歴史：近代 1 (福田美雪) 6. フランスの歴史：近代 2 (福田美雪) 7. フランスの歴史：現代 1 (廣田愛理) 8. フランスの歴史：現代 2 (廣田愛理) 9. フランコフォニー 1 (ヴァネ・フィリップ) 10. フランコフォニー 2 (ヴァネ・フィリップ) 11. 世界遺産を通じて知るフランス (鈴木隆) 12. 公開授業 (外部講師) 13. フランスの教育と生活 1 (中村公子) 14. フランスの教育と生活 2 (中村公子) 15. まとめ (廣田愛理)	
到達目標	フランスの現代社会（地域、歴史、政治経済、教育など）に関する基礎的な知識を習得し、分析および見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に事典などを活用して、各講義の主題に関するある程度の知識を得ておくことが望まれます。事後には、講義で学んだ知識を後の専門的学習の基礎として修得できたか自ら確認してください。		
テキスト、参考文献	それぞれの授業担当者から授業内で直接指示があります。		
評価方法	各教員の課した小テストまたはコメントペーパーによって評価します。（100%）		

09 年度以降	フランス現代社会入門Ⅱ	担当者	廣田 愛理																														
講義目的、講義概要		授業計画																															
講義目的は春学期を参照してください。 秋学期はフランスの政治経済、パリ、祝祭などの様々なテーマを取り上げます。 この科目はフランス語学科の基礎科目になっているので、授業はフランス語学科の学生を念頭において行われます。他学科の学生もこの授業を履修できますが、そのことを了承したうえで受講するようにしてください。		<table><tr><td>1. ガイダンス</td><td>(廣田愛理)</td></tr><tr><td>2. フランスの経済 1</td><td>(廣田愛理)</td></tr><tr><td>3. フランスの経済 2</td><td>(廣田愛理)</td></tr><tr><td>4. フランスの政治 1</td><td>(尾玉剛士)</td></tr><tr><td>5. フランスの政治 2</td><td>(尾玉剛士)</td></tr><tr><td>6. パリ 1</td><td>(横地卓哉)</td></tr><tr><td>7. パリ 2</td><td>(横地卓哉)</td></tr><tr><td>8. フランス語学入門 1</td><td>(田中善英)</td></tr><tr><td>9. フランス語学入門 2</td><td>(田中善英)</td></tr><tr><td>10. フランスの祝祭 1</td><td>(小石悟)</td></tr><tr><td>11. フランスの祝祭 2</td><td>(小石悟)</td></tr><tr><td>12. フランスの地域 1</td><td>(尾玉剛士)</td></tr><tr><td>13. フランスの地域 2</td><td>(尾玉剛士)</td></tr><tr><td>14. フランスの地方都市の日常生活</td><td>(水林ミシェル)</td></tr><tr><td>15. まとめ</td><td>(廣田愛理)</td></tr></table>		1. ガイダンス	(廣田愛理)	2. フランスの経済 1	(廣田愛理)	3. フランスの経済 2	(廣田愛理)	4. フランスの政治 1	(尾玉剛士)	5. フランスの政治 2	(尾玉剛士)	6. パリ 1	(横地卓哉)	7. パリ 2	(横地卓哉)	8. フランス語学入門 1	(田中善英)	9. フランス語学入門 2	(田中善英)	10. フランスの祝祭 1	(小石悟)	11. フランスの祝祭 2	(小石悟)	12. フランスの地域 1	(尾玉剛士)	13. フランスの地域 2	(尾玉剛士)	14. フランスの地方都市の日常生活	(水林ミシェル)	15. まとめ	(廣田愛理)
1. ガイダンス	(廣田愛理)																																
2. フランスの経済 1	(廣田愛理)																																
3. フランスの経済 2	(廣田愛理)																																
4. フランスの政治 1	(尾玉剛士)																																
5. フランスの政治 2	(尾玉剛士)																																
6. パリ 1	(横地卓哉)																																
7. パリ 2	(横地卓哉)																																
8. フランス語学入門 1	(田中善英)																																
9. フランス語学入門 2	(田中善英)																																
10. フランスの祝祭 1	(小石悟)																																
11. フランスの祝祭 2	(小石悟)																																
12. フランスの地域 1	(尾玉剛士)																																
13. フランスの地域 2	(尾玉剛士)																																
14. フランスの地方都市の日常生活	(水林ミシェル)																																
15. まとめ	(廣田愛理)																																
到達目標	フランスの現代社会（地域、歴史、政治経済、教育など）に関する基礎的な知識を習得し、分析および見解を提示できるようにする。																																
事前・事後学修の内容	事前に事典などを活用して、各講義の主題に関するある程度の知識を得ておくことが望まれます。事後には、講義で学んだ知識を後の専門的学習の基礎として修得できたか自ら確認してください。																																
テキスト、参考文献	それぞれの授業担当者から授業内で直接指示があります。																																
評価方法	各教員の課した小テストまたはコメントペーパーによって評価します。（100%）																																

09 年度以降	総合フランス語 I	担当者	各担当教員																																																
講義目的、講義概要		授業計画																																																	
Le but de ce cours est d'approfondir la connaissance de la langue française aussi bien sur le plan grammatical que lexical. Il prend la suite des cours de Sogo des premières années mais il n'a lieu qu'une fois par semaine avec un enseignant francophone. Vous devez donc travailler personnellement à la maison et préparer à l'avance. Le groupe 3-1 utilise <i>Totem 3</i> à partir de la leçon 1 ; les groups 2,3,4 et 5 : <i>Amical 2</i> à partir de l'unité 3. On insistera surtout sur la compréhension à l'écrit et à l'oral et sur l'expression écrite. Attention au numéro de votre groupe : il est différent de celui de l'année dernière.		<table><tr><td></td><td><i>Amical 2</i></td><td><i>Totem 3</i></td></tr><tr><td>1.</td><td>Unité 3-Leçon 9</td><td>Leçon 1</td></tr><tr><td>2.</td><td>Unité 3-Leçon 9</td><td>Leçon 2</td></tr><tr><td>3.</td><td>Unité 3-Leçon 10</td><td>Leçon 3</td></tr><tr><td>4.</td><td>Unité 3-Leçon 10</td><td>Leçon 4</td></tr><tr><td>5.</td><td>Unité 3-Leçon 11</td><td>Leçon 5</td></tr><tr><td>6.</td><td>Unité 3-Leçon 11</td><td>Leçon 6</td></tr><tr><td>7.</td><td>Unité 3-Leçon 12</td><td>Leçon 7</td></tr><tr><td>8.</td><td>Unité 3-Leçon 12</td><td>Leçon 8</td></tr><tr><td>9.</td><td>Unité 4-Leçon 13</td><td>Leçon 9</td></tr><tr><td>10.</td><td>Unité 4-Leçon 13</td><td>Leçon 10</td></tr><tr><td>11.</td><td>Unité 4-Leçon 14</td><td>Leçon 11</td></tr><tr><td>12.</td><td>Unité 4-Leçon 14</td><td>Leçon 12</td></tr><tr><td>13.</td><td>Unité 4-Leçon 15</td><td>Révision</td></tr><tr><td>14.</td><td>Unité 4-Leçon 15</td><td>Révision</td></tr><tr><td>15.</td><td>Révision</td><td>Révision</td></tr></table> ※原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少の差があります。			<i>Amical 2</i>	<i>Totem 3</i>	1.	Unité 3-Leçon 9	Leçon 1	2.	Unité 3-Leçon 9	Leçon 2	3.	Unité 3-Leçon 10	Leçon 3	4.	Unité 3-Leçon 10	Leçon 4	5.	Unité 3-Leçon 11	Leçon 5	6.	Unité 3-Leçon 11	Leçon 6	7.	Unité 3-Leçon 12	Leçon 7	8.	Unité 3-Leçon 12	Leçon 8	9.	Unité 4-Leçon 13	Leçon 9	10.	Unité 4-Leçon 13	Leçon 10	11.	Unité 4-Leçon 14	Leçon 11	12.	Unité 4-Leçon 14	Leçon 12	13.	Unité 4-Leçon 15	Révision	14.	Unité 4-Leçon 15	Révision	15.	Révision	Révision
	<i>Amical 2</i>	<i>Totem 3</i>																																																	
1.	Unité 3-Leçon 9	Leçon 1																																																	
2.	Unité 3-Leçon 9	Leçon 2																																																	
3.	Unité 3-Leçon 10	Leçon 3																																																	
4.	Unité 3-Leçon 10	Leçon 4																																																	
5.	Unité 3-Leçon 11	Leçon 5																																																	
6.	Unité 3-Leçon 11	Leçon 6																																																	
7.	Unité 3-Leçon 12	Leçon 7																																																	
8.	Unité 3-Leçon 12	Leçon 8																																																	
9.	Unité 4-Leçon 13	Leçon 9																																																	
10.	Unité 4-Leçon 13	Leçon 10																																																	
11.	Unité 4-Leçon 14	Leçon 11																																																	
12.	Unité 4-Leçon 14	Leçon 12																																																	
13.	Unité 4-Leçon 15	Révision																																																	
14.	Unité 4-Leçon 15	Révision																																																	
15.	Révision	Révision																																																	
到達目標	習得した文法、語彙、文語・口語表現、構文などを用いて日常生活の様々なテーマについて論理的な表現ができ、また、フランス語母語者との間で一般的な会話や議論ができることといった、総合的なフランス語運用ができるようにする。																																																		
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。																																																		
テキスト、参考文献	未修クラス : Amical 2 既修クラス : Totem 3																																																		
評価方法	平常点、学期末試験（担当教員から指示があります）。																																																		

09 年度以降	総合フランス語Ⅱ	担当者	各担当教員																																																
講義目的、講義概要		授業計画																																																	
Le but de ce cours est d'approfondir la connaissance de la langue française aussi bien sur le plan grammatical que lexical. Il prend la suite des cours de Sogo des premières années mais il n'a lieu qu'une fois par semaine avec un enseignant francophone. Vous devez donc travailler personnellement à la maison et préparer à l'avance. Le groupe 3-1 utilise <i>Totem 3</i> à partir de la leçon 1 ; les groups 2,3,4 et 5 : <i>Amical 2</i> à partir de l'unité 3. On insistera surtout sur la compréhension à l'écrit et à l'oral et sur l'expression écrite. Attention au numéro de votre groupe : il est différent de celui de l'année dernière.		<table><tr><td></td><td><i>Amical 2</i></td><td><i>Totem 3</i></td></tr><tr><td>1.</td><td>Unité 4-Leçon 16</td><td>Leçon 13</td></tr><tr><td>2.</td><td>Unité 4-Leçon 16</td><td>Leçon 14</td></tr><tr><td>3.</td><td>Unité 5-Leçon 17</td><td>Leçon 15</td></tr><tr><td>4.</td><td>Unité 5-Leçon 17</td><td>Leçon 16</td></tr><tr><td>5.</td><td>Unité 5-Leçon 18</td><td>Leçon 17</td></tr><tr><td>6.</td><td>Unité 5-Leçon 18</td><td>Leçon 18</td></tr><tr><td>7.</td><td>Unité 5-Leçon 19</td><td>Leçon 19</td></tr><tr><td>8.</td><td>Unité 5-Leçon 19</td><td>Leçon 20</td></tr><tr><td>9.</td><td>Unité 5-Leçon 20</td><td>Leçon 21</td></tr><tr><td>10.</td><td>Unité 5-Leçon 20</td><td>Leçon 22</td></tr><tr><td>11.</td><td>Unité 6-Leçon 21</td><td>Leçon 23</td></tr><tr><td>12.</td><td>Unité 6-Leçon 21</td><td>Leçon 24</td></tr><tr><td>13.</td><td>Unité 6-Leçon 21</td><td>Révision</td></tr><tr><td>14.</td><td>Unité 6-Leçon 21</td><td>Révision</td></tr><tr><td>15.</td><td>Révision</td><td>Révision</td></tr></table> ※原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少の差があります。			<i>Amical 2</i>	<i>Totem 3</i>	1.	Unité 4-Leçon 16	Leçon 13	2.	Unité 4-Leçon 16	Leçon 14	3.	Unité 5-Leçon 17	Leçon 15	4.	Unité 5-Leçon 17	Leçon 16	5.	Unité 5-Leçon 18	Leçon 17	6.	Unité 5-Leçon 18	Leçon 18	7.	Unité 5-Leçon 19	Leçon 19	8.	Unité 5-Leçon 19	Leçon 20	9.	Unité 5-Leçon 20	Leçon 21	10.	Unité 5-Leçon 20	Leçon 22	11.	Unité 6-Leçon 21	Leçon 23	12.	Unité 6-Leçon 21	Leçon 24	13.	Unité 6-Leçon 21	Révision	14.	Unité 6-Leçon 21	Révision	15.	Révision	Révision
	<i>Amical 2</i>	<i>Totem 3</i>																																																	
1.	Unité 4-Leçon 16	Leçon 13																																																	
2.	Unité 4-Leçon 16	Leçon 14																																																	
3.	Unité 5-Leçon 17	Leçon 15																																																	
4.	Unité 5-Leçon 17	Leçon 16																																																	
5.	Unité 5-Leçon 18	Leçon 17																																																	
6.	Unité 5-Leçon 18	Leçon 18																																																	
7.	Unité 5-Leçon 19	Leçon 19																																																	
8.	Unité 5-Leçon 19	Leçon 20																																																	
9.	Unité 5-Leçon 20	Leçon 21																																																	
10.	Unité 5-Leçon 20	Leçon 22																																																	
11.	Unité 6-Leçon 21	Leçon 23																																																	
12.	Unité 6-Leçon 21	Leçon 24																																																	
13.	Unité 6-Leçon 21	Révision																																																	
14.	Unité 6-Leçon 21	Révision																																																	
15.	Révision	Révision																																																	
到達目標	習得した文法、語彙、文語・口語表現、構文などを用いて日常生活の様々なテーマについて論理的な表現ができ、また、フランス語母語者との間で一般的な会話や議論ができることといった、総合的なフランス語運用ができるようにする。																																																		
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。																																																		
テキスト、参考文献	未修クラス：Amical 2 既修クラス：Totem 3																																																		
評価方法	平常点、学期末試験（担当教員から指示があります）。																																																		

09 年度以降	フランス語文章表現法 I	担当者	P h. ヴァネ
講義目的、講義概要		授業計画	
Au temps des smartphones et d'internet, écrire est toujours un moyen de communication et un moyen d'approfondir ses idées et sentiments. Dans ce but, on utilise des règles de logique à découvrir en classe. Ce cours ne durera qu'un semestre et nous travaillerons plus spécialement sur le problème du plan : comment en faire un? Comment écrire une introduction? une conclusion? - À chaque cours, écrire un petit message de la forme Tweet. - Chaque étudiant écrit librement une composition. Ce « grand devoir » est rendu 3 fois. Au cours des deux premières fois, j'indique les endroits à modifier. Après la troisième rédaction, je propose une correction possible.		1. Présentation 2. Initiation à la logique d'un texte. 3. Comment lire et comprendre un sujet de devoir. 4-6. Comment rechercher des idées. (5. 1ère version du grand devoir) 7-8. Comment construire un plan. (8. 2e version du grand devoir) 9-11. Étude de différents types de plans. 12-13. Étude de différents types d'introduction. (12. 3e version du grand devoir) 14. Comment conclure ? 15. Commentaires sur la version finale du « grand devoir ».	
到達目標	フランス語の文法、語彙、表現の基礎知識を応用して、豊富な文章表現ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Écrire un petit message (format tweet), préparer les exercices, faire 3 fois le « grand devoir ».		
テキスト、参考文献	Photocopies. Avoir si possible un dictionnaire français-français, par exemple le <i>Larousse</i> de poche 2017		
評価方法	La 3e version du « grand devoir » est notée.		

09 年度以降	フランス語文章表現法 I	担当者	C h . ペリセロ
講義目的、講義概要		授業計画	
Objectifs : ・ S'habituer à écrire en français de courts textes. (PE) ・ S'entraîner à la compréhension écrite (C.E) ・ Pratiquer la grammaire((GR) ・ Faire acquérir du vocabulaire. (V) ・ Dictées. (D) Contenu: Ce cours s'adresse aux étudiants qui souhaitent améliorer leur capacité à écrire, augmenter leur vocabulaire et améliorer leurs connaissances en grammaire dans des activités simples et créatives.		1. Présentation du cours et écriture libre. 2. CE, GR, V, D: l'auto-portrait 3. PE : Faire son auto-portrait. 4. CE, GR, V, D: les activités quotidiennes. 5. PE: les activités quotidiennes. 6. CE, GR, V, D : le passé composé/imparfait 7. PE: Ecrire une histoire à partir d'images. (1) 8. PE : Ecrire une histoire à partir d'images (2) 9. CE, GR, V, D: le conditionnel 10. PE :Ecrire son “portrait chinois”.(1) 11. PE :Ecrire son “portrait chinois” (2) 12. CE, GR, V, D : le futur 13. PE : Ma vie après l'université.(1) 14. PE : Ma vie après l'université.(1) 15. Remise et corrections des devoirs.	
到達目標	フランス語の文法、語彙、表現の基礎知識を応用して、豊富な文章表現ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Auto-correction des erreurs simples/ écrire des phrases avec le vocabulaire nouveau.		
テキスト、参考文献	Travail en groupe et/ou seul/ Corrigé pour chaque exercice/Photocopies/ apporter un dictionnaire français/japonais		
評価方法	Contrôle continu.Participation régulière aux cours souhaitées. Deux devoirs à remettre.		

09 年度以降	フランス語文章表現法Ⅱ	担当者	C h . ペリセロ
講義目的、講義概要		授業計画	
Objectifs : ・ S'habituer à écrire en français de courts textes. (PE) ・ S'entraîner à la compréhension écrite (C.E) ・ Pratiquer la grammaire((GR) ・ Faire acquérir du vocabulaire. (V) ・ Dictées. (D) Contenu: Ce cours s'adresse aux étudiants qui souhaitent améliorer leur capacité à écrire, augmenter leur vocabulaire et améliorer leurs connaissances en grammaire dans des activités simples et créatives.		1. Présentation du cours et écriture libre. 2. CE, GR, V, D: qui, que, où. 3. PE : decire un lieu. 4. CE, GR, V, D: la quantité 5. PE: rédiger une recette. 6. CE, GR, V, D : donner son opinion 7. PE: Ecrire un court article. (1) 8. Film : visionnage d'un film 9. PE: Ecrire un court article sur ce film. (2) 10. CE, GR, V, D: le subjonctif 11. PE : Ecrire une liste de conseils 12. CE, GR, V, D : les adjectifs 13. PE : rédiger la presentation d'un tableau. (1) 14. PE : rédiger la presentation d'un tableau. (2) 15. Remise et corrections des devoirs.	
到達目標	フランス語の文法、語彙、表現の基礎知識を応用して、豊富な文章表現ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Auto-correction des erreurs simples/ écrire des phrases avec le vocabulaire nouveau.		
テキスト、参考文献	Corrigé pour chaque exercice/Photocopies/ apporter un dictionnaire français/japonais		
評価方法	Contrôle continu. Participation régulière aux cours souhaitées. Deux devoirs à remettre.		

09 年度以降	フランス語文章表現法 I	担当者	M. ミズバヤシ
講義目的、講義概要		授業計画	
Commencer à écrire en français de petits textes portant sur des sujets divers. Contenu du cours : Ce cours s'adresse tout particulièrement aux étudiants qui souhaitent revoir les points grammaticaux de base. Tout au long de l'année, je proposerai aux étudiants des exercices diversifiés qui, en fin de parcours, leur permettront de rédiger avec un certain plaisir de petits textes en français. Le principe consistera à partir du plus simple pour aller vers des choses un peu plus compliquées. Pour commencer notre séance d'écriture hebdomadaire nous prendrons l'habitude d'écrire ce qui nous passe par la tête en 2 ou 3 phrases et en toute spontanéité.		1. Présentation du cours 2. Se presenter par écrit 3. Présenter sa famille 4. Ecrire sur son quartier 5. Ecrire sur sa ville natale 6. Ecrire à un(e) ami(e) pour être hébergé 7. Ecrire sur un souvenir d'enfance 8. Ecrire sur un souvenir d'enfance 9. Ecrire sur un livre qu'on a aimé 10. Ecrire sur un livre qu'on a aimé 11. Ecrire sur un film qu'on a aimé 12. Ecrire sur un film qu'on a aimé 13. Ecrire pour refuser un petit boulot 14. Ecrire pour refuser un petit boulot 15. Bilan	
到達目標	フランス語の文法、語彙、表現の基礎知識を応用して、豊富な文章表現ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Ecrire encore une fois le texte corrigé.		
テキスト、参考文献	Photocopies Apporter un dictionnaire FRANÇAIS		
評価方法	Contrôle continu. Un test à la fin du premier semestre. Participation régulière aux cours souhaitée		

09 年度以降	フランス語文章表現法Ⅱ	担当者	M. ミズバヤシ
講義目的、講義概要		授業計画	
Objectif : Commencer à écrire en français de petits textes portant sur des sujets divers. Contenu du cours : Ce cours s'adresse tout particulièrement aux étudiants qui souhaitent revoir les points grammaticaux de base. Tout au long de l'année, je proposerai aux étudiants des exercices diversifiés qui, en fin de parcours, leur permettront de rédiger avec un certain plaisir de petits textes en français. Le principe consistera à partir du plus simple pour aller vers des choses un peu plus compliquées. Pour commencer notre séance d'écriture hebdomadaire nous prendrons l'habitude d'écrire ce qui nous passe par la tête en 2 ou 3 phrases et en toute spontanéité.		1. Mise en train. Ecriture en toute liberté 2. Ecrire sur un travail que j'aimerais faire 3. Ecrire sur un travail que j'aimerais faire 4. Ecrire sur un pays où j'aimerais vivre 5. Ecrire sur un pays où j'aimerais vivre 6. Ecrire sur l'utilité des compétitions sportives internationales 7. Ecrire sur l'utilité des compétitions sportives internationales 8. Quel enfant j'étais ? 9. Quel enfant j'étais ? 10. Rêver : ma vie dans 10 ans 11. Rêver : ma vie dans 10 ans 12. Mon école idéale 13. Mon université idéale 14. Ecrire une histoire d'amour 15. Bilan	
到達目標	フランス語の文法、語彙、表現の基礎知識を応用して、豊富な文章表現ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Ecrire encore une fois le texte corrigé.		
テキスト、参考文献	Photocopies Apporter un dictionnaire FRANÇAIS		
評価方法	Contrôle continu. Un test à la fin du premier semestre. Participation régulière aux cours souhaitée.		

09 年度以降	フランス語文章表現法 I	担当者	山崎 夏絵
講義目的、講義概要		授業計画	
自分の言いたいことをフランス語で表現するためには、文法知識の他に、語彙や表現に関する知識が必要になります。この授業では、まずそれぞれのテーマに即したフランス語の文章を読みながら、文法、語彙、表現を学びます。その後で、学んだ事を応用して実際に文章を書いていきます。		1. ガイダンス 2. 自分や他人について表現する (1) 3. 自分や他人について表現する (2) 4. 依頼する (1) 5. 依頼する (2) 6. 依頼する (3) 7. 通知する (1) 8. 通知する (2) 9. 通知する (3) 10. 招待する (1) 11. 招待する (2) 12. 招待する (3) 13. 祝う (1) 14. 祝う (2) 15. 祝う (3)	
到達目標	フランス語の文法、語彙、表現の基礎知識を応用して、豊富な文章表現ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に配布するプリントを精読しておくこと。		
テキスト、参考文献	プリント。仏和辞典と和仏辞典（仏和辞典の付録では不十分です）		
評価方法	学期末試験(70%)と授業への参加度(30%)		

09 年度以降	フランス語文章表現法Ⅱ	担当者	山崎 夏絵
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に同じ。		1. ガイダンス 2. 誘う（1） 3. 誘う（2） 4. 誘う（3） 5. 承諾する（1） 6. 承諾する（2） 7. 断る（1） 8. 断る（2） 9. 断る（3） 10. 問い合わせをする（1） 11. 問い合わせをする（2） 12. 問い合わせをする（3） 13. 自分の意見を述べる（1） 14. 自分の意見を述べる（2） 15. 自分の意見を述べる（3）	
到達目標	フランス語の文法、語彙、表現の基礎知識を応用して、豊富な文章表現ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に配布するプリントを精読しておくこと。		
テキスト、参考文献	プリント。仏和辞典と和仏辞典（仏和辞典の付録では不十分です）		
評価方法	学期末試験(70%)と授業への参加度(30%)		

09 年度以降	フランス語文章表現法 I	担当者	C. ラビニャス
講義目的、講義概要		授業計画	
Ce cours d'expression écrite a différents objectifs : 1. s'exprimer dans des situations réelles et concrètes 2. comprendre et analyser des documents écrits 3. apprendre à construire une argumentation 4. revoir la grammaire, enrichir son vocabulaire En observant différents types d'écrits, vous apprendrez à : - vous présenter - proposer, accepter et refuser une invitation - faire une réservation - écrire une carte postale - rédiger un e-mail - etc.		1. Se présenter 2. Donner des renseignements sur soi 3. Proposer / inviter 4. Annoncer un événement 5. Accepter / refuser une invitation 6. Remercier / s'excuser 7. Bilan des leçons 1 à 6 8. Féliciter 9. Écrire une carte postale 10. Faire une réservation / faire une demande polie 11. Répondre à une proposition 12. Rédiger un message pour donner des instructions 13. Rédiger des consignes, donner des directions 14. Bilan des leçons 7 à 12 15. Echange interculturel	
到達目標	フランス語の文法、語彙、表現の基礎知識を応用して、豊富な文章表現ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題（短い文作）を解いて次回に提出してください。レッスンはフランス語で行われる。		
テキスト、参考文献	Entre les lignes (manuel de compréhension et d'expression écrites) – Livre 1 アシェット・ジャポン, ISBN : 978-4-907970-06-2		
評価方法	定期試験 40%、宿題 : 40%、積極的な参加 : 20%		

09 年度以降	フランス語文章表現法Ⅱ	担当者	C. ラビニャス
講義目的、講義概要		授業計画	
Ce cours d'expression écrite a différents objectifs : 1. s'exprimer dans des situations réelles et concrètes 2. comprendre et analyser des documents écrits 3. apprendre à construire une argumentation 4. revoir la grammaire, enrichir son vocabulaire 5. rédiger des emails formels En observant différents types d'écrits, vous apprendrez à rédiger des textes plus élaborés qu'au semestre précédent. Vous produirez des textes descriptifs, argumentatifs, littéraires, imaginaires, etc.		1. Faire une description physique 2. Faire une description psychologique 3. Raconter un événement passé (1) 4. Raconter un événement passé (2) 5. Rédiger une lettre formelle (1) 6. Rédiger une lettre formelle (2) 7. Bilan des leçons 1 à 6 8. Rédiger un texte argumentatif (1) 9. Faire une comparaison 10. Rédiger un texte argumentatif (2) 11. Exprimer son opinion 12. Rédiger un texte imaginaire (1) 13. Rédiger un texte imaginaire (2) 14. Bilan des leçons 7 à 12 15. Echange interculturel	
到達目標	フランス語の文法、語彙、表現の基礎知識を応用して、豊富な文章表現ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題（短い文作）を解いて次回に提出してください。レッスンはフランス語で行われる		
テキスト、参考文献	Entre les lignes (manuel de compréhension et d'expression écrites) – Livre 2 アシェット・ジャポン, ISBN : 978-4-907970-08-6		
評価方法	定期試験 40%、宿題 : 40%、積極的な参加 : 20%		

09 年度以降	フランス語文章表現法 I	担当者	小石 悟
講義目的、講義概要		授業計画	
作文が上達するためには、書いたものを訂正してもらって自分の間違いに気づくしかありません。この授業では、各人が書いてきた文をもとにして、どうすればもっと言いたいことを伝えられる文になるかを全員で考え、その過程で不足している文法事項、語彙などを徐々に身に付けることを目指します。テキストは、単行本「まっかなほん」とシリーズから面白そうな箇所を抜粋して訳していきます。		第1回：ガイダンス 第2回：「フランス人のまっかなほん」 1 第3回：「フランス人のまっかなほん」 2 第4回：「フランス人のまっかなほん」 3 第5回：「フランス人のまっかなほん」 4 第6回：「フランス人のまっかなほん」 5 第7回：「フランス人のまっかなほん」 6 第8回：「フランス人のまっかなほん」 7 第9回：「イタリア人のまっかなほん」 1 第10回：「イタリア人のまっかなほん」 2 第11回：「イタリア人のまっかなほん」 3 第12回：「イタリア人のまっかなほん」 4 第13回：「イタリア人のまっかなほん」 5 第14回：「イタリア人のまっかなほん」 6 第15回：「イタリア人のまっかなほん」 7	
到達目標	フランス語の文法、語彙、表現の基礎知識を応用して、豊富な文章表現ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業分の日本語の文（10～15行程度）を仏訳してくる。		
テキスト、参考文献	プリント		
評価方法	中間試験 50％、定期試験 50％		

09 年度以降	フランス語文章表現法Ⅱ	担当者	小石 悟
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に同じ		第1回：ガイダンス 第2回：「アメリカ人のまっかなほん」 1 第3回：「アメリカ人のまっかなほん」 2 第4回：「アメリカ人のまっかなほん」 3 第5回：「アメリカ人のまっかなほん」 4 第6回：「アメリカ人のまっかなほん」 5 第7回：「アメリカ人のまっかなほん」 6 第8回：「アメリカ人のまっかなほん」 7 第9回：「イギリス人のまっかなほん」 1 第10回：「イギリス人のまっかなほん」 2 第11回：「イギリス人のまっかなほん」 3 第12回：「イギリス人のまっかなほん」 4 第13回：「イギリス人のまっかなほん」 5 第14回：「イギリス人のまっかなほん」 6 第15回：「イギリス人のまっかなほん」 7	
到達目標	フランス語の文法、語彙、表現の基礎知識を応用して、豊富な文章表現ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業分の日本語の文（10～15行程度）を仏訳してくる。		
テキスト、参考文献	プリント		
評価方法	中間試験 50%、定期試験 50%		

09 年度以降	フランス語文章表現法 I	担当者	D. ベルテ
講義目的、講義概要		授業計画	
Le but de ce cours est de fournir les compétences nécessaires pour décrire son environnement personnel. Il donnera la capacité de communiquer dans les situations de la vie quotidienne, lors d'un séjour en France par exemple. Par ailleurs, les objectifs d'écriture visés se réfèrent aux descriptifs du Cadre Européen Commun de Référence. Ce cours prépare donc aussi à la production écrite du niveau B1 du DELF. Le déroulement de ce cours se compose de quatre étapes : découverte et analyse de documents écrits relatifs au thème traité, pratique indépendante et/ou collective, pratique personnelle renforcée (devoirs) et petit test.		1. Se présenter et présenter quelqu'un 1 2. Se présenter et présenter quelqu'un 2 3. Se présenter et présenter quelqu'un 3 4. Présenter une O.N.G. 1 5. Présenter une O.N.G. 2 6. Présenter une O.N.G. 3 7. Raconter un souvenir 1 8. Raconter un souvenir 2 9. Raconter un souvenir 3 10. Restituer des propos (jeu de l'alibi) 1 11. Restituer des propos (jeu de l'alibi) 2 12. Restituer des propos (jeu de l'alibi) 3 13. Exposer des problèmes et se plaindre 1 14. Exposer des problèmes et se plaindre 2 15. Exposer des problèmes et se plaindre 3	
到達目標	フランス語の文法、語彙、表現の基礎知識を応用して、豊富な文章表現ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Ce cours nécessite une participation active, à la fois en classe (analyse de techniques, écriture collaborative) et à la maison (devoirs).		
テキスト、参考文献	Documents distribués en classe. Apporter son dictionnaire.		
評価方法	contrôle continu : 70 %, devoirs 20 %, participation 10 %		

09 年度以降	フランス語文章表現法Ⅱ	担当者	D. ベルテ
講義目的、講義概要		授業計画	
Ce cours poursuit les objectifs du premier semestre. Nous verrons en outre des thèmes plus détaillés et liés à la vie professionnelle. Nous aborderons aussi des techniques plus orientées vers le niveau B2. Le déroulement sera le même qu'au premier semestre.		1. Ecrire son opinion 1 2. Ecrire son opinion 2 3. Ecrire son opinion 3 4. Ecrire une lettre de plainte 1 5. Ecrire une lettre de plainte 2 6. Ecrire une lettre de plainte 3 7. Réaliser une enquête 1 8. Réaliser une enquête 2 9. Réaliser une enquête 3 10. Ecrire une lettre de souhaits 1 11. Ecrire une lettre de souhaits 2 12. Ecrire une lettre de souhaits 3 13. Rédiger un texte imaginaire 1 14. Rédiger un texte imaginaire 2 15. Rédiger un texte imaginaire 3	
到達目標	フランス語の文法、語彙、表現の基礎知識を応用して、豊富な文章表現ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Ce cours nécessite une participation active, à la fois en classe (analyse de techniques, écriture collaborative) et à la maison (devoirs).		
テキスト、参考文献	Documents distribués en classe. Apporter son dictionnaire.		
評価方法	contrôle continu : 70 %, devoirs 20 %, participation 10 %		

09 年度以降	フランス語会話 I	担当者	L. フォンテーヌ
講義目的、講義概要		授業計画	
Se débrouiller de plus en plus en français pour ne pas craindre de parler avec des francophones. Pour ceci, il faut développer son oreille et acquérir du vocabulaire. Nous allons donc travailler de deux façons ; premièrement, écouter des dialogues et répondre aux questions sur ces dialogues et, deuxièmement, faire des exercices de production orale.		1. Parler de la vie professionnelle 2. Le futur simple 3. La condition. 4. Les indications temporelles 5. Passe recent, futur proche, etc. 6. Parler de difficultés 7. Le style indirect 8. Parler du passé 9. Decrire 10. Faire un recit. 11. Catastrophes, crimes 12. Les loisirs 13. La consequence 14. Conseiller 15. Faire des hypotheses	
到達目標	フランス語会話力を習得し、現代社会の様々な事柄について詳細な意見ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Relire les transcriptions des dialogues ; preparer les exercices de conversation		
テキスト、参考文献	Pas de manuel ; les etudiants recevront des photocopies.		
評価方法	Les etudiants seront evalues selon leurs devoirs et leur participation aux cours.		

09 年度以降	フランス語会話Ⅱ	担当者	L. フォンテーヌ
講義目的、講義概要		授業計画	
Se débrouiller de plus en plus en français pour ne pas craindre de parler avec des francophones. Pour ceci, il faut développer sa compréhension auditive et acquérir du vocabulaire. Le travail se fera donc en deux temps ; écoute et production orale.		1. Parler des activités culturelles. 2. Le plus-que-parfait 3. Les pronoms relatifs 4. La famille 5. Le subjonctif 6. Obligation et interdiction 7. Infinitif ou subjonctif ? 8. Defauts et qualites 9. Souvenirs, amitie 10. Apprecier les nuances de jugement 11. Entraide, solidarite 12. Rapporter un discours au passe 13. Indications temporelles complexes 14. Parler des media 15. But, concession	
到達目標	フランス語会話力を習得し、現代社会の様々な事柄について詳細な意見ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Relire les transcriptions des dialogues; preparer les exercices de production		
テキスト、参考文献	Pas de manuel; les etudiants recevront les photocopies necessaires		
評価方法	Les etudiants seront evalues selon leurs devoirs et leur participation aux cours.		

09 年度以降	フランス語会話 I	担当者	M. ミズバヤシ
講義目的、講義概要		授業計画	
Objectif : Prendre la parole en français d'une manière aussi décontractée que possible. Contenu : Dans un premier temps nous échangerons les nouvelles de la semaine en petits groupes. Ensuite nous travaillerons à partir d'articles de presse ou bien de nouvelles de la radio française. Ce matériel sera le point de départ de notre cours de conversation. Ce cours s'adresse aux étudiants qui aiment parler, qui jouissent du plaisir de la conversation aussi bien en français qu'en japonais et qui sont décidés à participer activement à toutes les activités proposées.		1. Présentation du cours 2. La musique 3. La musique 4. La chanson 5. La chanson 6. Le cinéma 7. Le cinéma 8. Le français qui bouge 9. Le français qui bouge 10. Les médias 11. Les médias 12. Les loisirs 13. Partir en vacances 14. Partir en vacances 15. Bilan	
到達目標	フランス語会話力を習得し、現代社会の様々な事柄について詳細な意見ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Chercher des nouvelles et revoir les expressions apprises pendant le cours.		
テキスト、参考文献	Photocopies		
評価方法	Je souhaite que les étudiants participent au cours le plus souvent possible. Le contrôle consistera à faire un petit exposé au cours du semestre.		

09 年度以降	フランス語会話Ⅱ	担当者	M. ミズバヤシ
講義目的、講義概要		授業計画	
Objectif : Prendre la parole en français d'une manière aussi décontractée que possible. Contenu : Dans un premier temps nous échangerons les nouvelles de la semaine en petits groupes. Ensuite nous travaillerons à partir d'articles de presse ou bien de nouvelles de la radio française. Ce matériel sera le point de départ de notre cours de conversation. Ce cours s'adresse aux étudiants qui aiment parler, qui jouissent du plaisir de la conversation aussi bien en français qu'en japonais et qui sont décidés à participer activement à toutes les activités proposées.		1. Mise en train 2. Le logement 3. Le logement 4. La maison 5. Les repas 6. Les repas 7. Qui fait la cuisine à la maison? 8. Qui fait les courses? Où? Comment? 9. Qui fait les courses? Où? Comment? 10. Nourrir toute la planète 11. L'école de mes enfants 12. Apprendre. Comment? 13. Apprendre. Comment? 14. Pourquoi parler plusieurs langues étrangères? 15. Bilan	
到達目標	フランス語会話力を習得し、現代社会の様々な事柄について詳細な意見ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Chercher des nouvelles et revoir les expressions apprises pendant le cours.		
テキスト、参考文献	Photocopie		
評価方法	Je souhaite que les étudiants participent au cours le plus souvent possible. Le contrôle consistera à faire un petit exposé au cours du semestre.		

09 年度以降	フランス語会話 I	担当者	D. ベルテ
講義目的、講義概要		授業計画	
Dans ce cours, nous emploierons le contenu étudié dans la classe de français général dans des situations de communication de la vie quotidienne. Fondé sur la pratique de modèles de communication, ce cours a pour objectif de développer les compétences orales afin de pouvoir interagir et parler de son environnement familial. Les objectifs visés se réfèrent aux descriptifs du Cadre Européen Commun de Référence. Ce cours prépare donc aussi à la production orale du niveau B1 du DELF. Le déroulement de ce cours se compose de quatre étapes : découverte et pratique de modèles de communication, enrichissement lexical, jeux de rôles et conversation naturelle.		1. Se présenter 2. Parler de ses études et de son emploi du temps 3. Parler de son projet professionnel 4. Parler de son logement 1 5. Parler de son logement 2 6. Faire des achats 7. Parler de la santé 8. Exprimer la cause 1 9. Exprimer la cause 2 10. Exprimer la conséquence 11. Conseiller et déconseiller 1 12. Conseiller et déconseiller 2 13. Parler de choses imaginaires 1 14. Parler de choses imaginaires 2 15. Test final	
到達目標	フランス語会話力を習得し、現代社会の様々な事柄について詳細な意見ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Ce cours demande une participation active et dynamique en classe.		
テキスト、参考文献	Documents distribués en classe.		
評価方法	contrôle continu : 70 %, participation 30 %		

09 年度以降	フランス語会話Ⅱ	担当者	D. ベルテ
講義目的、講義概要		授業計画	
Ce cours poursuit les objectifs du premier semestre. Le déroulement sera le même qu'au premier semestre.		1. Révisions 2. Interdire et permettre 3. Exprimer la nécessité 4 .Exprimer le doute et la possibilité 5. Exprimer des sentiments 6. Exprimer le but 7. Exprimer l'opposition 8. Exprimer la concession 9. Dire l'accord et le désaccord 10.Donner son opinion 11. Donner son opinion 2 12. Approuver et désapprouver 1 13. Approuver et désapprouver 2 14. Plaindre et se plaindre 15. Test final	
到達目標	フランス語会話力を習得し、現代社会の様々な事柄について詳細な意見ができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	Ce cours demande une participation active et dynamique en classe.		
テキスト、 参考文献	Documents distribués en classe.		
評価方法	contrôle continu : 70 %, participation 30 %		

09 年度以降	フランス語会話 I	担当者	B. ピケ
講義目的、講義概要		授業計画	
L'objectif principal de ce cours sera de s'entraîner à l'oral et de mieux maîtriser les expressions pour le faire. Chaque semaine, nous nous intéresserons à une thématique particulière. Nous verrons les expressions pour en parler de façon naturelle. Nous travaillerons aussi les registres de langue : langue soutenue, langue familière, etc. Le manuel nous servira de base de travail. Il pourra être complété par des documents annexes préparés par le professeur. Les documents de travail seront distribués en début de la cours.		1. Présentation du cours 2. Présenter quelqu'un : ses amis, sa famille 3. Présenter quelque chose, un objet 4. Parler de ses goûts, de ce qu'on aime 5. Parler de ses activités au présent 6. Parler de ses activités passées 7. Mini-test 8. Parler de ses projets 9. Inviter et être invité 10. Sortir avec ses amis 11. Présenter son quartier, la ville où on habite 12. Activités du quotidien : au restaurant. 13. Activités du quotidien : faire du shopping 14. Révisions 15. Test final	
到達目標	フランス語会話力を習得し、現代社会の様々な事柄について詳細な意見ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Pas de préparation particulière avant le cours. Après le cours : révision du cours et devoirs à la maison.		
テキスト、参考文献	100 % FLE Guide de communication en français (Auteurs : Jean-jacques Mabilat, Cidalia Martins – éditions Didier) et autres – un polycopié sera distribué au début de la classe chaque semaine.		
評価方法	25% assiduité et participation en classe, 25% mini-test, 50% test final		

09 年度以降	フランス語会話Ⅱ	担当者	B. ピケ
講義目的、講義概要		授業計画	
L'objectif principal de ce cours sera de s'entraîner à l'oral et de mieux maîtriser les expressions pour le faire. Chaque semaine, nous nous intéresserons à une thématique particulière. Nous verrons les expressions pour en parler de façon naturelle. Nous travaillerons aussi les registres de langue : langue soutenue, langue familière, etc. Le manuel nous servira de base de travail. Il pourra être complété par des documents annexes préparés par le professeur. Les documents de travail seront distribués en début de la cours.		1. Présentation du cours 2. Parler de ses opinions, donner son avis 3. Parler de l'actualité 4. Parler de ses émotion (I) 5. Parler de ses émotions (II) 6. Parler de ses centres d'intérêt 7. Mini-test 8. Chercher un travail en France 9. Parler de ses études 10. Parler de son expérience professionnelle 11. Français professionnel : participer à une réunion 12. Français professionnel : au téléphone 13. Français professionnel : rendez-vous avec un client 14. Révisions 15. Test final	
到達目標	フランス語会話力を習得し、現代社会の様々な事柄について詳細な意見ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Pas de préparation particulière avant le cours. Après le cours : révision du cours et devoirs à la maison.		
テキスト、参考文献	100 % FLE Guide de communication en français (Auteurs : Jean-jacques Mabilat, Cidalia Martins – éditions Didier) et autres – un polycopié sera distribué au début de la classe chaque semaine.		
評価方法	25% assiduité et participation en classe, 25% mini-test, 50% test final		

09 年度以降	ビジネスフランス語 I	担当者	C. パジェス
講義目的、講義概要		授業計画	
ビジネスのあらゆるシチュエーションにおいて、口頭及び文書でコミュニケーションできる力を身につけることを目標とします。 この授業では、ビジネスにおける様々なシチュエーション（ビジネスレターやメモの作成、電話での会話、アポイントメントの取り方など）を設定し、会話や文章作成の練習を行いながら、商業フランス語を学習します。		1. Introduction au cours / Programme 2. La formation 3. Les diplômes 4. Exploitation / Evaluation 5. Rechercher un emploi 6. Candidature 7. CV 8. Exploitation / Evaluation 9. Les pratiques de recrutement 10. Lettre de motivation 11. Entretien d'embauche 12. Exploitation / Evaluation 13. Les contrats de travail 14. Professions et métiers 15. Exploitation / Evaluation *講義内容は必要に応じて変更することがあります。	
到達目標	基本的なフランス語表現力を習得し、ビジネスで活用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前にプリントを読んでおいてください。授業後は勉強したことを見直しておいてください。		
テキスト、参考文献	プリント 配布		
評価方法	常点 25%、授業への参加度 25%、小テスト 50%		

09 年度以降	ビジネスフランス語Ⅱ	担当者	C. パジェス
講義目的、講義概要		授業計画	
ビジネスのあらゆるシチュエーションにおいて、口頭及び文書でコミュニケーションできる力を身につけることを目標とします。 この授業では、ビジネスにおける様々なシチュエーション（ビジネスレターやメモの作成、電話での会話、アポイントメントの取り方など）を設定し、会話や文章作成の練習を行いながら、商業フランス語を学習します。		1. Introduction au cours / Programme 2. Organiser un déplacement 3. Réserver une chambre d'hôtel 4. Réserver un billet d'avion / de train 5. Exploitation / Evaluation 6. Organiser son emploi du temps 7. Prendre contact par téléphone 8. Courrier et courriel 9. Exploitation / Evaluation 10. Passer commande 11. Importer et exporter 12. Exploitation / Evaluation 13. Découvrez l'entreprise 14. Fonctions dans l'entreprise 15. Exploitation / Evaluation *講義内容は必要に応じて変更することがあります。	
到達目標	基本的なフランス語表現力を習得し、ビジネスで活用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前にプリントを読んでおいてください。授業後は勉強したことを見直しておいてください。		
テキスト、参考文献	プリント 配布		
評価方法	平常点 25%、授業への参加度 25%、小テスト 50%		

09 年度以降	上級フランス語 I	担当者	井上 美穂
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業の目的は、ニュース、ホームページ、新聞記事を教材として時事フランス語を学び、フランス語圏に関する知識を得ることです。具体的には、①ネット上にあるフランスのテレビ局のニュースをつかって聞き取り練習を行う、②フランス語で作られているホームページで情報を検索する、③ネット上にある新聞記事の読解を行う、という3種類の練習を行います。①②③は、同じテーマで選ばれます。この授業はTCF310点程度以上を取得した学生を対象としていますが、対象外で履修を希望する方は初回の授業で相談にいらして下さい。2017年のニュースを予測することはできませんので、参考として右の欄では2016年春学期に扱ったニュースを紹介します。		第1回：ベルギーでテロ事件が発生 第2回：欧州へ難民が押し寄せる 第3回：パナマ文書とタックスヘイブン 第4回：今年もフランスは観光人気No.1 第5回：5月1日にはすずらんを贈る 第6回：フランスの自動車産業 第7回：カンヌ映画祭 第8回：伊勢志摩サミット 第9回：ルーブル美術館 第10回：労働法案反対のストライキ 第11回：イギリス、EU離脱か残留か 第12回：イギリス、EU離脱へ 第13回：ジブリのレッドタートル公開 第14回：サッカー ユーロカップ2016 第15回：フランスで「かにかまぼこ」が人気	
到達目標	フランス語で発信される情報について、その内容を的確に把握し、さらにその詳しい情報に自らアクセスできるようにする。		
事前・事後学修の内容	予習は必要ありません。学習した内容を復習しながら、知識を積み上げて下さい。		
テキスト、参考文献	教員が作成し、その都度授業で配布します。		
評価方法	試験期間に行われるテストの得点で評価を行います。90 点以上が AA、80 点以上が A、70 点以上が B、60 点以上が C、60 点未満は不可になります。		

09 年度以降	上級フランス語Ⅱ	担当者	井上 美穂
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業の目的は、ニュース、ホームページ、新聞記事を教材として時事フランス語を学び、フランス語圏に関する知識を得ることです。具体的には、①ネット上にあるフランスのテレビ局のニュースをつかって聞き取り練習を行う、②フランス語で作られているホームページで情報を検索する、③ネット上にある新聞記事の読解を行う、という3種類の練習を行います。①②③は、同じテーマで選ばれます。この授業はTCF310点程度以上を取得した学生を対象としていますが、対象外で履修を希望する方は初回の授業で相談にいらして下さい。2017年のニュースを予測することはできませんので、参考として右の欄では2016年秋学期に扱ったニュースを紹介します。		第1回：フランス人はbonbonsが大好き 第2回：エールフランスでの逸脱した抗議行動 第3回：ハイチ ハリケーンで大きな被害 第4回：エアバス 一万機目を引き渡し 第5回：ツールドフランス2017コース発表 第6回：ベトナムのショコラ 第7回：マリ共和国 第8回：2024年オリンピックへパリが立候補 第9回：原子力発電 第10回：マルシェドノエル 第11回：トリュフ市始まる 第12回：人気のまんがアステリクス 第13回：心のレストラン 第14回：エッフェル塔 第15回：クレープ（予定）	
到達目標	フランス語で発信される情報について、その内容を的確に把握し、さらにその詳しい情報に自らアクセスできるようにする。		
事前・事後学修の内容	予習は必要ありません。学習した内容を復習しながら、知識を積み上げて下さい。		
テキスト、参考文献	教員が作成し、その都度授業で配布します。		
評価方法	試験期間に行われるテストの得点で評価を行います。90 点以上が AA、80 点以上が A、70 点以上が B、60 点以上が C、60 点未満は不可になります。		

09 年度以降	フランス語学論 I	担当者	田中 善英
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：形の変化の面（形態論）、構文の面（統語論）、発音の面（音声学・音韻論）、意味と構文との係わりの面（意味論）から、フランス語の仕組みを解明する。毎回の授業では、その授業でテーマとなる項目について現代フランス語における原則、制約を確認しながら、仕組みを解明していく。なお、大部分は過去2年間の講義内容とは異なるので、最長、3年6学期間重複履修しても、内容が重なることはほとんどない。 受講者に求めること：フランス語そのものに興味を持ち、授業中には、随時、各自の意見を求めるので、常に考える姿勢を持っていて欲しい。他人の迷惑となるので私語については厳しく注意する。受講予定者は必ず第1回目の授業に出席すること。出席回数が規定回数に達しなければ、定期試験が満点でも評価対象としない。毎回出席をとる（遅刻2回で欠席1回とする）。就職活動等で欠席する場合には、授業開始前に欠席連絡をすれば欠席としてカウントしないが、卒業再試験は行わないので注意すること。		第1回：ガイダンス 第2回～第15回： ・なぜ Charles は1人でも複数形なのか？ ・François は Français なのか？ ・他言語との関係 ・動詞の不規則活用について ・なぜ同音異義語は存在するのか ・大過去形は「過去の過去」か？ ・近接過去形は「近い過去」か？ ・過去分詞の一致 など 受講生からとりあげて欲しいテーマがあれば、できるだけそれを取りあげる。	
到達目標	フランス語学の様々な分野に関して必要な専門知識を習得し、分析および論証ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	初級文法の内容を確認し、その応用的知識の獲得を目指す。毎回の授業は授業終了後、ビデオ配信する。		
テキスト、参考文献	プリントを使用。参考文献は適宜指示する。		
評価方法	規定回数以上出席した者に対して、平常点、リアクションペーパー、論述形式の試験により評価する。出席規定回数を下回った者は、 <u>学年・学期を問わず</u> 評価しない。原則として卒業再試験は行わない。		

09 年度以降	フランス語学論Ⅱ	担当者	田中 善英
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：形の変化の面（形態論）、構文の面（統語論）、発音の面（音声学・音韻論）、意味と構文との係わりの面（意味論）から、フランス語の仕組みを解明する。毎回の授業では、その授業でテーマとなる項目について現代フランス語における原則、制約を確認しながら、仕組みを解明していく。なお、大部分は過去2年間の講義内容とは異なるので、最長、3年6学期間重複履修しても、内容が重なることはほとんどない。 受講者に求めること：フランス語そのものに興味を持ち、授業中には、随時、各自の意見を求めるので、常に考える姿勢を持っていて欲しい。他人の迷惑となるので私語については厳しく注意する。受講予定者は必ず第1回目の授業に出席すること。出席回数が規定回数に達しなければ、定期試験が満点でも評価対象としない。毎回出席をとる（遅刻2回で欠席1回とする）。就職活動等で欠席する場合には、授業開始前に欠席連絡をすれば欠席としてカウントしないが、卒業再試験は行わないので注意すること。		第1回：ガイダンス 第2回～第15回： ・冠詞論 「定」とは？ ・無冠詞と冠詞の省略 ・「不可算」とはどういうことか？ ・全面的な否定と部分的な否定 ・比較構文 ・名詞の種類、女性形と男性形 ・代名詞論 など 受講生からとりあげて欲しいテーマがあれば、できるだけそれを取りあげる。	
到達目標	フランス語学の様々な分野に関して必要な専門知識を習得し、分析および論証ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	初級文法の内容を確認し、その応用的知識の獲得を目指す。毎回の授業は授業終了後、ビデオ配信する。		
テキスト、参考文献	プリントを使用。参考文献は適宜指示する。		
評価方法	規定回数以上出席した者に対して、平常点、リアクションペーパー、論述形式の試験により評価する。出席規定回数を下回った者は、 <u>学年・学期を問わず</u> 評価しない。原則として卒業再試験は行わない。		

09 年度以降	フランス語文章理論 I	担当者	小石 悟
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では「フランス語を発信する」ことを念頭に置き、初級文法で取り上げられていない文法項目を学習します。フランス語を書いたり、話したりしていると、今までの文法力だけでは不足していると思うことがよくあります。「読む」場合は、極端に言えば、主語と動詞と目的語が分かればある程度意味は取れますが、「書く」「話す」など、自分でフランス語の文を作り出す場合はもっと細かい文法知識が必要になります。これができないといつまでもブローケンなフランス語のままで留まってしまいます。前期では、簡単な文でもほぼ必ず出てくるが初級文法ではまとまって取り上げられことがない前置詞をとりあげます。		第1回 : ガイダンス 第2回 : 場所を表す前置詞1 第3回 : 場所を表す前置詞2 第4回 : 場所を表す前置詞3 第5回 : 場所を表す前置詞4 第6回 : 場所を表す前置詞5 第7回 : 時を表す前置詞1 第8回 : 時を表す前置詞2 第9回 : 時を表す前置詞3 第10回 : 手段を表す前置詞1 第11回 : 手段を表す前置詞2 第12回 : 理由を表す前置詞1 第13回 : 理由を表す前置詞2 第14回 : 理由を表す前置詞3 第15回 : 例外を表す前置詞	
到達目標	フランス語の細かい文法知識、文章理論を習得し、状況に応じた文章作成ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	練習問題は事前にやってくる。テキストの未知の語彙は全て調べてくること。		
テキスト、参考文献	プリント		
評価方法	中間試験 50%, 定期試験 50%		

09 年度以降	フランス語文章理論Ⅱ	担当者	小石 悟
講義目的、講義概要		授業計画	
講義の目的は前期と同じです。 後期では冠詞を扱います。日本語には冠詞がないので、フランス語を学習する日本人は自分の頭の中で名詞を概念化（単数か複数か、定冠詞か不定冠詞か、あるいは部分冠詞か、など）しなければならないので非常に難しい。日本人学習者にとっては最後まで残る困難です。この授業では、練習問題をやりながら、いろいろな冠詞の使い方を言語学的に学習し、単なる「慣れ」ではなく、理論的に冠詞の使用法を身に付けることを目指します。		第1回：ガイダンス 第2回：冠詞に関する練習1 第3回：冠詞に関する練習2 第4回：être + (冠詞)+名詞 第5回：一般的なことを表す冠詞1 第6回：一般的なことを表す冠詞2 第7回：部分冠詞1 第8回：部分冠詞2 第9回：部分冠詞3 第10回：冠詞＋名詞 de (冠詞)＋名詞 第11回：冠詞＋名詞 à (冠詞)＋名詞 第12回：身体の一部を表す名詞と限定詞1 第13回：身体の一部を表す名詞と限定詞2 第14回：冠詞と所有形容詞・指示形容詞の使い分け1 第15回：冠詞と所有形容詞・指示形容詞の使い分け2	
到達目標	フランス語の細かい文法知識、文章理論を習得し、状況に応じた文章作成ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	練習問題は事前にやってくる。テキストの未知の語彙は全て調べてくること。		
テキスト、参考文献	プリント		
評価方法	中間試験 50%, 定期試験 50%		

09 年度以降	フランス言語語教育論 I	担当者	中村 公子
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義目的> この授業では、フランス語教育を中心に外国語教育について、「学ぶ立場」と「教える立場」の両方からアプローチしながら考えます。「学ぶ立場」からでは見えない外国語学習（教育）を「教える立場」から眺めることで、自分自身にとってのより効果的な外国語学習法を模索することを目的としています。 <講義概要> 春学期は自分に合った記憶法を、動詞の活用やその動詞の使い方を通して考えます。毎回、授業の初めに聴解練習 (compréhension orale) を行います。 授業は、講義の他、個人やグループでの作業を中心に進めますので、履修する学生は欠席しないように。 なお、<u>この授業の履修を希望する学生は必ず 1 回目の授業から出席してください。</u>		1. Introduction 2. 動詞の活用 1 3. 動詞の活用 2 4. 活用（復習）と使い方 1 5. 活用（復習）と使い方 2 6. 活用（復習）と使い方 3 7. グループ・ワーク 8. グループ発表 1 9. 動詞を使った activité 1 10. 動詞を使った activité 2 11. 動詞を使った activité 3 12. 動詞を使った activité 4 13. グループ・ワーク 14. グループ発表 2 15. まとめ	
到達目標	「教える側」と「学ぶ側」との両方から、言語教育一般、とりわけ、フランス語教育に関する専門知識を習得し、実践できるようにする。		
事前・事後学修の内容	フランス語の初級文法で学習する基本的な動詞 50 個程度の活用と使い方を復習する。語のレベルから、文の中でそれぞれの動詞を使用できるようにする。		
テキスト、参考文献	テキストと参考文献は必要に応じて授業で指示する。		
評価方法	課題、授業参加態度、個別作業、グループワーク、グループ発表など（20%）、定期試験（80%）		

09 年度以降	フランス語言語教育論Ⅱ	担当者	中村 公子
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義目的> この授業では、フランス語教育を中心に外国語教育について、「学ぶ立場」と「教える立場」の両方からアプローチしながら考えます。「学ぶ立場」からでは見えない外国語学習（教育）を「教える立場」から眺めることで、自分自身にとってのより効果的な外国語学習法を模索することを目的としています。 <講義概要> 秋学期のテーマは「教材を作成する」です。教材を作成することで、自分自身のフランス語学習を振り返る機会をつくります。毎回、授業の初めに聴解練習も行います。 授業は、講義の他、個人やグループでの作業を中心に進めますので、履修する学生は欠席しないように。 なお、<u>この授業の履修を希望する学生は必ず1回目の授業から出席してください。</u>		1. Introduction 2. テキストの様々なタイプ 1 3. テキストの様々なタイプ 2 4. テキストの様々なタイプ 3 5. 教材作成のための準備 1 6. 教材作成のための準備 2 7. 教材作成のための準備 3 8. グループ・ワーク（あるテーマの教材、作成） 9. グループ発表 1 10. activités の作り方 1 11. activités の作り方 2 12. activités の作り方 3 13. グループ・ワーク 14. グループ発表 2 15. まとめ	
到達目標	「教える側」と「学ぶ側」との両方から、言語教育一般、とりわけ、フランス語教育に関する専門知識を習得し、実践できるようにする。		
事前・事後学修の内容	これまで自分がフランス語学習で使用してきたテキストなどを客観的に概観する。あるテーマについて、初級向けテキスト（教材）の作成を通して学習内容を学習者とは別の角度からとらえ直す。		
テキスト、参考文献	テキストと参考文献は必要に応じて授業で指示する。		
評価方法	課題、授業参加態度、個別作業、グループワーク、グループ発表など（20%）、定期試験（80%）		

13 年度以降	マスメディアのフランス語 I	担当者	野澤 丈二
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 これまでに学んできたフランス語の能力やフランス（語圏）に関する知識を土台として、さまざまなメディアで扱われているフランス語に触れていきます。内容を正確に把握するだけでなく、ある特定のテーマやジャンルが、それぞれのメディアのなかで、どのような文脈・意図・方法によって編集されたのかを理解し、批判的に読み解くことを目指します。 【講義概要】 春学期は、「日本」をキーワードに授業を進めます。毎回、個別のメディアを取り上げ、「日本」に関してどのような情報やイメージが伝えられてきたのかを検討します。インターネットや SNS など、最新のメディアから始め、徐々に時間を遡っていく形式をとります。		1. イントロダクション 2. インターネット 3. 新聞（20 世紀） 4. テレビとラジオ 5. 漫画（バンド・デシネ） 6. 学術書 7. 映画 8. 小説と旅行記（20 世紀） 9. 外交文書 10. 旅行記（19 世紀） 11. 新聞と雑誌（19 世紀） 12. 百科全書（18 世紀） 13. 旅行記（17 世紀） 14. 宣教師の記録（16 世紀） 15. まとめ ※ 各回のテーマと順番は変更になる可能性があります。	
到達目標	フランス語圏のマスメディアを通じて、フランス語表現やメディア文化を分析し、批評できるようにする。		
事前・事後学修の内容	フランスのメディアで扱われている日本の話題に関心を持ち、普段から目を配る。		
テキスト、参考文献	特定の教科書は使用しません。必要に応じて、授業の際に資料を配布します。		
評価方法	平常授業における発表や提出物など（45%）、期末レポート（55%）によって総合的に評価します。		

13 年度以降	マスメディアのフランス語Ⅱ	担当者	野澤 丈二
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 これまでに学んできたフランス語の能力やフランス（語圏）に関する知識を土台として、さまざまなメディアで扱われているフランス語に触れていきます。内容を正確に把握するだけでなく、ある特定のテーマやジャンルが、それぞれのメディアのなかで、どのような文脈・意図・方法によって編集されたのかを理解し、批判的に読み解くことを目指します。 【講義概要】 秋学期は、「食」をキーワードに授業を進めます。毎回、個別のメディアを取り上げ、フランスが「食」に関してどのような情報やイメージを伝えてきたのかを検討します。徐々に時間を遡っていく形式をとり、料理書やレストラン・ガイドなど、「食」ならではのメディアも扱います。		1. イントロダクション 2. インターネット 3. 外交文書 4. テレビとラジオ 5. 漫画（バンド・デシネ） 6. 映画 7. 新聞 8. レシピとメニュー 9. 雑誌と広告 10. レストラン・ガイド 11. 美食論（19 世紀） 12. 百科全書（18 世紀） 13. エチケツ集（18 世紀） 14. 料理本（17 世紀） 15. まとめ ※ 各回のテーマと順番は変更になる可能性があります。	
到達目標	フランス語圏のマスメディアを通じて、フランス語表現やメディア文化を分析し、批評できるようにする。		
事前・事後学修の内容	フランスのメディアで扱われている食の話題に関心を持ち、普段から目を配る。		
テキスト、参考文献	特定の教科書は使用しません。必要に応じて、授業の際に資料を配布します。		
評価方法	平常授業における発表や提出物など（45%）、期末レポート（55%）によって総合的に評価します。		

09 年度以降	フランス語コミュニケーション各論Ⅰ	担当者	青木 三郎
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義ではフランス語でのコミュニケーションについて学びます。フランス語でやりとりをするということとはどのような特徴をもっているのか。具体的な例をとりあげながら理解を深めていきます。コミュニケーションは一方的な情報伝達ではなく、たえない他者との対話、交渉を含んでいます。フランス語にはどのような対話の技術、交渉術があるのかを学んでいきます。 今年度は特に日本語の情報伝達との違いについて、フランス語の文章と日本語の文章を例に挙げながら解説していきます。		1. コミュニケーションとは何か。(総論) 2. フランス語の構文の特徴 3. フランス語コミュニケーションの特徴(語彙) 4. フランス語コミュニケーションの特徴(構文) 5. フランス語コミュニケーションの特徴(文接続) 6. フランス語の時制Ⅰ 7. フランス語の時制Ⅱ 8. フランス語の動詞の特徴 9. フランス語での名詞の特徴 10. フランス語での前置詞の特徴 11. フランス語での副詞の特徴 12. フランス語での接続詞の特徴 13. フランス語でのプレゼンテーションⅠ 14. フランス語でのプレゼンテーションⅡ 15. 講義のまとめ	
到達目標	フランス語学の各論に関して専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	特に事前の予習は必要ないが、授業中に学んだことについて事後に資料を調べるよう指示をする。		
テキスト、参考文献	授業の始めに参考文献を紹介する。(特定の教科書は使用しない。)		
評価方法	(1) 平常授業の参加度(質問・議論) 35% (2) 課題に関する準備度 25% (3) 筆記試験 40%		

09 年度以降	フランス語コミュニケーション各論Ⅱ	担当者	青木 三郎
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義ではフランス語でのコミュニケーションについて日本語との違いを中心に学びます。フランス語でやりとりをするということはどのような特徴をもっているのか。具体的な例をとりあげながら理解を深めていきます。コミュニケーションは一方的な情報伝達ではなく、たえない他者との対話、交渉を含んでいます。フランス語にはどのような対話の技術、交渉術があるのかをフランス語学の基礎知識を固めながら学んでいきます。		1. フランス語の交渉とは何か。 2. フランス語のレトリックⅠ 3. フランス語のレトリックⅡ 4. フランス語の文の連鎖Ⅰ（接続詞） 5. フランス語の文の連鎖Ⅱ（連結辞） 6. フランス語の感嘆文Ⅰ 7. フランス語の感嘆文Ⅱ 8. フランス語の評価表現Ⅰ 9. フランス語の評価表現Ⅱ 10. フランス語の論述文の特徴 11. フランス語の説明文・解説文の特徴 12. フランス語の物語文の特徴 13. フランス語の説得力のある文章とは。 14. フランス語で主張する。 15. まとめ	
到達目標	フランス語学の各論に関して専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に各授業ごとに配布するテキストを読み、事後は自己の考えを発展させるために作文をする。		
テキスト、参考文献	授業の進行に合わせて、プリント教材を配布する。		
評価方法	（１）平常授業の参加度（質問・議論）35％（２）課題に関する準備度 25％（３）筆記試験 40％		

09 年度以降	フランス語コミュニケーション講読 I	担当者	P h. ヴァネ
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>But du cours</u> : Pouvoir lire et comprendre des textes d'actualité de nature politique, sociologique ou économique. <u>Contenu</u> : lecture d'articles de journaux, écrits ou publiés sur le web, ayant rapport à la francophonie, à la France d'outre-mer et surtout aux sociétés de l'océan Pacifique sud. <u>Méthode</u> : Je donne, une semaine à l'avance, le texte et une série de questions à préparer. Pendant le cours : lecture, réponse aux questions, travail sur quelques points de grammaire, informations sur le point abordé dans le texte. <u>Pas de traduction.</u>		1. Présentation 2-6. Lecture du 1^{er} article selon la méthode exposée ci-contre (6. petit test de vocabulaire) 7-10. Lecture du 2^e article selon la méthode exposée ci-contre (10. petit test de vocabulaire) 11-15. Lecture du 3^e article selon la méthode exposé ci-contre	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランス語学に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Recherche du vocabulaire, répondre aux questions, recherche sur internet ou autres moyens sur le thème évoqué par l'article en cours de lecture.		
テキスト、参考文献	Photocopies. Il est recommandé d'avoir un dictionnaire français-français, par exemple le Larousse de poche 2017.		
評価方法	Petits tests de vocabulaire et examen semestriel : vocabulaire, grammaire, compréhension des textes, lecture à haute voix.		

09 年度以降	フランス語コミュニケーション講読Ⅰ	担当者	中村 公子
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義目的> この授業は、テキストの内容理解と同時に「外国語としてのフランス語教育」について考察することを目的としています。一つのテキストを「学習者の立場」と「教える立場」の両方からアプローチすることを目指します。 <講義概要> 春学期は、フランスの地方、日常生活、学校について書かれているテキストを扱います。毎回、授業の初めにシャドーイング練習（音読練習）を取り入れ、内容理解については Q シートに答える形で進めます。 また、随時、グループ作業を取り入れ、グループ発表も 2 回行ってもらいます。 なお、<u>履修を希望する学生は必ず 1 回目の授業から出席してください。</u>		1. Introduction 2. フランスの地方 1 （扱う具体的な内容は授業内で決定します） 3. フランスの地方 2 4. フランスの地方 3 5. フランスの地方 4 6. グループ発表 1 7. フランスの日常生活 1 8. フランスの日常生活 2 9. フランスの日常生活 3 10. フランスの日常生活 4 11. グループ発表 2 12. フランスの学校 1 13. フランスの学校 2 14. フランスの学校 3 15. まとめ	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランス語学に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの音読練習と大まかな内容理解ができるように読み取っておく。 Q シートを手がかりにしてテキストの内容をまとめる。		
テキスト、参考文献	テキストや参考文献は扱う内容に応じて授業内で指示する。		
評価方法	授業参加態度、予習を含む課題、個別作業、グループワーク、グループ発表など（20%）、定期試験（80%）		

09 年度以降	フランス語コミュニケーション講読Ⅱ	担当者	中村 公子
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義目的> この授業は、テキストの内容理解と同時に「外国語としてのフランス語教育」について考察することを目的としています。一つのテキストを「学習者の立場」と「教える立場」の両方からアプローチすることを目指します。 <講義概要> 秋学期は、フランスの社会など、様々な側面について書かれているテキストを扱います。毎回、授業の初めにシャドーイング練習（音読練習）を取り入れ、内容理解については Qシートに答える形で進めます。 また、随時、グループ作業を取り入れ、グループ発表も2回行ってもらう予定です。 なお、<u>履修を希望する学生は必ず1回目の授業から出席してください。</u>		1. Introduction 2. フランスの社会 1 （扱う具体的な内容は授業内で決定します） 3. フランスの社会 2 4. フランスの社会 3 5. フランスの社会 4 6. グループ発表 1 7. フランス人の余暇とヴァカンス 1 8. フランス人の余暇とヴァカンス 2 9. フランス人の余暇とヴァカンス 3 10. グループ発表 2 11. フランス・テーマ 1 12. フランス・テーマ 2 13. フランス・テーマ 3 14. フランス・テーマ 4 15. まとめ	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランス語学に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの音読練習と大まかな内容理解ができるように読み取っておく。 Qシートを手がかりにしてテキストの内容をまとめる。		
テキスト、参考文献	テキストや参考文献は扱う内容に応じて授業内で指示する。		
評価方法	授業参加態度、予習を含む課題、個別作業、グループワーク、グループ発表など（20%）、定期試験（80%）		

09 年度以降	フランス語コミュニケーション講読Ⅰ	担当者	田桐 正彦
講義目的、講義概要		授業計画	
社会現象・政治経済・時事問題に関する文章に慣れるのが目的です。 上記ジャンルのさまざまなテーマの文章を読み、動詞の法と時制、構文、語彙といった文法知識を確認しながら、文脈の明確な把握を通して書き手の意図を正確に受けとめる批判的読解力（リテラシー）の養成を目指します。 受講人数にもよりますが、グループに分け、①ネット検索による事項の調査、②訳、③文法問題、④テーマに関する意見発表を適宜課します。		1-3. プリント① （時事問題を扱う完結した文章をプリントとして配布。以下同様） 4.-5. プリント② 6.-7. プリント③ 8.-9. プリント④ 10.-11. プリント⑤ 12.-13. プリント⑥ 14. まとめと質問 15. 試験と解説 初回を除き、奇数回には訳読のほか文法問題を課します。	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランス語学に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	語学は事前学修が重要です。毎回辞書を引いて、テキストの意味を自分でしっかり考える習慣をつけましょう。分からなかったところ、誤解したところをきちんと見直し、理解するのが事後学修になります。		
テキスト、参考文献	プリントを配布します。 参考文献、サイトは授業中適宜紹介します。		
評価方法	授業参加態度 30%+授業内発表 20%+試験 50%。 参加態度の項目は文法問題への取り組み、発表の項目は検索調査と訳の達成度を見ます。 試験は、辞書のみ持ち込み可の初見テキストの訳と、学んだ文法問題を出題する予定。		

09 年度以降	フランス語コミュニケーション講読Ⅱ	担当者	田桐 正彦
講義目的、講義概要		授業計画	
多種多様なジャンル、スタイルの文章に慣れるのが目的です。 詩歌から料理のレシピまで、多種多様なテキストを読み、文法知識を確認しながら、あらゆる種類のフランス語書き言葉に柔軟に対応しうる読解力の養成を目指します。 受講人数にもよりますが、グループに分け、①ネット検索による事項の調査、②訳、③テーマに関する意見発表を適宜課します。		1.－2. シャンソン：民謡あるいは「みんなの歌」的なジャンルの歌と、プロ歌手の持ち歌 3.－4. 詩歌：ボードレールその他。シャンソンと合わせ、句読法など詩歌の表記と修辭に慣れる。 5.－7. 物語：Le Petit Prince のある 1 章。直説法単純過去に慣れる。 8.－10. 戯曲：アガタ・クリストフの一部。シナリオ・リーディング形式で教室内上演を目指す。 11.－13. シナリオ：2、3 のシーンのシナリオを厳密に読み、字幕の限界を知る。 14. レシピ：faire, laisser の使用、計量単位の違いなど、特有の表現に慣れる。 15. 文体の特徴についてのまとめと質疑応答	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランス語学に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	語学は事前学修が重要です。毎回辞書を引いて、テキストの意味を自分でしっかり考える習慣をつけましょう。分からなかったところ、誤解したところをきちんと見直し、理解するのが事後学修になります。		
テキスト、参考文献	プリントを配布します。 参考文献、CD、DVD、サイトなどは授業中適宜紹介します。		
評価方法	授業参加態度 30%+授業内発表 20%+定期試験 50% 参加態度と発表の項目は訳の達成度を見ます。定期試験は、辞書持ち込み可の初見文の訳などの予定。		

09 年度以降	フランス語コミュニケーション講読Ⅰ	担当者	田中 善英
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：辞書があればどんな文章でも読めるようなフランス語読解力を養成する。 講義概要：フランス語の文章を理解するために不可欠な様々な表現・構文を、様々な文体の1・2行程度の文章を、文法事項を確認しながら、とにかく丁寧に読んでいく。仏検準2級・2級程度の文章を扱う。 その他：毎回ランダムに<u>全員</u>を指名。予習していなかったり、指名されてから訳し始めた場合などは減点。指名された時に他人の訳を読むような不正行為をした人はFとする。就職活動で欠席する場合には、授業前に欠席連絡をし、訳文を指定時刻までにメールで提出すれば減点しない（未提出なら減点）。試験は応用問題。初回の授業で2回目以降の教材を配布するので、受講予定者は必ず第1回目の授業に出席すること（2回目から全員指名する。初回に出席できない場合には必ず1週目の間に連絡してプリントを取りに来ること）。単語テストを毎回冒頭に実施する。他人の迷惑となるので私語については厳しく注意する。		第1回：ガイダンス、授業の進め方、予習方法の説明 第2回～第15回：以下のような構文を扱う：否定構文（各種否定表現、部分否定、二重否定、虚辞の ne）、強調構文、推量構文、目的構文、結果構文など。これ以外にも受講生の要望があれば、それを扱う。 なお、授業方針は昨年度同様であるが、文章自体は全て昨年度とは別のものを扱う。また、扱う文章はラシーヌ・スタンダールといった文学作品から新聞・雑誌の記事、ブログ、料理のレシピ、仏検の過去問題等、さまざまな分野・文体のものである。1つの作品を読んでいくという形式ではない。	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランス語学に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に解説した構文を確認しながら課題文を訳す。毎回の授業は授業終了後、ビデオ配信する。		
テキスト、参考文献	プリントを使用。参考文献は適宜指示する。		
評価方法	規定回数以上出席した者に対して、毎回の単語小テスト＋発表内容、定期試験により評価する。出席規定回数を下回った者は、 <u>学年・学期を問わず</u> 評価しない。原則として卒業再試験は行わない。		

09 年度以降	フランス語コミュニケーション講読Ⅱ	担当者	田中 善英
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：辞書があればどんな文章でも読めるようなフランス語読解力を養成する。 講義概要：フランス語の文章を理解するために不可欠な様々な表現・構文を、様々な文体の1・2行程度の文章を、文法事項を確認しながら、とにかく丁寧に読んでいく。仏検準2級・2級程度の文章を扱う。 その他：毎回ランダムに<u>全員</u>を指名。予習していなかったり、指名されてから訳し始めた場合などは減点。指名された時に他人の訳を読むような不正行為をした人はFとする。就職活動で欠席する場合には、授業前に欠席連絡をし、訳文を指定時刻までにメールで提出すれば減点しない（未提出なら減点）。試験は応用問題。初回の授業で2回目以降の教材を配布するので、受講予定者は必ず第1回目の授業に出席すること（2回目から全員指名する。初回に出席できない場合には必ず1週目の間に連絡してプリントを取りに来ること）。単語テストを毎回冒頭に実施する。他人の迷惑となるので私語については厳しく注意する。		第1回：ガイダンス、授業の進め方、予習方法の説明 第2回～第15回：以下のような構文を扱う：対立・譲歩構文、比較構文、時の構文、使役構文、放任構文など。これ以外にも受講生の要望があれば、それを扱う。 なお、授業方針は昨年度同様であるが、文章自体は全て昨年度、春学期とは別のものを扱う。また、扱う文章はラシーヌ・スタンダールといった文学作品から新聞・雑誌の記事、ブログ、料理のレシピ、仏検の過去問題等、さまざまな分野・文体のものである。1つの作品を読んでいくという形式ではない。	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランス語学に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に解説した構文を確認しながら課題文を訳す。毎回の授業は授業終了後、ビデオ配信する。		
テキスト、参考文献	プリントを使用。参考文献は適宜指示する。		
評価方法	規定回数以上出席した者に対して、毎回の単語小テスト＋発表内容、定期試験により評価する。出席規定回数を下回った者は、 <u>学年・学期を問わず</u> 評価しない。原則として卒業再試験は行わない。		

09 年度以降	フランス語コミュニケーション購読Ⅰ	担当者	小石 悟
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業ではフランス語の語彙力をつけるために、様々なテーマを取り扱った短いテキストを読みます。ヒヤリングも会話も、語彙が有り文が読めるということが基礎になります（読んででも分からない文は聞いても分かりません）ので、比較的簡単な文を多読して語彙力を付け、フランス語がある程度読めるようになり、次の段階へのステップアップになることを目指します。		第1回：ガイダンス 第2回：ado 第3回：conducteur d'autobus 第4回：cuisinier 第5回：horticulteur 第6回：marinier 第7回：brassier 第8回：les enfants au musée 第9回：la butte Montmartre 第10回：livre de poche 第11回：manger bio 第12回：le sel au quotidien 第13回：un métier dans le sport 第14回：les jeunes et le tabac 第15回：les nouveaux pères	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランス語学に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの語彙・表現・文の意味は予習してくること。出てきた語彙は全て覚えること。		
テキスト、参考文献	プリント		
評価方法	定期試験 100%		

09 年度以降	フランス語コミュニケーション購読Ⅱ	担当者	小石 悟
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業ではフランス語で「読む喜び」を感じるために、フランスを舞台にしたサマセット・モームの短編小説を読みます。ユーモアと皮肉、人間にたいする鋭い観察眼が混ざった、笑える小説を取り上げました。じっくり読みながら、文法の再確認、語彙・表現の習得、ヨーロッパ文化についての学習を目指します。		第1回：ガイダンス 第2回：les trois grosses dames d'Antibe 1 第3回：les trois grosses dames d'Antibe 2 第4回：les trois grosses dames d'Antibe 3 第5回：les trois grosses dames d'Antibe 4 第6回：les trois grosses dames d'Antibe 5 第7回：les trois grosses dames d'Antibe 6 第8回：les trois grosses dames d'Antibe 7 第9回：les trois grosses dames d'Antibe 8 第10回：les trois grosses dames d'Antibe 9 第11回：les trois grosses dames d'Antibe 10 第12回：les trois grosses dames d'Antibe 11 第13回：les trois grosses dames d'Antibe 12 第14回：les trois grosses dames d'Antibe 13 第15回：les trois grosses dames d'Antibe 14	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランス語学に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの語彙・表現・文の意味は予習してくること。出てきた語彙は全て覚えること。		
テキスト、参考文献	プリント		
評価方法	定期試験 100%		

09 年度以降	フランスの美術 I	担当者	阿部 明日香
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的： 17 世紀から 19 世紀までのフランス美術を概観します。時代背景や当時の美術制度について知識を深め、歴史的コンテキストのなかで、それぞれの画家と作品を理解することを目的とします。 講義概要： 毎回一人の画家を中心に取り上げ、画像や映像を用いて代表的な作品について解説します。受講生の皆さんには毎回コメントペーパーを書いて提出してもらいます。コメントの内容を次の授業で取り上げ、さらに解説を加える場合もあります。		1. イントロダクション 2. ニコラ・プッサン (1594-1665) 3. シモン・ヴーエ (1590-1649) 4. ジョルジュ・ド・ラトゥール(1593-1652) 5. フランソワ・ブーシェ (1703-1770) 6. ジャン=シメオン・シャルダン (1699-1779) 7. ジャック=ルイ・ダヴィッド (1748-1825) 8. ジャン=ドミニク・アングル (1780-1867) 9. ユジェーヌ・ドラクロワ (1798-1863) 10. ジャン=フランソワ・ミレー (1814-1875) 11. エドゥアール・マネ (1832-1883) 12. 印象派 1 13. 印象派 2 14. まとめ 15. まとめ	
到達目標	時代的背景を促えながら、代表的な芸術家や作品など、フランスの美術に関する専門知識を習得し、鑑賞のうえ批評できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で指示された参考文献を読む。画集などで作品に親しむ		
テキスト、参考文献	プリントを配布します。 参考文献は授業中に適宜紹介します		
評価方法	毎回の授業のコメントペーパー、美術館見学レポート、学期末試験		

09 年度以降	フランスの美術Ⅱ	担当者	阿部 明日香
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的： 19世紀フランスでは、誕生したばかりの近代社会を背景に、国家（権力）による強力な美術政策との緊張関係、また新たに与えられたチャンスのなかで数多くの作品が生まれてきました。前半ではそうした国家と美術との関係に着目します。後半はフランス美術とわたしたちの国をはじめとする「非西洋」世界との関わりを取りあげてゆきます。毎回一つの作品を起点とし、それが提起する問題について理解を深めることを目的とします。 講義概要： 画像や映像を用いて作品を見ながら解説していきます。受講生の皆さんには毎回コメントペーパーを書いて提出していただきます。コメントの内容を次の授業で取り上げ、さらに解説を加える場合もあります。		1. イントロダクション 2. ダヴィッド《ナポレオンの戴冠》（1805-07） 3. ジェリコー《メデューズ号の筏》（1819） 4. ドーミエ《ガルガンチュア》（1831） 5. クールベ《オルナンの埋葬》（1850） 6. ロダン《地獄の門》（1880-1917） 7. 印象派と第三共和政の美術行政 8. ドラクロワ《アルジェの女たち》（1834） 9. モネ《ラ・ジャポネーズ》（1876） 10. ゴッガン《マナオ・トゥパパウ》（1892） 11. ピカソ《アヴィニョンの娘たち》（1907） 12. プリミティヴィズムとは何か 13. ルソー《蛇使いの女》（1907） 14. まとめ 15. まとめ	
到達目標	時代的背景を促えながら、代表的な芸術家や作品など、フランスの美術に関する専門知識を習得し、鑑賞のうえ批評できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で指示された参考文献を読む。画集・画像等で作品に親しむ。		
テキスト、参考文献	プリントを配布します。 参考文献は授業中に適宜紹介します。		
評価方法	毎回の授業のコメントペーパー、美術館見学レポート、学期末試験		

09 年度以降	フランスの音楽 I	担当者	松橋 麻利
講義目的、講義概要		授業計画	
フランスの芸術音楽が時代や社会の変化とともにどのように変遷してきたかを学び、現代の音楽状況を考える手立てとします。 春学期は、西洋音楽の源と考えられるグレゴリオ聖歌から掘り起こし、中世、ルネサンスのフランス人の活躍を辿ります。そして17世紀バロック時代から19世紀ロマン派時代までの主要なオペラと器楽を対象とします。周辺の国の音楽と適宜比較しながらフランス音楽の特徴を実感できるようにしていきます。 講義ではできるだけ音楽を聴いたり映像を見たりして進めていきます。		1. ガイダンス 2. グレゴリオ聖歌と中世の世俗音楽 3. ルネサンスまでのフランス音楽 4. オペラの始まり 5. バロック時代のフランス・オペラ 1：リュリ 6. バロック時代のフランス・オペラ 2：ラモー 7. クープランのクラヴサン曲 8. M.-A.シャルパンティの世俗曲と宗教曲 9. ブフォン論争 10. 18 世紀後半のフランスの交響曲 11. ロマン主義とベルリオーズ 12. オッフエンバック：地獄のオルフェ 13. ビゼー：カルメン 14. 講義のまとめ 15. 講義のまとめ	
到達目標	ヨーロッパ芸術音楽の歴史や国民性の違いなど、フランスの音楽に関する専門知識を習得し、鑑賞のうえ批評できるようにする。		
事前・事後学修の内容	配布するプリントと紹介する参考文献を読み、授業中に触れる作品を自らも積極的に聴くこと。		
テキスト、参考文献	テキスト：プリント。 参考文献：ガイダンス時に紹介。		
評価方法	中間と期末の 2 回の試験の合計（50+50＝100 点満点）による。受験資格：各期の 3 分の 2 以上の出席。		

09 年度以降	フランスの音楽Ⅱ	担当者	松橋 麻利
講義目的、講義概要		授業計画	
フランスの芸術音楽が時代や社会の変化とともにどのように変遷してきたかを学び、現代の音楽状況を考える手立てとします。 秋学期は、19世紀後半から20世紀初めのフランスの中心的な作曲家に焦点を当てて、フランス音楽のひとつの黄金時代を築いた作品を詳しく見ていきます。 講義ではできるだけ音楽を聴いたり映像を見たりして進めていきます。		1. ガイダンス 2. 歌曲 1：グノー 3. 歌曲 2：デュパルク 4. 歌曲 3：ショーソン 5. 歌曲 4：フォーレ 6. ピアノ曲 1：フォーレ 7. ピアノ曲 2：ドビュッシー1 8. ピアノ曲 3：ドビュッシー2 9. ピアノ曲 4：ラヴェル 10. 管弦楽曲 1：ドビュッシー1 11. 管弦楽曲 2：ドビュッシー2 12. 管弦楽曲 3：ラヴェル 1 13. 管弦楽曲 4：ラヴェル 2 14. 講義のまとめ 15. 講義のまとめ	
到達目標	ヨーロッパ芸術音楽の歴史や国民性の違いなど、フランスの音楽に関する専門知識を習得し、鑑賞のうえ批評できるようにする。		
事前・事後学修の内容	配布するプリントと紹介する参考文献を読み、授業中に触れる作品を自らも積極的に聴くこと。		
テキスト、参考文献	テキスト：プリント。 参考文献：ガイダンス時に紹介。		
評価方法	中間と期末の 2 回の試験の合計（50+50＝100 点満点）による。受験資格：各期の 3 分の 2 以上の出席。		

09 年度以降	フランスの舞台芸術Ⅰ	担当者	江花 輝昭
講義目的、講義概要		授業計画	
今年度は「フランス・オペラの魅力」というテーマで授業を行います。 オペラ芸術はイタリアで生まれたものですが、フランスでも特に19世紀を中心として、イタリアものとは違うフランス的特質をそなえた魅力的なオペラが数多く生まれました。 春学期は17世紀から19世紀前半を扱います。受講者の理解を助けるために、映像、音声等も活用します。 ただ教室に座っていれば単位がもらえると思っているような人は受講無用です。評価は厳しいので、単位目当てだけの人は履修を控えたほうが賢明でしょう。なお、授業計画は一応の目安に過ぎず、必ずしも予定通り進行するものではないことをお断りしておきます。		1. 春学期授業概要の説明 2. オペラの誕生（イタリアからフランスへ） 3. リュリ『カドミュスとエルミオーヌ』（その1） 4. リュリ『カドミュスとエルミオーヌ』（その2） 5. グルック『オルフェとウリディス』（その1） 6. グルック『オルフェとウリディス』（その2） 7. アレヴィ『ユダヤの女』（その1） 8. アレヴィ『ユダヤの女』（その2） 9. マイアベーア『悪魔のロベール』（その1） 10. マイアベーア『悪魔のロベール』（その2） 11. グノー『ファウスト』（その1） 12. グノー『ファウスト』（その2） 13. トマ『ハムレット』（その1） 14. トマ『ハムレット』（その2） 15. 春学期のまとめ	
到達目標	フランス舞台芸術と時代・社会・文化との影響関係など、フランスの舞台芸術に関する専門知識を習得し、鑑賞のうえ批評できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業時に指示する。		
テキスト、参考文献	テキストなし。参考文献は授業時に紹介。		
評価方法	レポート 100%（ただし 3 分の 2 以上出席しなかった場合には自動的に F または F G 評価とする）		

09 年度以降	フランスの舞台芸術Ⅱ	担当者	江花 輝昭
講義目的、講義概要		授業計画	
秋学期は、春学期の内容を踏まえて授業を行います。継続受講が望ましく、秋学期からの受講者に対する配慮は特に行いません。 秋学期は 19 世紀後半から 20 世紀初めまでを扱います。受講者の理解を助けるために、映像、音声等も活用します。 ただ教室に座っていれば単位がもらえると思っているような人は受講無用です。評価は厳しいので、単位目当てだけの人は履修を控えたほうが賢明でしょう。なお、授業計画は一応の目安に過ぎず、必ずしも予定通り進行するものではないことをお断りしておきます。		1. 秋学期授業概要の説明 2. ビゼー『カルメン』（その1） 3. ビゼー『カルメン』（その2） 4. サン＝サーンス『サムソンとダリラ』（その1） 5. サン＝サーンス『サムソンとダリラ』（その2） 6. オッフエンバック『ホフマン物語』（その1） 7. オッフエンバック『ホフマン物語』（その2） 8. ドリーブ『ラクメ』（その1） 9. ドリーブ『ラクメ』（その2） 10. マスネー『マノン』（その1） 11. マスネー『マノン』（その2） 12. ドビュッシー『ペレアスとメリザンド』（その1） 13. ドビュッシー『ペレアスとメリザンド』（その2） 14. 秋学期のまとめ（その1） 15. 秋学期のまとめ（その2）	
到達目標	フランス舞台芸術と時代・社会・文化との影響関係など、フランスの舞台芸術に関する専門知識を習得し、鑑賞のうえ批評できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業時に指示する。		
テキスト、参考文献	テキストなし。参考文献は授業時に紹介。		
評価方法	レポート 100%（ただし 3 分の 2 以上出席しなかった場合には自動的に F または F G 評価とする）		

09 年度以降	フランス文学史 I	担当者	湯浅 博雄
講義目的、講義概要		授業計画	
この学期には、主として、19 世紀フランス文学史を学ぶ。19 世紀前半のフランスの文学・芸術の特徴は、ロマン主義が興隆していったことである。このことは、フランス革命や 7 月革命、2 月革命などによる社会の変化と切り離せない。参考文献として、ネルヴァルの詩作品、ボードレールの美術批評「ロマン主義とはなにか」などを読みながら、こうした点を考える。 さらに、19世紀中期から後半にかけては、一方でフローベールのような優れた小説家が現れ、他方では、ボードレールを偉大な先駆者として、マラルメ、ランボーのような卓越した詩人たちが出現する。これらの作家や詩人たちの特徴を考察していきたい。少しずつ、進みたい。		1 および 2 フランス革命（1789 年）とフランス近代社会 3 および 4 フランス革命とフランス・ロマン主義 5. フランス・ロマン主義について(1) 6. フランス・ロマン主義について(2) 7. フランス・ロマン主義について(3) 8. フランス・ロマン主義について(4) 9. フランス・ロマン主義について(5) 10. ヴィクトル・ユゴーをめぐる 11. ユゴーの周辺の詩人たち 12. ボードレールの詩作品 13. ボードレールの美術批評(1) 14. ボードレールの美術批評(2) 15. 講義のまとめ	
到達目標	フランス文学における時代区分、代表的な作家、作品、ジャンルなど、フランス文学史に関する専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。要点を復習してください。		
テキスト、参考文献	プリントを用意する		
評価方法	期末に、講義内容についての、自由なレポートを書いてもらい、評価する(100%)。		

09 年度以降	フランス文学史 II	担当者	湯浅 博雄
講義目的、講義概要		授業計画	
この学期には、フランス文学史 I を引き継いで、19 世紀フランス文学史および 20 世紀フランス文学史を学ぶ。ネルヴァルの詩作品、ボードレールの詩作品や批評作品、さらにはランボーの詩作品、マラルメの文学言語論などを検討しながら、19 世紀後半の文学の状況を考える。 さらに、時間の許す限りで、20 世紀の文学を見る。20 世紀前半には、プルーストの『失われた時を求めて』のような、芸術・文学を創作することの意味そのものを問う、優れた小説作品が書かれている。また、ブルトンたちによるシュルレアリスムの文学運動も現れた。参考文献を読みつつ、これらの文学の特徴を考えてみる。やや難しいところもあるので、少しずつ、丁寧に解説する。		1 および 2 ネルヴァルとドイツ・ロマン主義の影響 3 および 4. ネルヴァルの小説作品（1） および（2） 5. フローベールの小説作品(1) 6. フローベールの小説作品((2) 7. ランボーの詩作品(1) 8. ランボーの詩作品(2) 9. ランボーの「見者の手紙」について 10. マラルメの初期作品 11. マラルメの「詩の危機」について 12. プルーストの小説作品について(1) 13. プルーストの小説作品について(2) 14. ブルトンとシュルレアリスムについて 15. 講義のまとめ	
到達目標	フランス文学における時代区分、代表的な作家、作品、ジャンルなど、フランス文学史に関する専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。要点を復習してください。		
テキスト、参考文献	プリントを用意する		
評価方法	期末に、講義内容についての、自由なレポートを書いてもらい、評価する(100%)。		

13 年度以降 12 年度以前	フランス語圏の文学 I フランスの文学 I	担当者	谷口 亜沙子
講義目的、講義概要		授業計画	
第二次世界大戦とホロコースト（ユダヤ人大量虐殺）に関するフランス語圏の文学および、文学に大きな影響を及ぼした映画・証言・歴史学について学び、現代日本を生きる私たちに何ができるのかを考えます。 授業は大まかに次のような流れで展開します。 ・ 歴史的事実（何があったのか） ・ 国家神話の生成（何があったことにされてきたのか） ・ 神話の崩壊（過ちを知り、認めること） ・ 記憶の義務（無関心は何をひきおこすか） ・ 物語の可能性（文学や映画にできること） 授業は問いと応答によって進められます。積極的な発言と質問を歓迎します。初回に必ず参加すること。		1. ガイダンス（自分は何を知らないのか） 2. 第二次世界大戦（ネミロフスキ『フランス組曲』） 3. 国家神話の生成（ヴェルコール『海の沈黙』） 4. 神話の崩壊（オフェルス『哀しみと憐れみ』） 5. 割れた鏡（ルイ・マル『ルシアン青春』） 6. ヴェル・ディヴ事件（エレーヌ・ベール『日記』） 7. 否定主義に抗して（モディアーノ『ドラ・ブリュデール』） 8. 強制収容所／絶滅収容所（アラン・レネ『夜と霧』） 9. 加害者の姿（ヒルバーグ『ヨーロッパ・ユダヤ人の絶滅』） 10. 歴史は過去ではない（ランズマン『ショア』） 11. 惨禍と表象不可能性（『イメージ、それでもなお』） 12. 狂気の言語（サルヴェール『幽霊たちの同伴者』） 13. 愛、それでもなお（デュラス『ヒロシマ・モナムール』） 14. 消し去られたもの（ペレック『煙滅』） 15. 文学、それでもなお（デルボ『アウシュヴィッツとその後』）	
到達目標	フランス語圏の文学を構成する作家、作品、ジャンルについて専門知識を習得し、当時の時代背景、社会情勢をふまえ鑑賞のうえ批評できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で紹介された本を読み、映画を見、日本語・外国語による現在のニュースを追うこと。		
テキスト、参考文献	授業中に配布。		
評価方法	授業への参加度（10%）、コメントペーパー（20%）、期末レポート（70%）。遅刻・居眠りは減点します。		

13 年度以降 12 年度以前	フランス語圏の文学Ⅱ フランスの文学Ⅱ	担当者	谷口 亜沙子
講義目的、講義概要		授業計画	
秋学期には春学期に習得した知識を土台として、より現代的な問題を考えてゆきます。 ホロコーストをめぐる通俗的な作品が量産され、強制収容所が「観光地」になってゆくなかで、表現者や証言者はどう反応してきたか。ユダヤ人＝虐殺された人たち、パリ解放＝ナチに対して決起した勇敢なパリ市民、といった一面的な歴史観が何を隠していたのか等を学びます。 グローバル化、テロリズムなど、日に日にボーダーレスになる現代を生きる私たちに必要なのは、過去（とりわけ過去の過ち）についての正確な知識と、国家による情報操作に騙されることのない批判意識です。歴史と文学を学ぶことによって、現在を生き抜くための知恵を身につけてください。		1. ガイダンス（自分は何をを考えてこなかったか） 2. 歴史小説のインフラ（ローラン・ピネ『HHhH』） 3. 収容所と観光客（ディディ＝ユベルマン『木の皮』） 4. 語ろうとしなかった人たちへ（ブラン『ペルラ』） 5. 消えたユダヤ文化（ボペール『ベルグとベック』） 6. 泣き笑いの英雄たち（カン『恐怖の庭園』） 7. 子供の視点1（コフマン『オールドネル通り、ラバ通り』） 8. 子供の視点2（ヒューストン『時のかさなり』） 9. 子供の視点3（グランベール『ある秘密』） 10. 植民地のユダヤ人（ゼナティ『ヤコブ、ヤコブ』） 11. 植民地の抵抗者（モネネンボ『黒いテロリスト』） 12. SSが語る学研歴史漫画（リテル『慈しみの女神たち』） 13. 美化と歪曲（エネル『ヤン・カルスキ』） 14. ショア対ツーリズム（フェンキノス『シャルロット』） 15. 射殺によるショア（マンガレリ『冬の食事』）	
到達目標	フランス語圏の文学を構成する作家、作品、ジャンルについて専門知識を習得し、当時の時代背景、社会情勢をふまえ鑑賞のうえ批評できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で紹介された本を読み、映画を見、日本語・外国語による現在のニュースを追うこと。		
テキスト、参考文献	授業中に配布。		
評価方法	授業への参加度（10%）、コメントペーパー（20%）、期末レポート（70%）。遅刻・居眠りは減点します。		

09 年度以降	フランス芸術文化各論 I	担当者	湯浅 博雄
講義目的、講義概要		授業計画	
この学期の講義では、〈贈与〉という問題系を考える。贈与とは、キリスト教の施しもの=贈り物のように、無償で与えることである。現代の資本主義経済における交換（つまり。等価なものの交換）とは正反対である。モースの『贈与論』によれば、原始社会においては、貨幣が前提にされず、物の移動や交流は、まず〈贈与する〉というかたちを取る。バタイユはこのモースの考察をさらに展開して、必ずしも等価交換に帰着しない〈贈与的なもの〉の可能性を探っていった。 たとえば、ふつうの消費は再生産に役立つ消費である。だが、生産に役立たない仕方では物=産物を使い尽くす〈消尽〉は、贈与的な意味をもちうる。バタイユの思想を深く考察してみよう。こうした贈与は、宗教的な倫理性にも、またモラルにおける義務や正義の観念にも関わるだろう。		1. および2. なぜ贈与が問われるのか 3. および4. 贈与と交換について 5. モース『贈与論』について 6. 文化人類学的な考察と探究 7.『贈与論』の意義 8.『贈与論』に対するバタイユの見方 9.『贈与論』を読みかえる試み 10. バタイユ『呪われた部分』について 11.『呪われた部分』の読解と分析 12. 贈与の可能性と不可能性 13. 義務の観念と贈与 14. 正義の観念と贈与 15. 今学期の講義のまとめ	
到達目標	フランス芸術文化を各論し、特定のテーマや作品に関する専門知識を習得し、分析・鑑賞のうえ批評できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。要点を復習してください		
テキスト、参考文献	プリントを用意する 参考文献 ： 湯浅博雄『バタイユ——消尽』（ちくま学芸文庫）		
評価方法	期末に、講義内容についての、自由なレポートを書いてもらい、評価する(100%).		

09 年度以降	フランス芸術文化各論Ⅱ	担当者	湯浅 博雄
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、春学期の講義を継承して、〈贈与〉という問題系を考える。見たように、人間社会の経済活動は、貨幣を前提にしつつ、等価なものの交換に基づいて発展してきた。ニーチェが『道徳の系譜』で示唆しているように、モラル、倫理における義務や正義の観念も、実はエコノミー活動に即して成立してきたのではないかと。この点を深めて考えたい。また、そのためにも、古代社会での〈正義＝公平さ〉の観念について、アリストテレスの『ニコマコス倫理学』を読みながら、考察する。 そのうえで、モースの『贈与論』、バタイユの議論をもう一度取り上げ、贈与（そして、サクリファイス、非生産的消尽）が絶えず不可能性という試練にとらわれながら、模範的＝虚構的に、かつ反復的に生きられるのではないかと、そのことで（交換的ではなく）贈与的でありうるのではないかと、という点を掘り下げてみたい。		1. および2. モラルにおける正義の観念と経済活動 3. および4. ニーチェ『道徳の系譜』について 5. 『道徳の系譜』における責任の観念 6. 『道徳の系譜』における義務の観念と贈与的なもの 7. アリストテレス『ニコマコス倫理学』について 8. および9. 『ニコマコス倫理学』における正義の観念 10. 『ニコマコス倫理学』における正義と贈与的なもの 11. 再び『贈与論』を読みかえる試みについて 12. および13. 贈与、サクリファイス（供儀）、非生産的消尽 14. 贈与（そして、サクリファイス、消尽）は、そもそも初めから〔一次的な仕方では〕模範的＝虚構的に生きられるのではないかと。真の贈与を欲しつつ、それに到達することは不可能なので、もう一度反復的に生きられるのではないかと。 15. 講義のまとめ	
到達目標	フランス芸術文化を各論し、特定のテーマや作品に関する専門知識を習得し、分析・鑑賞のうえ批評できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。要点を復習してください		
テキスト、参考文献	プリントを用意する 参考文献：湯浅博雄『バタイユ——消尽』（ちくま学芸文庫）		
評価方法	期末に、講義内容についての、自由なレポートを書いてもらい、評価する(100%)。		

09 年度以降	フランス芸術文化各論Ⅰ	担当者	福田 美雪
講義目的、講義概要		授業計画	
カトリック大国フランスにおいて、聖書の物語は絵画、彫刻、建築、文学、あらゆる芸術分野で表象されてきました。しかし、わたしたちは聖書で語られる物語に日常でほとんど触れることはなく、したがってキリスト教美術がフランスの芸術文化に占める重要性を知らずにいます。 この授業では、フランス語で聖書の有名なエピソードを読みながら、それがフランス芸術においてどのように解釈、表象され、また翻案されてきたのかを考えます。たとえばオスカー・ワイルドの『サロメ』やヴィリエ・ド・リラダンの『未来のイヴ』が一例でしょう。 受講者には、テキスト講読だけでなく、選んだテーマについて発表をしてもらいます。また、毎回の授業でコメントペーパーを記入し、理解を深めることも求められます。		1. イントロダクション 2. 天地創造 3. アダムとイヴ 4. バベルの塔 5. ソドムとゴモラ 6. エジプトの災い 7. エッサイの根 8. 受胎告知 9. 三賢者の礼拝 10. マグダラのマリア 11. サロメ 12. キリスト受難 13. 復活と昇天 14. 黙示録 15. まとめ	
到達目標	フランス芸術文化を各論し、特定のテーマや作品に関する専門知識を習得し、分析・鑑賞のうえ批評できるようにする。		
事前・事後学修の内容	配布されたフランス語テキストを予習すること。事後に積極的に美術鑑賞、関連文献を読むこと。		
テキスト、参考文献	プリントを配布		
評価方法	授業内発表および期末レポートを総合的に評価する。		

09 年度以降	フランス芸術文化各論Ⅱ	担当者	福田 美雪
講義目的、講義概要		授業計画	
ギリシャ・ローマ美術を模倣することで発展してきたフランス芸術は、とくにルネサンス期にギリシャ神話から大きなインスピレーションを得ました。ヴェルサイユ宮殿の内装が、古代の神々をモチーフにしており、とくに国王は太陽神アポロンに重ねられて描かれました。美術においては、ヴィーナスがとくに理想の裸体画を描く口実となったことが知られています。 この授業では、フランスの芸術家が好んで表象したギリシャ神話のエピソードを学び、それがどのように解釈、表象され、また翻案されてきたのかを考えます。ラシーヌの『アンドロマック』やボードレールの『白鳥』が一例として挙げられるでしょう。 受講者には、テキスト講読だけでなく、選んだテーマについて発表をしてもらいます。また、毎回の授業でコメントペーパーを記入し、理解を深めることも求められます。		1. イントロダクション 2. ゼウス 3. アポロン（１） 4. アポロン（２） 5. ヴィーナス（１） 6. ヴィーナス（２） 7. ヴィーナス（３） 8. ウルカヌス 9. ディアナ 10. ミネルヴァ 11. パリスの審判 12. オデュッセウス 13. アンドロマケー 14. トロイ戦争 15. まとめ	
到達目標	フランス芸術文化を各論し、特定のテーマや作品に関する専門知識を習得し、分析・鑑賞のうえ批評できるようにする。		
事前・事後学修の内容	配布されたフランス語テキストを予習すること。事後に積極的に美術鑑賞、関連文献を読むこと。		
テキスト、参考文献	プリントを配布		
評価方法	授業内発表および期末レポートを総合的に評価する。		

09 年度以降	フランス芸術文化講読 I	担当者	湯浅 博雄
講義目的、講義概要		授業計画	
この講読では、フランス近代の詩人であるランボーの作品を読むことを行なう。 ランボーは、19 世紀の後半に文学の創作を实践した詩人であるが、ロマン派の人々（とくに、ヴィクトル・ユゴー）やボードレールに大きな影響を受けつつ、詩作を始めた。しかし、やがて独自のテーマと書き方を見出し、独創的な作品を創造していった。 この学期には、ランボーの初期韻文詩と後期韻文詩から数篇を選び、綿密に読み、解釈し、味わいたいと思う。 12音節で書かれたソネット形式の詩を読むのは初めてである者も多いと思われるので、丁寧に解説する。		1. および 2. ランボーの生涯と詩作について 3. および 4. 詩形の説明、講読の仕方の説明 5. 詩「風を探す女たち」の講読 6. 詩「風を探す女たち」の講読および解説 7. 詩「風を探す女たち」の解釈および鑑賞 8. 詩「風を探す女たち」の読解のまとめ 9. 詩「記憶」の講読 10. 詩「記憶」の講読および解説 11. 詩「記憶」の解釈および鑑賞 12. 詩「記憶」の読解のまとめ 13. 詩「慈愛の姉妹」の講読 14. 詩「慈愛の姉妹」の解釈および鑑賞 15. 詩「慈愛の姉妹」の読解のまとめ	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読・フランス芸術作品の鑑賞を通じて、フランス芸術文化に関する専門知識を習得し、テキスト・作品を研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。要点の復習をしてください。		
テキスト、参考文献	こちらで、プリントを用意する。参考文献、湯浅博雄『ランボー論』思潮社。		
評価方法	実際にあたって訳すこと（50%）によって評価するが、期末に自由なレポートを提出してもらうこと（50%）によっても評価する。		

09 年度以降	フランス語芸術文化講読Ⅱ	担当者	湯浅 博雄
講義目的、講義概要		授業計画	
フランス芸術文化講読Ⅰ を継承して、この講読では、フランス近代の詩人であるランボーの作品を読むことを行なう。 この学期でも、前学期に引き続いて、主にランボーの初期韻文詩と後期韻文詩を綿密に講読したいと思う。 後期韻文詩は、難解なところもあるので、ゆっくりと進み、詳細に解説する。		1. および 2. ランボーの生涯と詩作を再考する 3. および 4. 詩形の説明、読解の仕方の解説 5. 詩「忍耐の祝祭」の講読 6. 詩「忍耐の祝祭」の講読および解説 7. 詩「忍耐の祝祭」の解釈および鑑賞 8. 詩「忍耐の祝祭」の読解のまとめ 9. 詩「渇きの劇」の講読 10. 詩「渇きの劇」の講読および解説 11. 詩「渇きの劇」の解釈および鑑賞 12. 詩「渇きの劇」の読解のまとめ 13. 詩「飢えの祝祭」の講読および解説 14. 詩「飢えの祝祭」の解釈および鑑賞 15. 詩「飢えの祝祭」の読解のまとめ	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読・フランス芸術作品の鑑賞を通じて、フランス芸術文化に関する専門知識を習得し、テキスト・作品を研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。要点を復習してください。		
テキスト、参考文献	こちらで、プリントを用意する。参考文献、湯浅博雄『ランボー論』思潮社。		
評価方法	実際にあたって訳すこと（50%）によって評価するが、期末に自由なレポートを提出してもらうこと（50%）によっても評価する。		

09 年度以降	フランス芸術文化講読 I	担当者	江花 輝昭
講義目的、講義概要		授業計画	
インターネット時代にまず要求される語学力は文章読解力でしょう。それだけでなく、フランス語をちゃんと話したり書いたりできるようになりたかったら、しっかりと読むことから始めないといけません。文字情報は音声情報よりもずっと豊かなものだからです。この授業では、話したり書いたりするときにも役に立つ知識を、いかに読みながら獲得するかという観点から、きちんとした読解力を身につけるための基礎訓練を行います。 今年度はルーマニア生まれで主にフランスで活躍した不条理演劇の劇作家で、奇妙な味わいが特徴の Eugène Ionesco が40代の時に書いた短編集« La Photo du colonel »(『大佐の写真』)の中からいくつかを選んで講読します。 春学期は、<i>Oriflamme</i> と <i>Une victime du devoir</i> を読む予定です。		1. 授業概要の説明、テキストの紹介 2. 講読 3. " 4. " 5. " 6. " 7. " 8. " 9. " 10. " 11. " 12. " 13. " 14. " 15. "	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読・フランス芸術作品の鑑賞を通じて、フランス芸術文化に関する専門知識を習得し、テキスト・作品を研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。		
テキスト、参考文献	Eugène Ionesco : « La Photo du colonel », Gallimard, 1958 (プリントで配付)		
評価方法	定期試験 50%、平常点 50% (ただし 3 分の 2 以上出席しなかった場合は F または F G 評価とする)		

09 年度以降	フランス芸術文化講読Ⅱ	担当者	江花 輝昭
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に同じ。継続受講が望ましく、秋学期からの受講者に対する配慮は特に行いません。 秋学期も継続して Eugène Ionesco の « La Photo du colonel » を読みます。 秋学期は <i>La photo du colonel</i> を読む予定です。		1. 授業概要の説明、テキストの紹介 2. 講読 3. " 4. " 5. " 6. " 7. " 8. " 9. " 10. " 11. " 12. " 13. " 14. " 15. "	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読・フランス芸術作品の鑑賞を通じて、フランス芸術文化に関する専門知識を習得し、テキスト・作品を研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。		
テキスト、参考文献	Eugène Ionesco : « La Photo du colonel », Gallimard, 1958 （プリントで配付）		
評価方法	定期試験 50%、平常点 50%（ただし 3 分の 2 以上出席しなかった場合は F または F G 評価とする）		

09 年度以降	フランス芸術文化講読 I	担当者	阿部 明日香
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的： 美術について論じたフランス語のテキストを読むことで、美術に関する語彙を学び、読解力を養うことを目的とします。同時に、美術に関わる諸問題について理解を深めます。 講義概要： 春学期は Alain Jaubert, <i>Lumière de l' image</i>, (Éditions Gallimard, 2008)より、アルチンボルド作《秋》(1573 年、ルーヴル美術館所蔵)の解説を読みます。アルチンボルドは精緻に描いた野菜や果物、植物などを組み合わせた奇妙な肖像画で知られますが、《秋》もそのひとつです。 授業は輪読形式で進めます。必ず予習して、自分なりの訳をつくってから授業にのぞんでください。 一回目の授業から読み始めますので、必ず辞書を持参してください。		1. ガイダンス+アルチンボルドについて+訳読 2. 序章 3. Une vie discrète 4. Une vie discrète 5. De la fleur au fruit 6. Figures de l'automne 7. Figures de l'automne 8. Une chair “excessive” 9. Une chair “excessive” 10. Artifice ou rhétorique ? 11. La gloire de l'empereur 12. La gloire de l'empereur 13. La gloire de l'empereur 14. まとめ 15. まとめ *進度は目安です	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読・フランス芸術作品の鑑賞を通じて、フランス芸術文化に関する専門知識を習得し、テキスト・作品を研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	辞書を丹念に引き、構文を理解した上で自分なりの訳をつくって授業に臨むこと。 授業で扱った箇所を読み返す。		
テキスト、参考文献	プリントを配布します。		
評価方法	平常点（毎回の訳読）と学期末試験。 授業中に課題を出す可能性もあります。		

09 年度以降	フランス芸術文化講読Ⅱ	担当者	阿部 明日香
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的： 美術について論じたフランス語のテキストを読むことで、美術に関する語彙を学び、読解力を養うことを目的とします。同時に、美術に関わる諸問題について理解を深めます。 講義概要： 秋学期は Alain Jaubert, <i>Lumière de l' image</i>, (Éditions Gallimard, 2008)より、ロダン作《接吻》(1880-98、ロダン美術館所蔵)の解説を読みます。《接吻》は《考える人》と同様、ロダンの代表作《地獄の門》のモチーフのひとつとして生まれました。 授業は輪読形式で進めます。必ず予習して、自分なりの訳をつくってから授業にのぞんでください。 一回目の授業から読み始めますので、必ず辞書を持参してください。		1. ガイダンス＋ロダンについて＋訳読 2. 序章 3. 序章 4. Une commande d'État 5. Des chaînes de corps 6. L'histoire de Francesca 7. Variations autour du thème 8. Trépan et ciseau 9. Trépan et ciseau 10. « Polir des doigts de pied ... » 11. D'autres Baiser 12. Tourner autour du groupe 13. Tourner autour du groupe 14. まとめ 15. まとめ ＊進度は目安です	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読・フランス芸術作品の鑑賞を通じて、フランス芸術文化に関する専門知識を習得し、テキスト・作品を研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	辞書を丹念に引き、構文を理解した上で自分なりの訳をつくって授業に臨むこと。 授業で扱った箇所を読み返す。		
テキスト、参考文献	プリントを配布します。		
評価方法	平常点（毎回の訳読）と学期末試験。 授業中に課題を出す可能性もあります。		

09 年度以降	フランス芸術文化講読 I	担当者	M. ミズバヤシ
講義目的、講義概要		授業計画	
Objectif : Découvrir le plaisir de la lecture à une ou plusieurs voix. Contenu : Nous lirons ensemble Le Tablier Bleu de Martine Laffon. Ce texte nous raconte avec une très grande poésie la vie de Louise, une vie bien ordinaire et bien solitaire. Une fois que les pages lues ensemble auront été comprises, nous attacherons beaucoup d'importance à la lecture à haute voix. Dans un deuxième temps, les participants de ce cours choisiront, parmi les livres faciles à lire, celui qu'ils liront tout seuls pendant les vacances d'été. ATTENTION ! Nous continuerons la lecture du Tablier bleu pendant le deuxième semestre.		1. Présentation du cours 2. Présentation du livre Le Tablier Bleu 3. Lecture des pages 8 et 10 4. Lecture des pages 11 et 12 5. Lecture des pages 14 et 15 6. Lecture des pages 16 et 18 7. Lecture des pages 19 et 20 8. Lecture des pages 22 et 23 9. Lectures des pages 24 et 26 10. Lecture des pages 27 et 28 11. Lecture des pages 30 et 31 12. Lecture des pages 32, 33 et 34 13. Lecture des pages 35 et 36 14. Lecture à voix haute d'un texte de son choix 15. Lecture à voix haute du Tablier Bleu	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読・フランス芸術作品の鑑賞を通じて、フランス芸術文化に関する専門知識を習得し、テキスト・作品を研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Lire à haute voix les pages étudiées en cours.		
テキスト、参考文献	Photocopies dans un premier temps. Un dictionnaire FRANÇAIS		
評価方法	Présence aux cours. Un rapport à remettre à la fin du semestre.		

09 年度以降	フランス芸術文化講読Ⅱ	担当者	M. ミズバヤシ
講義目的、講義概要		授業計画	
Objectif : Découvrir le plaisir de la lecture à une ou plusieurs voix. Contenu : Nous continuerons la lecture du livre Le tablier bleu. Se reporter à ce qui a été écrit dans la case du premier semestre. Nous consacrerons une partie du cours aux échanges portant sur le livre que chaque étudiant aura lu ou commencé à lire, tout seul, pendant les vacances. Pour cette deuxième partie du cours, nous travaillerons en petits groupes. IMPORTANT : Les étudiants qui s'inscrivent à ce cours en avril sont invités à suivre le cours pendant le second semestre. Cependant, les nouveaux étudiants sont aussi les bienvenus.		1. Présentation et rappel des objectifs du cours 2. Résumé des pages lues au premier semestre 3. Lecture des pages 38 et 40 4. Lecture des pages 42 et 43 5. Lecture des pages 44 et 46 6. Lecture des pages 47 et 48 7. Lecture des pages 50 et 51 8. Lecture des pages 52 et 54 9. Lectures des pages 55 et 56 10. Lecture des pages 58 et 59 11. Lecture des pages 60 et 62 12. Lecture des pages 63 et 64 13. Exposés sur les livres 1 et 2 14. Exposés sur les livres 3 et 4 15. Lecture à voix haute du Tablier Bleu	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読・フランス芸術作品の鑑賞を通じて、フランス芸術文化に関する専門知識を習得し、テキスト・作品を研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Lire à haute voix les pages étudiées en cours.		
テキスト、参考文献	Photocopie. Un dictionnaire FRANÇAIS.		
評価方法	Présence aux cours. Un rapport à remettre à la fin du semestre. Un exposé à faire en groupe.		

09 年度以降	フランス芸術文化講読 I	担当者	筒井 伸保
講義目的、講義概要		授業計画	
19 世紀後半の大衆小説家 Jules Verne の中編小説 <i>Les Révoltés de la Bounty</i> を読む(翻訳はない)。授業は毎回、数人の学生に訳を担当してもらう。講義はまず、初級・中級の文法・語彙知識を活用して、正確に仏文を理解することを目指すので、学生は全員予習が必須である。受講者制限をする可能性があるので、履修を希望する学生は必ず1 回目の授業に出席すること。 仏和辞書についての注意:学習者用の辞書・電子辞書(Dico、プチ・ロワイヤル、クラウン、ジュネスなど)では語彙が足りない。新スタンダード仏和辞典(大修館書店)やロワイヤル仏和中辞典(旺文社)などの中辞典が必要である。特に担当者は学習用辞書だけで予習し、「辞書に載っていませんでした」と言い訳することは許さない。自分で持っていない場合は、図書館で予習すること。		1. 授業の概要説明。作者紹介 2. <i>Les Révoltés de la Bounty</i> 講読 3. 続きの講読 4. 続きの講読 5. 続きの講読 6. 続きの講読 7. 続きの講読 8. 続きの講読 9. 続きの講読 10. 続きの講読 11. 続きの講読 12. 続きの講読 13. 続きの講読 14. 続きの講読 15. 続きの講読	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読・フランス芸術作品の鑑賞を通じて、フランス芸術文化に関する専門知識を習得し、テキスト・作品を研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に仏和辞典を引き、和訳を準備する。事後に授業で明らかになった語彙・文法・内容を整理し、覚える。		
テキスト、参考文献	Jules Verne, <i>Les révoltés de la Bounty</i> , Gallimard, Folio Junior, 2010 (ISBN : 9782070630189).		
評価方法	定期試験(80%)、授業への参加度(20%)。ただし、学期中に一度も授業で訳を担当しない者は、試験の成績の如何に関わらず、成績を F とする。		

09 年度以降	フランス芸術文化講読Ⅱ	担当者	筒井 伸保
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期の続き。春学期からの継続受講が望ましく、秋学期からの受講者に対する配慮は、特に行わない。		1. 講読。 <i>Les Révoltés de la Bounty</i> 講読 2. 続きの講読 3. 続きの講読 4. 続きの講読 5. 続きの講読 6. 続きの講読 7. 続きの講読 8. 続きの講読 9. 続きの講読 10. 続きの講読 11. 続きの講読 12. 続きの講読 13. 続きの講読 14. 続きの講読 15. 続きの講読	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読・フランス芸術作品の鑑賞を通じて、フランス芸術文化に関する専門知識を習得し、テキスト・作品を研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	春学期参照。		
テキスト、参考文献	春学期参照。		
評価方法	春学期参照。		

09 年度以降	フランス芸術文化講読 I	担当者	谷口 亜沙子
講義目的、講義概要		授業計画	
Hubert Mingarelli, <i>Un repas en hiver</i>, 2012 (ユベール・マンガレリ『冬の食事』、邦訳なし) を読みます。 童話作家から出発したマンガレリは、やさしいフランス語で、静謐な物語を語る作家です。『冬の食事』は、マンガレリが、ホロコーストを題材にして、大人向けに語った物語です。無辜のユダヤ人を射殺する任務を負わされ、その任務から逃れたいと思っている三人のドイツ兵が主人公です。 初回に「やってはいけない予習のしかた」と、最低限の歴史的背景の説明をおこないます。履修希望者は必ず参加してください。「フランス語圏の文学」と合わせて履修すると、より深い理解が得られるでしょう。		1. 予習の仕方の説明、歴史的背景の解説 2. 講読（辞書はどう引くか） 3. 講読（なぜ「読めない」のか） 4. 講読（音読の重要性） 5. 講読（文法事項の確認・時制） 6. 講読（文法事項の確認・指示語） 7. 講読（文法事項の確認・成句） 8. 講読（文体を味わう・反復と対比） 9. 講読（文体を味わう・省略語法） 10. 講読（文体を味わう・暗示） 11. 講読（文体を味わう・隠喩と換喩） 12. 講読（作品を理解する・語りの工夫） 13. 講読（作品を理解する・物語の構造） 14. 講読（作品を理解する・問いと発見） 15. まとめ	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読・フランス芸術作品の鑑賞を通じて、フランス芸術文化に関する専門知識を習得し、テキスト・作品を研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	内容を把握し、自然な訳文をつくる。原文を正確に音読できる状態で教室に来ること。		
テキスト、参考文献	Hubert Mingarelli, <i>Un repas en hiver</i> , J'ai lu, 2014 を購入して授業にのぞむこと。		
評価方法	授業中の音読、訳文の発表、文法事項への応答（30%）、期末テスト（70%）。		

09 年度以降	フランス芸術文化講読Ⅱ	担当者	谷口 亜沙子
講義目的、講義概要		授業計画	
Marguerite Duras, <i>Hiroshima mon amour</i>, Folio, 1972 マルグリット・デュラス『ヒロシマ・モナムール』を読みます。 1957年夏、ヒロシマで出会ったフランス人の映画女優と日本人の建築技師の物語です。テキストはアラン・レネ監督の映画作品（邦題『24時間の情事』）のシナリオです。会話、モノローグ、ト書き、描写等の文体の違いを学び、同時に、第二次世界大戦中・戦後のフランスの歴史（記憶、社会、個人）について考えます。 授業は聴き取り（ディクテ）、訳読、暗誦によって進め、期末テストには筆記だけでなく、暗誦テストを予定しています。		1. 予習の仕方の説明、歴史的背景の解説 2. 映画『24時間の情事』鑑賞 3. 映画解説、講読 4. 講読（会話） 5. 講読（内的モノローグ） 6. 講読（ト書き） 7. 講読（描写） 8. 講読（シナリオと映画の違い） 9. 講読（デュラスの挑戦） 10. 講読（レネの挑戦） 11. 講読（作品の理解：歴史と個人） 12. 講読（作品の理解：戦争と記憶） 13. 暗誦テスト1 14. 暗誦テスト2 15. まとめ	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読・フランス芸術作品の鑑賞を通じて、フランス芸術文化に関する専門知識を習得し、テキスト・作品を研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	予習の際に邦訳を参照しても構わないが、授業では動詞の時制や活用、構造がとれているかを問われる。		
テキスト、参考文献	Marguerite Duras, <i>Hiroshima mon amour</i> , Folio, 1972 を購入して授業にのぞむこと。 （マルグリット・デュラス『ヒロシマ・モナムール』工藤庸子訳、河出書房新社）		
評価方法	授業中の音読、訳文の発表、文法事項への応答（30%）、暗誦テスト、期末テスト（70%）。		

09 年度以降	フランス芸術文化講読 I	担当者	福田 美雪
講義目的、講義概要		授業計画	
近代フランスは、美術と文学というふたつの芸術ジャンルが緊密に結びついた時代です。新たな表現様式に挑戦する画家を、すぐれた審美眼をもつ文学者たちはいち早く評価しました。本講義では、イマージュとテキストの結びつきを通して、近代フランス美術史の豊かな鉱脈へとアプローチします。 この授業では、ディドロ、フロマンタン、ゴッティエ、ボードレー、ゾラ、ゴンクールらの美術批評を通して、アカデミーのサロン、フランドル・オランダ絵画、オリエンタル美術、風刺画、印象派、ジャポニスムなどが文学に与えた影響を考察します。 授業では、ひとりひとりに訳読かテーマに沿った発表をしてもらいます。また、授業計画はあくまで目安であり、進度によっては変更の可能性があります。		1. イントロダクション 2. ディドロのサロン評（1） 3. ディドロのサロン評（2） 4. フロマンタンの美術批評（1） 5. フロマンタンの美術批評（2） 6. ゴッティエの美術批評（1） 7. ゴッティエの美術批評（2） 8. ボードレーの美術批評（1） 9. ボードレーの美術批評（2） 10. ゾラの美術批評（1） 11. ゾラの美術批評（2） 12. ゴンクールの『日記』（1） 13. ゴンクールの『日記』（2） 14. ゴンクールの『日記』（3） 15. まとめ	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読・フランス芸術作品の鑑賞を通じて、フランス芸術文化に関する専門知識を習得し、テキスト・作品を研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前にテキストを予習すること。事後は参考文献を読むこと。		
テキスト、参考文献	プリントを配布。		
評価方法	授業内発表、および期末レポートを総合的に評価する。		

09 年度以降	フランス芸術文化講読Ⅱ	担当者	福田 美雪
講義目的、講義概要		授業計画	
近代フランスは、美術と文学というふたつの芸術ジャンルが緊密に結びついた時代です。新たな表現様式に挑戦する画家を、すぐれた審美眼をもつ文学者たちはいち早く評価しました。本講義では、イマージュとテキストの結びつきを通して、近代フランス美術史の豊かな鉱脈へとアプローチします。 この授業では、ゾラの『制作』、ユイスマンスの『さかしま』、ブルーストの『失われた時を求めて』など、フランスの主要な芸術小説をとりあげ、印象派や象徴派、イタリアやフランドル・オランダの美術を文学者がどのように視たうえで作品に反映させたかを分析します。 授業では、ひとりひとりに訳読かテーマに沿った発表をしてもらいます。また、授業計画はあくまで目安であり、進度によっては変更の可能性があります。		1. イントロダクション 2. ゾラ『制作』(1) 3. ゾラ『制作』(2) 4. ゾラ『制作』(3) 5. ユイスマンス『さかしま』(1) 6. ユイスマンス『さかしま』(2) 7. ユイスマンス『さかしま』(3) 8. ブルースト『失われた時を求めて』(1) 9. ブルースト『失われた時を求めて』(2) 10. ブルースト『失われた時を求めて』(3) 11. ブルースト『失われた時を求めて』(4) 12. ブルースト『失われた時を求めて』(5) 13. ブルースト『失われた時を求めて』(6) 14. ロラン・バルト『明るい部屋』 15. まとめ	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読・フランス芸術作品の鑑賞を通じて、フランス芸術文化に関する専門知識を習得し、テキスト・作品を研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前にテキストを予習すること。事後は参考文献を読むこと。		
テキスト、参考文献	プリントを配布。		
評価方法	授業内発表、および期末レポートを総合的に評価する。		

09 年度以降	フランス地域論 I	担当者	尾玉 剛士
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、フランスにおける移民政策、外国人の置かれた状況、移民排斥運動の展開、そして移民と福祉国家の関係について考察します。 フランスを含めた大陸ヨーロッパ諸国は充実した社会保障制度（年金・医療・最低所得保障制度など）を有する福祉国家であるとされています。他方、ヨーロッパでは移民の排斥あるいは受入国の文化への同化を強く求める右翼政党が無視できない支持を集めています。フランスの国民戦線（Front national）をはじめ、これらの右翼政党のなかには自国民への手厚い福祉とともに外国人の排除を主張する傾向が見られます。 以上のような問題関心から、この講義ではまずフランスの移民政策の概要を解説し、その後で移民問題が福祉国家としてのフランスに与える影響と、反対に福祉国家としてのフランスのあり方が移民政策に与える影響に焦点を合わせていきます。		1. 講義目的・概要・評価方法の説明 2. フランスの移民政策の展開① 3. フランスの移民政策の展開② 4. フランスの移民政策の展開③ 5. 外国人の置かれた状況① 6. 外国人の置かれた状況② 7. 外国人の置かれた状況③ 8. 中間まとめ 9. フランスにおける移民排斥運動の展開① 10. フランスにおける移民排斥運動の展開② 11. フランスにおける移民排斥運動の展開③ 12. 移民問題と福祉国家の相互作用① 13. 移民問題と福祉国家の相互作用② 14. 移民問題と福祉国家の相互作用③ 15. まとめ	
到達目標	フランス各地域における制度、現象、問題、社会・文化の特性など、フランス地域に関する専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回、配布資料のなかでキーポイントを整理するので、何が本質的な論点なのか注意しながら学びを深めてください。		
テキスト、参考文献	参考文献リストを含む資料を毎回配布します。映像資料も積極的に利用・紹介していく予定です。		
評価方法	中間テスト 20％・期末テスト 80％。中間テストの無断欠席は 0 点扱いとします。やむを得ない事情により欠席する場合、必ず事前に連絡してください。		

09 年度以降	フランス地域論Ⅱ	担当者	尾玉 剛士
講義目的、講義概要		授業計画	
フランスの地方自治体の取り組み、地域福祉、地域経済について学びます。 日本では、少子高齢化の進展にともない地方自治体による介護・子育てなどの福祉政策の重要性がますます高まっています。また、人口減少が進むなかで地域経済の活性化も課題となっています。この講義では、巨大福祉国家であるフランスの地域レベルでの福祉政策やまちづくりについて学ぶことで、日本の将来を考えるためのヒントを探していきます。 講義では、まずフランスの地方制度と各地の様子といった概論から始め、地域福祉とまちづくりの各論へと進んでいきます。「暮らしやすい地域」、「魅力的な地域」について考えるきっかけになれば幸いです。		1. 講義目的・概要・評価方法の説明：地域に着目する理由 2. フランスの地方制度 3. 地域の諸相：パリ、地方中核都市、小規模自治体 4. 地域福祉① 高齢者 5. 地域福祉② 子ども 6. 地域福祉③ 障害者 7. 中間まとめ 8. 地域福祉④ 住宅政策とホームレス問題 9. 地域福祉⑤ 都市政策 10. まちづくり① 地域経済 11. まちづくり② 交通とインフラ 12. まちづくり③ 環境政策 13. まちづくり④ 地域文化 14. まちづくり⑤ 観光&レジャー 15. まとめ	
到達目標	フランス各地域における制度、現象、問題、社会・文化の特性など、フランス地域に関する専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回、配布資料のなかでキーポイントを整理するので、何が本質的な論点なのか注意しながら学びを深めてください。		
テキスト、参考文献	参考文献リストを含む資料を毎回配布します。		
評価方法	中間テスト 20％・期末テスト 80％。中間テストの無断欠席は 0 点扱いとします。やむを得ない事情により欠席する場合、必ず事前に連絡してください。		

09 年度以降	フランスの歴史 I	担当者	藤田 朋久
講義目的、講義概要		授業計画	
フランス史の概説講義です。古代、中世、近世の各時代、およびフランス革命について概観します。 フランス史の基礎知識を修得すると同時に、フランス社会の歴史的特質について理解を深めることを目的とする授業です。		1. 授業ガイダンス 2. 古代 1：ケルト時代 3. 古代 2：ガロ＝ローマ時代 4. 古代 3：古代まとめ 5. 中世 1：初期中世 6. 中世 2：盛期中世 7. 中世 3：後期中世 8. 中世 4：中世まとめ 9. 近世 1：16世紀 10. 近世 2：17世紀 11. 近世 3：18世紀 12. 近世 4：近世まとめ 13. フランス革命（1） 14. フランス革命（2） 15. 全体のまとめ	
到達目標	フランス史の各時代の基本テーマ、フランスの歴史的特質など、フランスの歴史に関する専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で指示する参考文献を読むことや、配布するプリントを整理することが求められます。		
テキスト、参考文献	プリント配布。		
評価方法	テスト（2 回）の成績（100％）をもとに評価します。		

09 年度以降	フランスの歴史Ⅱ	担当者	藤田 朋久
講義目的、講義概要		授業計画	
フランス史の基礎知識を修得すると同時に、フランス社会の歴史的特質について理解を深めることを目的とする授業です。 前半は、フランス19世紀史を概観します。後半は、「フランス史の諸問題」と題して、より具体的なテーマを取り上げて論じます。詳細については、最初の授業で説明しますので、受講希望者は必ず出席してください。		1. 授業ガイダンス 2. 19世紀（1） 3. 19世紀（2） 4. 19世紀（3） 5. 19世紀（4） 6. 19世紀まとめ 7. フランス史の諸問題（1） 8. フランス史の諸問題（2） 9. フランス史の諸問題（3） 10. フランス史の諸問題（4） 11. フランス史の諸問題（5） 12. フランス史の諸問題（6） 13. フランス史の諸問題（7） 14. まとめ 15. 全体のまとめ	
到達目標	フランス史の各時代の基本テーマ、フランスの歴史的特質など、フランスの歴史に関する専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で指示する参考文献を読むことや、配布するプリントを整理することが求められます。		
テキスト、参考文献	プリント配布。		
評価方法	テスト（2回）の成績（100％）をもとに評価します。		

09 年度以降	フランスの政治経済Ⅰ	担当者	尾玉 剛士
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、国際比較の視点から現代フランスの政治システムの特徴を理解するとともに、フランスのみならず日本を含めた民主主義諸国の政治動向を見る目を養うことを目的とします。 初めにフランス革命以降のフランス政治史の大きな流れを整理します。続いて現在の議会や官僚制などの制度の特徴を解説した上で、政治的リーダーシップの行使や街頭デモを含めた実際の政治のダイナミズムへと焦点を合わせていきます。 政治システムの検討にあたっては、国際比較（とくに日本とフランスの比較）の視点に立つことで、現代の民主主義諸国の政治のあり方について知的に考察できるようになることを目指します。		1. 講義目的・概要・評価方法の説明 2. フランス政治史① 3. フランス政治史② 4. フランス政治史③ 5. 現代フランスの政治システムの概要 6. 議会 7. 官僚制 8. 中間まとめ 9. 政党システム① 10. 政党システム② 11. 選挙 12. 政治的リーダーシップ 13. 政策決定過程 14. 最近の政治動向 15. まとめ	
到達目標	フランスの政治経済の全体像、および、フランスの政治経済の現状や特質など、フランスの政治経済に関する専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回、配布資料のなかでキーポイントを整理するので、何が本質的な論点なのか注意しながら学びを深めてください。		
テキスト、参考文献	参考文献リストを含む資料を毎回配布します。		
評価方法	中間テスト 20％・期末テスト 80％。中間テストの無断欠席は 0 点扱いとします。やむを得ない事情により欠席する場合、必ず事前に連絡してください。		

09 年度以降	フランスの政治経済Ⅱ	担当者	尾玉 剛士
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、年金や医療保険などのフランスの社会保障制度の仕組みと最近の改革の動向を日本と比較しながら学びます。 フランスは北欧諸国と並ぶ巨大な福祉国家であり（対GDP比）、公的年金や医療保険などの社会保障制度の改革は政治・経済に関する議論の中心に位置していると言っても過言ではありません。日本でも、少子高齢化、雇用や家族の不安定化などを背景として、社会保障改革が喫緊の課題になっています。 そこでこの講義では、まず社会保障とは何を目的とした制度なのかを明らかにします。次に年金や医療保険などの個々の社会保障制度の基本的な仕組みと、日仏における改革動向について解説します。講義と試験を通じて、年金や消費税などのあり方について自分なりの意見を形成できるようにすることを目指します。		1. 講義目的・概要・評価方法の説明 2. フランスの社会保障システム 3. フランスの経済・人口・社会の動向 4. 年金① 5. 年金② 6. 中間まとめ 7. 医療保険① 8. 医療保険② 9. 高齢者介護 10. 雇用政策（失業・非正規雇用・若者の就職） 11. 最低所得保障（生活保護）① 12. 最低所得保障（生活保護）② 13. 家族政策（子ども手当・保育サービス） 14. 社会保障財政 15. まとめ	
到達目標	フランスの政治経済の全体像、および、フランスの政治経済の現状や特質など、フランスの政治経済に関する専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回、配布資料のなかでキーポイントを整理するので、何が本質的な論点なのか注意しながら学びを深めてください。		
テキスト、参考文献	参考文献リストを含む資料を毎回配布します。		
評価方法	中間テスト 20％・期末テスト 80％。中間テストの無断欠席は 0 点扱いとします。やむを得ない事情により欠席する場合、必ず事前に連絡してください。		

09 年度以降	フランスの政治経済Ⅰ	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、フランスの政治経済についての基礎的な知識の習得を目的とする。 学期の前半では、第四共和政期までのフランスの政治経済の変遷を歴史的に辿ったうえで、第五共和政の政治制度の特徴について学んでいく。さらに、第五共和政期については、歴代大統領の下で、それぞれどのような政策が実施されたかを確認する。学期の後半では、いくつかのトピックを取り上げて、フランス経済の現在の状況について検討していきたい。		1. ガイダンス 2. 第二帝政以前 3. 第三共和政からヴィシー期 4. 第四共和政期 5. 第五共和政の成立と政治制度 6. ドゴール、ポンピドゥー、ジスカールデスタン 7. ミッテラン時代 8. シラク時代 9. サルコジからオランドへ 10. 戦後のフランス経済 11. 失業問題 12. 産業構造 13. 税制 14. フランスの国際競争力 15. まとめ	
到達目標	フランスの政治経済の全体像、および、フランスの政治経済の現状や特質など、フランスの政治経済に関する専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業内で挙げるキーワードについて事前に調べてくること。授業で学んだ内容を自分の言葉で論理的に説明できるようにすること。		
テキスト、参考文献	テキストは用いない。参考文献は授業中に紹介する。		
評価方法	複数回のテスト（90％）と授業への参加度（10％）によって評価する。		

09 年度以降	フランスの政治経済Ⅱ	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
戦後のフランスにとってヨーロッパ統合は国益追求の重要な手段だと見なされてきた。それゆえフランスは、統合の主導権を握ることを目指し、今日まで統合の進展において常に重要な役割を担ってきた。本講義では、第2次世界大戦以前から今日のEUに至るまでの過程において、ヨーロッパ統合構想にフランスがどのように関わってきたかを学んだうえで、ドイツ一人勝ちと言われる現在のEUにおけるフランスの役割について考えていきたい。		1. ガイダンス 2. 戦前の統合構想（1） 3. 戦前の統合構想（2） 4. 第2次大戦期の統合構想 5. 戦後復興と経済近代化 6. シューマン・プランとECSC 7. 欧州防衛共同体構想 8. EECの設立に向けて 9. ドゴールとヨーロッパ統合（1） 10. ドゴールとヨーロッパ統合（2） 11. 1970年代のフランスと統合 12. ミッテラン時代の統合政策 13. EU誕生から今日まで（1） 14. EU誕生から今日まで（2） 15. まとめ	
到達目標	フランスの政治経済の全体像、および、フランスの政治経済の現状や特質など、フランスの政治経済に関する専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業内で挙げるキーワードについて事前に調べてくること。授業で学んだ内容を自分の言葉で論理的に説明できるようにすること。		
テキスト、参考文献	テキストは用いない。参考文献は授業中に紹介する。		
評価方法	複数回のテスト（90％）と授業への参加度（10％）によって評価する。		

09 年度以降	フランス現代思想 I	担当者	根木 昭英
講義目的、講義概要		授業計画	
「フランスの思想」というと、日本で生きる私たちからは遠く離れた世界の営みと感じられるかもしれませんが。しかし、フランスで活動した思想家たちの書物を紐解いてみると、そこでは、他者との関係の問題から衣服の流行の考察にいたるまで、ときに驚くほど私たちの日常に密着した問いが発せられていることが分かります。 そのような視点に立ちつつ、本講義では、現代フランスで活動した思想家、および彼らに影響を与えた哲学者たちの思索について、原典テキスト（邦訳）の抜粋を読解しながら考察していきます。彼らの思想が私たちの日常にいかなる反省作用をもたらさうかに着目して講義を進めることで、フランス思想史のみならず、哲学的思考のあり方を学ぶことも目的としたいと思います。 春学期には、現代フランスの思想家に影響を与えた19世紀以前の哲学者たちを中心に考察を進める予定です。		1. 導入 2. デカルトとコギトの問題 3. デカルトと神の存在証明 4. パスカルと信仰の問題 5. ライブニッツと悪の問題 6. 啓蒙思想について 7. ルソーの政治思想 ① 8. ルソーの政治思想 ② 9. マルクスと資本主義の問題 10. ベルクソンと持続の哲学 ① 11. ベルクソンと持続の哲学 ② 12. フッサールの現象学 13. ハイデガーと「世界内存在」 14. ハイデガーと芸術作品の問題 15. まとめ	
到達目標	フランス現代思想の流れや問題点、高度な語彙を用いた抽象的表現など、フランス現代思想に関する専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回の授業で指示する文献について予習してください。要点の復習を行ってください。		
テキスト、参考文献	レジュメを配布します。参考文献については、毎回の講義のなかで紹介していきます。		
評価方法	期末レポート：60%、コメントペーパーや発言を通じた授業への貢献度：40%		

09 年度以降	フランス現代思想Ⅱ	担当者	根木 昭英
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に引き続き、おもにフランスで活動した思想家たちの思索について考察を進めます。秋学期には、20世紀フランスの思想家を中心に講義を行います。		1. 導入 2. サルトルと想像力の問題 3. サルトルの実存主義 4. サルトルにおける文学と知識人の問題 5. サルトルとマルクス主義 6. ボーヴォワールとフェミニズムの問題 ① 7. ボーヴォワールとフェミニズムの問題 ② 8. メルロー＝ポンティにおける「身体」の思想 9. レヴィ＝ストロースの構造主義的思考 10. バルトの応用記号学 11. レヴィナスと「顔」の倫理 12. フーコーと知の考古学 13. フーコーと系譜学 14. デリダと脱構築の思想 15. まとめ	
到達目標	フランス現代思想の流れや問題点、高度な語彙を用いた抽象的表現など、フランス現代思想に関する専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回の授業で指示する文献について予習してください。要点の復習を行ってください。		
テキスト、参考文献	レジュメを配布します。参考文献については、毎回の講義のなかで紹介していきます。		
評価方法	期末レポート：60%、コメントペーパーや発言を通じた授業への貢献度：40%		

13 年度以降 12 年度以前	フランス語圏の現代社会Ⅰ 現代フランス語論Ⅰ	担当者	根木 昭英
講義目的、講義概要		授業計画	
「フランス」という固有名詞が、多くの人々にセーヌ河畔の眺めや美食を想起させ、またじっさいにその社会や文化が、それに違わぬ華やかな魅力を備えているのは疑いのないところです。しかし同時に、植民地主義的拡張とその行き詰まり、地域統合の実験やグローバル化などを経験しつつ形成された現代フランス語圏社会は、民族、文化、宗教などあらゆる側面において多様化し、それによって引き起こされる諸困難に直面してもいます。 本講義では以上の認識から出発して、地理、制度、政治経済、文化などさまざまな側面から、複雑化する現代フランス語圏社会を考察します。講義の全体を通じ、フランス語圏社会をめぐる諸論点（テロや「統合」の問題など）について統一的な見取り図を描くべく試みたいと思います。 春学期には、制度的な側面を中心に、現代フランス語圏社会を検討します。		1. 導入 2. 共和国の理念と憲法 3. 選挙制度と「路上民主主義」の伝統 4. 労働の問題 ① 5. 労働の問題 ② 6. 「家族」の問題 ① 7. 「家族」の問題 ② 8. 教育の問題とその周辺 ① 9. 教育の問題とその周辺 ② 10. 現代フランス社会をめぐる思想 ① 11. 現代フランス社会をめぐる思想 ② 12. フランス海外県および中米、アジアのフランス語圏 13. アフリカのフランス語圏 ① 14. アフリカのフランス語圏 ② 15. まとめ	
到達目標	現代フランス社会の独自性や現在抱える諸問題など、フランス語圏の現代社会に関する専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回の授業で指示する文献について予習してください。要点の復習を行ってください。		
テキスト、参考文献	レジュメを配布します。参考文献については、毎回の講義のなかで紹介していきます。		
評価方法	期末レポート：60%、コメントペーパーや発言を通じた授業への貢献度：40%		

13 年度以降 12 年度以前	フランス語圏の現代社会Ⅱ 現代フランス論Ⅱ	担当者	根木 昭英
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に引き続き、多様化する現代フランス語圏社会について学びます。秋学期には、「統合」の問題を中心に、現代フランス語圏社会が直面する諸問題を考察します。		1. 導入 2. 植民地主義の問題 3. ライシテの問題 ① 4. ライシテの問題 ② 5. 移民と「統合」の問題 ① 6. 移民と「統合」の問題 ② 7. 移民と「統合」の問題 ③ 8. ポピュリズムの問題 9. テロルの問題 10. ヨーロッパ統合と現代フランス 11. フランスの文化・言語政策 12. フランス社会と知識人 13. ベルギーとスイスの現代社会 14. ケベックの現代社会 15. まとめ	
到達目標	現代フランス社会の独自性や現在抱える諸問題など、フランス語圏の現代社会に関する専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	毎回の授業で指示する文献について予習してください。要点の復習を行ってください。		
テキスト、 参考文献	レジュメを配布します。参考文献については、毎回の講義のなかで紹介していきます。		
評価方法	期末レポート：60%、コメントペーパーや発言を通じた授業への貢献度：40%		

09 年度以降	フランス現代社会各論 I	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
フランスでは1949年に最初のテレビニュースの放送が開始され、1956年の国民議会議員選挙の際にはじめてテレビでの選挙戦が行われた。しかし、第5共和政が成立する1950年代末において、家庭へのテレビ受信機の普及率はまだ10%に満たなかった。これが80%に達したのが1974年であり、この年実施された大統領選の決選投票直前に、候補者同士の討論がはじめてテレビで放映された。この時以来、大統領選決選投票の際のテレビ討論は、政治的イベントとして習慣化し、候補者にとっては有権者に訴える重要な場となっている。 この授業では、今年の4・5月に行われる大統領選挙の特徴を分析するとともに、過去の大統領選挙の時代背景や争点、それぞれの候補者の主張の違いなどを確認しつつ、テレビ討論が世論に与えたインパクトを探って行く。		1. ガイダンス 2. Présidentielle 2017 (1) 3. Présidentielle 2017 (2) 4. Présidentielle 2017 (3) 5. Présidentielle 2017 (4) 6. 1965年 ドゴール対ミッテラン 7. 1969年 ボンピドゥー対ポエール 8. 1974年 ジスカールデスタン対ミッテラン 9. 1981年 ミッテラン対ジスカールデスタン 10. 1988年 ミッテラン対シラク 11. 1995年 シラク対ジョスパン 12. 2002年 シラク対ルペン 13. 2007年 サルコジ対ロワイヤル 14. 2012年 オランド対サルコジ 15. まとめ	
到達目標	フランスあるいはフランス語圏の現代社会を各論し、特定諸問題に関する専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	配布資料を事前に読んでくること。授業内で出される課題を提出すること。		
テキスト、参考文献	テキストは用いない。講義内容に関する資料を配布する。参考文献は授業中に紹介する。		
評価方法	授業での発言と発表（50%）、複数回の課題提出（50%）によって評価する。		

09 年度以降	フランス現代社会各論Ⅱ	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
1959年に誕生したフランスの漫画(BD)〈アステリックス〉シリーズは、古代ローマ時代のガリアを舞台としたフィクション作品であり、フランス国民のあらゆる世代に浸透した国民的漫画である。 この授業では、実際にいくつかの代表的な作品（映画化された作品も含め）に触れることで、その作品が生まれた時代背景やそこに込められた比喻などを探りながら、この漫画が半世紀以上の長きにわたり、なぜフランス国民を魅了し続けることができたのかを探ってみたいと思う。		1. ガイダンス 2. 国民的ヒーロー〈アステリックス〉とは？ 3. 作者ルネ・ゴシニとアルベール・ユデルゾ 4. アステリックスの歴史 (1) 5. アステリックスの歴史 (2) 6. Astérix le Gaulois (1) 7. Astérix le Gaulois (2) 8. Astérix et Cléopâtre (1) 9. Astérix et Cléopâtre (2) 10. Astérix aux jeux Olympiques 11. Astérix chez les Belges 12. Le Papyrus de César 13. その他の国民的キャラクターたち (1) 14. その他の国民的キャラクターたち (2) 15. まとめ	
到達目標	フランスあるいはフランス語圏の現代社会を各論し、特定諸問題に関する専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	配布資料を事前に読んでくること。授業内で出される課題を提出すること。		
テキスト、参考文献	テキストは用いない。講義内容に関する資料を配布する。参考文献は授業中に紹介する。		
評価方法	授業での発言と発表（50%）、複数回の課題提出（50%）によって評価する。		

09 年度以降	フランス現代社会各論 I	担当者	P h. ヴァネ
講義目的、講義概要		授業計画	
la francophonie dans l'océan Pacifique sud : le cas de la Nouvelle-Calédonie Ce cours a pour but d'étudier, à travers le cas de la Nouvelle-Calédonie, l'intégration dans une même société d'individus, de groupes, de cultures d'origines différentes. Le respect de la différence est-il possible ? Est-il souhaitable ? Le contenu du cours peut varier pour tenter de répondre aux souhaits des étudiants mais il faut avoir une bonne connaissance du français et de sa grammaire et un grand intérêt pour les questions sociales... même sous le soleil des îles !		1. Introduction : qu'est-ce que la francophonie ? 2. Le peuplement de l'océan Pacifique. 3. La découverte par les Européens du Pacifique. 4. La colonisation occidentale du Pacifique. 5. La découverte de la Nouvelle-Calédonie. 6. La société kanak au moment de la découverte. 7-8. Les immigrations en Nouvelle-Calédonie. 9. Résistance et révoltes des Kanak. 10. La Seconde Guerre mondiale. 11. Émancipation juridique des Kanak. 12. Conflits ouverts des années 80. 13. Les accords de Matignon et de Nouméa. 14. Perspectives d'avenir : l'indépendance ou non ? 15. Conclusions générales	
到達目標	フランスあるいはフランス語圏の現代社会を各論し、特定諸問題に関する専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Préparer la fiche donnée au cours précédent, approfondir le thème traité en utilisant la bibliothèque ou internet.		
テキスト、参考文献	Polycopiés, internet, extraits de films.		
評価方法	Rapport écrit en français sur un thème choisi sur une liste.		

09 年度以降	フランス現代社会講読 I	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
第三共和政期の1880年から教育相を務めたジュール・フェリーの改革により、フランスの教育システムは大きく変化した。本講義では、フランス語の文献を通じて、第三共和政下の子どもたちを取り巻く環境がいかなるものだったかを確認する。 本講義の目的は、できるだけ多くの文章をフランス語で読むことにより、社会科学系の文章に慣れるとともに、文章の要旨を把握する力を鍛えることにある。授業の際には辞書を必ず持つてくること。		1. ガイダンス 2. 第三共和政期以前の初等教育 3. 普仏戦争敗北とアルザス 4. ジュール・フェリー 5. 初等教育の無償化 6. 学校建設 7. 十字架像の撤去 8. 授業風景 9. 初等教育のカリキュラム 10. 小学校教諭の役割 11. 生活の変化 12. 子供の生活 13. 教育政策の影響 14. 初等教育終了証明書 15. まとめ	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランスあるいはフランス語圏の現代社会に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	予習をしたうえで授業に臨むこと。授業内で出される課題を提出すること。		
テキスト、参考文献	講読の資料を配布する。		
評価方法	発表（50％）と提出課題（50％）によって評価する。		

09 年度以降	フランス現代社会講読Ⅱ	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、1950年代のフランス社会に関する文献を読む。フランスは第2次大戦後、「栄光の30年」と呼ばれる高度経済成長時代を経験し、とりわけ1950年代半ばからは本格的な消費社会に突入した。この時期にフランスの国民がどのような生活の変化を経験したのかを探る。 本講義の目的は、できるだけ多くの文章をフランス語で読むことにより、社会科学系の文章に慣れるとともに、文章の要旨を把握する力を鍛えることにある。授業の際には辞書を必ず持ってくること。		1. ガイダンス 2. 1950年代の政治経済（1） 3. 1950年代の政治経済（2） 4. 1950年代の家族 5. フランス人の生活とテレビ 6. 都市の生活 7. 地方の生活 8. 農村 9. 1950年代の学校（1） 10. 1950年代の学校（2） 11. 海外県の生活 12. ヴァカンスの大衆化（1） 13. ヴァカンスの大衆化（2） 14. ヴァカンスの大衆化（3） 15. まとめ	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランスあるいはフランス語圏の現代社会に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	予習をしたうえで授業に臨むこと。授業内で出される課題を提出すること。		
テキスト、参考文献	講読の資料を配布する。		
評価方法	発表（50％）と提出課題（50％）によって評価する。		

09 年度以降	フランス現代社会講読 I	担当者	藤田 朋久
講義目的、講義概要		授業計画	
中世のパリについて解説した下記の本を読みます。またあわせて他の補足資料も読む予定です。フランス語の読解力を向上させるとともに、フランス史の理解を深めることを目的とする授業です。		1. 授業ガイダンス 2. Paris...petite ou grande ville ? 3. La Seine, un long fleuve pas très tranquille. 4. Des ponts à tout faire. 5. Des rues pas très propres... 6. Des maisons serrées les unes contre les autres. 7. À l'abri derrière les remparts. 8. Tous les métiers. 9. L'eau, c'est la vie ! 10. Pauvres « sans feu ni lieu ». 11. Des étudiants plutôt turbulents ! 12. Terrible place de Grève 13. Qui dirige la ville ? 14. まとめ 15. 全体のまとめ	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランスあるいはフランス語圏の現代社会に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前にテキストを精読して授業に臨むようにしてください。また授業で配布する参考資料を授業後に整理するようにしてください。		
テキスト、参考文献	Pascal Varejka, <i>Paris au Moyen Age</i> , Éditions Parigramme, 2014.		
評価方法	平常点（20％）と、テスト（1 回）の成績（80％）を総合して評価します。		

09 年度以降	フランス現代社会講読Ⅱ	担当者	藤田 朋久
講義目的、講義概要		授業計画	
フランス史の有名なエピソードやフレーズを集めて解説した下記の本から、アンシアン・レジームに関する3つの章を選んで読みます。またあわせて他の補足資料も読む予定です。フランス語の読解力を向上させるとともに、フランス史の理解を深めることを目的とする授業です。		1. 授業ガイダンス 2. François 1 ^{er} , un roi chevalier en plein XVI ^e siècle (1) 3. François 1 ^{er} , un roi chevalier en plein XVI ^e siècle (2) 4. François 1 ^{er} , un roi chevalier en plein XVI ^e siècle (3) 5. François 1 ^{er} , un roi chevalier en plein XVI ^e siècle (4) 6. La journée des dupes (1) 7. La journée des dupes (2) 8. La journée des dupes (3) 9. La journée des dupes (4) 10. L'État, c'est moi ! (1) 11. L'État, c'est moi ! (2) 12. L'État, c'est moi ! (3) 13. L'État, c'est moi ! (4) 14. まとめ 15. 全体のまとめ	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランスあるいはフランス語圏の現代社会に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前にテキストを精読して授業に臨むようにしてください。また授業で配布する参考資料を授業後に整理するようにしてください。		
テキスト、参考文献	Antoine Auger et Dimitri Casali, <i>Petites histoires de l'histoire de France</i> , Flammarion, 2007.		
評価方法	平常点（20％）と、テスト（1回）の成績（80％）を総合して評価します。		

09 年度以降	フランス現代社会講読 I	担当者	尾玉 剛士
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、現代フランスにおける社会保障改革に関する平易な仏語テキストを輪読します。講義の目的は、フランスにおける社会保障改革の動向を理解すること、および政治学・経済学・人口学などの社会科学系のフランス語を習得することです。 春学期は「医療制度改革」に関する手頃な入門書を読みます。随時、専門用語の解説を行いますから、社会保障制度に関する基礎知識は前提としません。ただし、テキストの読み上げと翻訳を求めるため、予習は必須です。		1. ガイダンス 2. テキストの輪読 3. テキストの輪読 4. テキストの輪読 5. テキストの輪読 6. テキストの輪読 7. 中間まとめ 8. テキストの輪読 9. テキストの輪読 10. テキストの輪読 11. テキストの輪読 12. テキストの輪読 13. テキストの輪読 14. まとめ① 15. まとめ②	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランスあるいはフランス語圏の現代社会に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回、テキストの指定範囲を予習して、発音練習と翻訳を済ませておくことが求められます。復習時には、どのような問題がテストに出るのか想像しながら取り組むと効果的です。		
テキスト、参考文献	Bruno Palier, 2015, <i>La réforme des systèmes de santé</i> (7 ^e éd.), Paris : PUF, « Que sais-je ? ».		
評価方法	平常点（授業態度）30％・中間テスト 30％・期末テスト 40％		

09 年度以降	フランス現代社会講読Ⅱ	担当者	尾玉 剛士
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、現代フランスにおける社会保障改革に関する平易な仏語テキストを輪読します。講義の目的は、フランスにおける社会保障改革の動向を理解すること、および政治学・経済学・人口学などの社会科学系のフランス語を習得することです。 秋学期は「年金制度改革」に関する手頃な入門書を読みます。随時、専門用語の解説を行いますから、社会保障制度に関する基礎知識は前提としません。ただし、テキストの読み上げと翻訳を求めるため、予習は必須です。		1. ガイダンス 2. テキストの輪読 3. テキストの輪読 4. テキストの輪読 5. テキストの輪読 6. テキストの輪読 7. 中間まとめ 8. テキストの輪読 9. テキストの輪読 10. テキストの輪読 11. テキストの輪読 12. テキストの輪読 13. テキストの輪読 14. まとめ① 15. まとめ②	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランスあるいはフランス語圏の現代社会に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回、テキストの指定範囲を予習して、発音練習と翻訳を済ませておくことが求められます。復習時には、どのような問題がテストに出るのか想像しながら取り組むと効果的です。		
テキスト、参考文献	Bruno Palier, 2014, <i>La réforme des retraites</i> (5 ^e éd.), Paris : PUF, « Que sais-je ? ».		
評価方法	平常点（授業態度）30％・中間テスト 30％・期末テスト 40％		

09 年度以降	フランス現代社会講読 I	担当者	湯浅 博雄
講義目的、講義概要		授業計画	
この講読では、ボードレールの散文詩集『パリの憂鬱』を厳密に読み、正確な日本語に翻訳することを目指す。『パリの憂鬱』という詩的散文による物語集には、「芸術家の告白の祈り」や「二重の部屋」のように、文学者・芸術家の創作の喜びとか至福感およびそれと一体になった不安とか失墜の怖れなどを分析しているものもある。だが、また他方には、「群衆」、「妖精たちの贈り物」、「贗金」のように、パリという大都会のなかで、いわば「現代生活」を生活している同時代の人々——民衆——を、生き生きと描いているものもある。 まず前者から始めて、ボードレールの芸術観の特徴をつかみつつ、やがて後者の散文詩のなかに、ボードレールがなにを浮き彫りにしようとしたのかを探究しよう。		1. および 2. 講読の概要・説明 3. および 4. ボードレールの散文詩集『パリの憂鬱』について 5. および 6. 『パリの憂鬱』のもつ芸術的な意味あい 7. および 8. 『パリの憂鬱』のもつ社会学的な意味あい 9. ボードレールの詩「芸術家の告白の祈り」講読 10. ボードレールの詩「芸術家の告白の祈り」解釈・鑑賞 11. ボードレールの詩「二重の部屋」講読 12. ボードレールの詩「二重の部屋」解釈・鑑賞 13. ボードレールの詩「英雄的な死」講読 14. ボードレールの詩「英雄的な死」解釈・鑑賞 15. この学期の講読の包括的なまとめ	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランスあるいはフランス語圏の現代社会に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。要点の復習をしてください。		
テキスト、参考文献	こちらで、プリントを用意する。阿部良雄『ボードレール 現代性の成立』河出書房新社		
評価方法	実際にあたって訳すこと（50%）によって評価するが、期末に自由なレポートを提出してもらうこと（50%）によっても評価する。		

09 年度以降	フランス現代社会講読Ⅱ	担当者	湯浅 博雄
講義目的、講義概要		授業計画	
この学期には、フランス現代社会講読Ⅰを引き継いで、ボードレールの散文詩集『パリの憂鬱』を厳密に読み、正確な日本語に翻訳することを目指す。 『パリの憂鬱』という詩的散文による物語集には、「群衆」、「妖精たちの贈り物」、「贗金」、「寡婦たち」などのように、パリという大都会のなかで、いわば「現代生活」を生活している同時代人々——民衆——を、生き生きと描いているものがある。ボードレールは、都市の住民の現代生活のなかで、なにに関心を抱いたのか、なにに着目し、訴えかけようとしたのかを、できるかぎり深く探究してみよう。		1. および 2. 講読の概要と説明 3. および 4. ボードレールの散文詩集『パリの憂鬱』の解説 5. および 6. 『パリの憂鬱』を社会的な仕方と読むこと 7. ボードレールの詩「群衆」講読 8. ボードレールの詩「群衆」解釈・鑑賞 9. ボードレールの詩「妖精たちの贈り物」講読 10. ボードレールの詩「妖精たちの贈り物」解釈・鑑賞 11. ボードレールの詩「贗金」講読 12. ボードレールの詩「贗金」解釈・鑑賞 13. ボードレールの詩「寡婦たち」講読 14. ボードレールの詩「寡婦たち」解釈・鑑賞 15. この学期の講読の包括的なまとめ	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランスあるいはフランス語圏の現代社会に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。要点を復習してください。		
テキスト、参考文献	こちらで、プリントを用意する。阿部良雄『ボードレール 現代性の成立』、河出書房新社		
評価方法	実際にあたって訳すこと（50％）によって評価するが、期末に自由なレポートを提出してもらうこと（50％）によっても評価する。		

09 年度以降	フランス現代社会講読 I	担当者	横地 卓哉
講義目的、講義概要		授業計画	
声に出して読むフランス語 フランス語で書かれた社会科学系のテキスト（文章など）を、耳にただでわかるように読むことを目指します。授業でも、実際に繰り返して声に出して読んでいただきます。読む本人がわかっていなければ、聞いているひとがわかることは非常に難しいでしょう。書かれたテキストの意味をとらえ、ひとに伝える力を、実践をとおして身につけていきます。 今年度は2016年11月に出版された、多様な分野の専門家たちの手になる論文集をとりあげます。 いわゆる「仏文和訳」の授業はおこないません。とくにフランス語として、内容として難しい部分への質問・解説に時間をかけます。 小テストではテキストを暗記して書いていただくこともおこないます。		1. オリエンテーション・ガイダンス・小テスト 2. 序章 (1／4) 3. (2／4) 4. (3／4) 5. (4／4) 6. 第1章 (1／3) 7. (2／3) 8. (3／3) 9. 第2章 (1／3) 10. (2／3) 11. (3／3) 12. 第3章 (1／3) 13. (2／3) 14. (3／3) 15. まとめ・復習	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランスあるいはフランス語圏の現代社会に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの予習・復習・暗記		
テキスト、参考文献	Sous la direction de Jean Birnbaum, <i>Où est le pouvoir ?</i> Gallimard, collection Folio / Essais, 2016 (参考文献はオリエンテーションのとき、および授業中に紹介します。)		
評価方法	小テスト60％（第1回はアンケートをかねて4月6日におこないます。第2回以降については同日日程をお知らせします）・定期試験40％ 4年生に対する特別な配慮は一切おこないません。		

09 年度以降	フランス現代社会講読Ⅱ	担当者	横地 卓哉
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期参照		1. オリエンテーション・ガイダンス 2. 第4章 (1／4) 3. (2／4) 4. (3／4) 5. (4／4) 6. 第5章 (1／3) 7. (2／3) 8. (3／3) 9. 第6章 (1／3) 10. (2／3) 11. (3／3) 12. 第7章 (1／3) 13. (2／3) 14. (3／3) 15. まとめ・復習	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランスあるいはフランス語圏の現代社会に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	春学期参照		
テキスト、参考文献	春学期参照		
評価方法	小テスト60％（第1回はアンケートをかねて9月28日におこないます。第2回以降については同日日程をお知らせします）・定期試験40％ 4年生に対する特別な配慮は一切おこないません。		

09 年度以降	フランス現代社会講読 I	担当者	根木 昭英
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、ジャン＝ポール・サルトルによる講演「実存主義はユマニスムである（邦題「実存主義とは何か」）」（1945）を講読します。サルトルは、第二次大戦後にフランス思想界を席卷した「実存主義」を代表する哲学者です。彼の残した膨大な著作のなかでも、この短い講演はもっとも一般によく読まれているテキストの一つであり、じっさいその議論は、（講演ゆえの多少の単純化を伴いつつも）実存主義思想の大筋を、その問題点をも含めて提示する、サルトル思想への最良の導入となっています。 講読を進めるにあたっては、毎回の発表者を割り当て、担当箇所について訳読と解説を行ってまいります。毎回の講読を通じ、サルトルの思索を丁寧に読み取っていくとともに、われわれ人間ひとりひとりとはどのような存在なのか、またそのかぎり、社会においていかに振る舞うべきなのかといった問いについても考えます。		1. 導入 2. 「実存主義への批判」 3. 「実存と本質」 4. 「実存主義の人間観」 5. 「人間の責任」 6. 「選択と不安、自己欺瞞」 7. 「自由」 8. 「モラルの問題」 9. 「アンガージュマン」 10. 「主観性の問題」 11. 「普遍性の問題」 12. 「状況と選択」 13. 「具体的モラルと本来性」 14. 「ユマニスム」 15. まとめ	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランスあるいはフランス語圏の現代社会に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	次の授業で講読する箇所について、毎回事前に予習しておいてください。要点の復習も行ってください。		
テキスト、参考文献	Jean-Paul Sartre, <i>L'existentialisme est un humanisme</i> , folio essais（原書は購入してください） サルトル、『実存主義とは何か』、伊吹武彦訳、人文書院		
評価方法	発表や発言を通じた授業への貢献度：50%、期末レポート：50%		

09 年度以降	フランス現代社会講読Ⅱ	担当者	根木 昭英
講義目的、講義概要		授業計画	
フランスにおいては、ヴォルテールからユゴー、ゾラを経て現代にいたるまで、「知識人」が社会における大きな役割を果たすという伝統があります。そうしたなかでも、20世紀の哲学者ジャン＝ポール・サルトルが果たした役割はとくに大きく、「知識人」が問題となるさいには、彼に対する批判的な言説を含めた多くの議論において、サルトルが最重要の参照項とされています。 本講読では、そのサルトルが「知識人」というテーマに正面から取り組んだ一連の講演「知識人の擁護」（1966）を扱います。講演の精読を通じ、彼のけっして単純ではない知識人論を理解するとともに、現代社会において思想家や作家がどのような役割を果たすべきなのか（あるいは果たすべきでないのか）について考えてみたいと思います。 講読を進めるにあたっては、毎回の発表者を割り当て、担当箇所について訳読と解説を行ってまいります。		1. 導入 2. 「知識人とは何か」① 3. 「知識人とは何か」② 4. 「知識人とは何か」③ 5. 「知識人とは何か」④ 6. 「知識人の機能」① 7. 「知識人の機能」② 8. 「知識人の機能」③ 9. 「知識人の機能」④ 10. 「知識人の機能」⑤ 11. 「作家は知識人か」① 12. 「作家は知識人か」② 13. 「作家は知識人か」③ 14. 「作家は知識人か」④ 15. まとめ	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランスあるいはフランス語圏の現代社会に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	次の授業で講読する箇所について、毎回事前に予習しておいてください。要点の復習も行ってください。		
テキスト、参考文献	開講時に指示します。		
評価方法	発表や発言を通じた授業への貢献度：50%、期末レポート：50%		

交 流 文 化 論

09 年度以降	交流文化論（国際会議・イベント事業論）	担当者	井上 泰日子
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的： 2020年の東京での開催をひかえ、オリンピック、パラリンピックが大きな注目を集めている。本講義においては、オリンピック、パラリンピックはじめ、博覧会、国際会議、その他各種イベントについて学習する。		1. オリエンテーション 2. イベント・コンベンションについて① 3. イベント・コンベンションについて② 4. 国際博覧会 5. 2020年東京オリンピック・パラリンピック 6. 障害者スポーツとパラリンピックについて 7. 国際会議・イベントについての「ディスカッション」 8. 古代オリンピック 9. ビジネスの視点からのオリンピック① 10. ビジネスの視点からのオリンピック② 11. プレゼンテーション： 「2020年・東京オリンピック・パラリンピックをどのように成功させるか」①	
講義概要： オリンピック、パラリンピック、博覧会、国際会議などについて歴史的経緯、現状などを学習し、さらに、その具体的な仕組みや役割を理解する。また、これら国際会議、イベントとツーリズムの関係についても学習する。最後は、東京オリンピック・パラリンピックに焦点をあて、“それをどのように成功させるか”、“どのようにして国や地域振興に生かすか” などについて、各自パワーポイントを使用しプレゼンテーションを行う。		12. 〃 ② 13. 〃 ③ 14. 〃 ④ 15. まとめ	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	新聞、関連文献などを事前に読むこと。配布した資料の復習。		
テキスト、参考文献	適宜個別資料を配布する。		
評価方法	授業での発言、受講姿勢、講義参画 70%、プレゼンテーションとレポート 30%		

09 年度以降	交流文化論（開発文化論）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
私たちは何のために、誰に対して開発支援をするのでしょうか。そこでいう開発とは何でしょうか。グローバルとローカルなものとの対抗・交渉は現代の地球社会を考える重要な視座の1つです。この講義は、開発文化論として、グローバル化に翻弄される伝統社会・文化と社会的弱者達の変容と反応について考えます。講義される事例は、担当教員の調査研究の成果であるメキシコ南部の先住民族に関するものが中心となりますが、地域研究ではなく、アジアその他の地域の事例も適宜交え、より普遍的な視点から、発展途上地域の開発問題について考察します。近年、グローバル化の進展に対抗するように、ローカルな文化や環境を重視したもう1つの動きが内発的な発展として世界各地で活発化してきています。開発と貧困、ジェンダー、教育、宗教、先住民族の権利、構造的暴力と民衆、NGOや協力する者の立場といった話題を、現場の事例をみながら考えてきます。		1. 講義の概要 2. 豊かさの指標：開発とは何か、貧困とは何か 1章 3. 近代化と文化変容（ビデオ『懐かしい未来』） 4. 貧者と共に生きる：フェアトレード誕生秘話3章 5. 教育・学び・文化4章、5章 6. ジェンダーとフェミニズム6章2 7. 宗教と社会開発 NGO 7章2 8. ローカルメディアとアイデンティティ戦略 7章3 9. 開発ワーカーと異文化適応※教室内ワークショップ 10. 開発は自分たちの手で（ビデオ『グラミン銀行』予定） 11. 新自由主義・構造調整と農民の自己防衛8章2 12. 巨大開発計画と地域住民・NGO 8章3 13. 貧者と人間の尊厳（ビデオ『セバスチャン・サルガド（「アフリカ」等で知られる写真家）』） 14. 日本の開発経験：生活改善運動と一村一品運動から 15. まとめ、試験対策	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの熟読、授業ノートを踏まえたテキストの再読		
テキスト、参考文献	（テキスト）北野収『南部メキシコの内発的発展と NGO』勁草書房。 ※DUO で各自購入してください		
評価方法	期末試験（70%）、学期中課題（30%）、教室内ワークショップ貢献（+α）。		

09 年度以降	交流文化論（航空産業論）	担当者	井上 泰日子
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的： 我が国は人口減少、一方世界の人口は増え続けている。グローバル化の進展、さらに世界の人口増加で他の輸送手段の追随を許さない航空の重要性はますます高まっている。同時に近年注目を集めている L C C（低コスト航空会社）の拡大、多様化など、航空産業は大きな変革の過程にある。本講義では、航空の歴史、現状、未来についての基礎的、かつ具体的な知識の習得を目的としている。 講義概要： 本講義では、航空輸送の各テーマに加え、航空輸送と航空機製造の連携の構造についての解説も行う。また、様々なビジネス理論の解説も行う。時間に余裕があれば航空産業におけるキャリアデザイン、就職活動の現状についても解説を行う。		1. オリエンテーション 2. 最近の航空産業の動きなど 3. 航空産業とキャリアデザイン 4. 航空とは何か 5. 航空の歴史 6. L C C（低コスト航空会社）が世界を変える 7. 航空事業の特性と運賃 8. 米国チャプター 1 1（連邦破産法第 1 1 章） 9. J A L の破綻と復活 10. 規制緩和とオープンスカイ政策 11. 航空機製造ビジネス 12. 三菱リージョナルジェット（MR J）飛翔 13. 空港 14. 国際航空法 15. 講義全体の“まとめ”	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの丁寧な予習と復習（事前の予習無しでは理解が難しい内容も含まれている）		
テキスト、参考文献	テキスト（教科書）：『最新・航空事業論（第 2 版）』（2016 年 12 月、日本評論社）		
評価方法	受講姿勢、ディスカッションでの発言など講義参画 50%、最終試験 50%		

09 年度以降	交流文化論（ツーリズム政策論）	担当者	井上 泰日子
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的： ツーリズムにおける政策や課題を理解することを目的としている。ツーリズム政策は、国家の主要政策として世界各国で推進されてきたが、グローバル化が進展する今日その重要性がさらに高まっている。このような現状を踏まえながらマーケティングの視点も含め、より多様な視点からツーリズム政策を分析する。同時に、未来に向けての新たなツーリズム政策の考察を行う。		1. オリエンテーション 2. ツーリズムの基本構造（1） 3. ツーリズムの基本構造（2） 4. マーケティングとは何か？ 5. ツーリズム政策とマーケティング理論 6. ツーリズム政策の変遷 7. ツーリズム政策における我が国の課題 8. （ツーリズム政策に関する）ディスカッション 9. 世界のツーリズム政策（シンガポール） 10. 世界のツーリズム政策（ドイツ） 11. 世界のツーリズム政策（スイス） 12. 世界のツーリズム政策（フランス） 13. 日本各地のツーリズム政策（地域振興など） 14. ツーリズムとキャリアデザイン 15. 講義全体の“まとめ”	
講義概要： ツーリズムは単にレジャー領域のものではなく、経済、文化などの社会活動に深く関わるものである。このようなツーリズム政策の各テーマについて、単に一方的な解説だけではなく、ディスカッション等を通して受講生自ら新たなツーリズム政策を提案するなどの試みを通して理解を深めていく。			
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	新聞などメディア情報を確認し、ツーリズムに関する情報を事前に予習しておくこと		
テキスト、参考文献	適宜個別資料を配布する		
評価方法	受講姿勢、ディスカッションでの発言など講義参画 50%、最終試験 50%		

09 年度以降	交流文化論（食の文化論）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
食と農を題材にしたグローバリゼーション研究の授業です。食べ物は私達にもっとも身近で不可欠なものです。人間、家族、コミュニティに密接不可分・地域固有な存在であった「食」が、近代～現代という歴史的過程で、ナショナル化さらにはグローバル化されていく過程を考え、そこで見落とされがちな問題を考えていきます。一方で、現代の世界は、「飢餓と飽食」が同時に進行するという危機的な状況にあります。私たちの住む日本では、食料の大半を海外から輸入しながら、食べ物の多くを廃棄しています。耕す土地はあるのに耕す人がいないため、耕地が放棄されています。農業は危機的な状況にあります。食べ物は人に幸せをもたらす一方で、それをめぐって国と国が対立し、憎しみ合うこともあります。こうした現象の背景として、政治、経済、文化など様々な要素が複雑に絡み合っています。このような現状を踏まえ、「食」を手がかりに、私たちの身の回りを点検し、地球社会のことを考えます。		1. 講義の概要 2. 食の文化を見る眼：文化とは何か 3. 食の地誌論（風土と食） ※ビデオ『人間は何を食べてきたか』 4. 私たちの食生活の変化：自給率問題を手がかりに 5. 遺伝資源は誰のものか（農民から国家、企業へ） 6. マクドナルド化と食生活：合理化と脱人間 7. ナショナリズムと食：伝統の形成と思い込み 8. 食卓と家族団らん：その意義をあらためて考える 9. コーヒーのグローバルヒストリー 10. フェアトレード：食と社会正義、倫理的消費 11. シビック・アグリカルチャー① 12. シビック・アグリカルチャー② 13. イタリアのスローフード、日本のテイケイ、地産地消 14. 食の「再ローカル化」(re-localization) ※ビデオ フランス映画『未来の食卓』 15. 講義のまとめと試験対策	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	資料の通読、自分でとったノートの整理。		
テキスト、参考文献	学期中レポート課題図書 トーマス・ライソン著、北野収訳『シビック・アグリカルチャー：食と農を地域にとりもどす』農林統計出版。※各自で DUO で購入すること。		
評価方法	期末試験（70%）、学期中レポート1回（30%）。		

13 年度以降	交流文化論（ツーリズム特殊講義 (紛争事例から学ぶ旅行契約法入門))	担当者	花本 広志
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では、旅行契約に関わる具体的な紛争事例の解決策を検討することを通じて、旅行契約に関わる法（主に民法）のあり方と基本的な考え方を学びます。全部で3つの紛争事例を課題として取り上げる予定ですが、各事例の解決に向けて、グループで活動しながら、課題の解決に必要な知識や技能、態度を協動的・自立的に学習していきます。最後に総仕上げとして、口頭発表会を開催して、各自（履修者数によってはグループごと）の学習成果を発表します。 この授業を通じて、旅行契約において生じる法的問題のうち、少なくとも1つについて、法律学を学習したことのない人に対して、分かりやすく、自分の言葉で、簡潔に（口頭3分、文書1200字程度）、ただし法的思考の作法に従って、解答することができるようになることを目指します（これがこの授業の獲得目標の一つになります）。 具体的な授業の進め方や成績評価の方法などについては、第1回のオリエンテーションで詳しく説明します。受講者のみなさんの主体的な参加が必須となる授業ですので、受講希望者は、可能な限り第1回目のオリエンテーションに出席して、どのような授業か理解したうえで履修してください。		1. オリエンテーション 2. PBLウォーミングアップ 3. 第1事例（その1） 4. 第1事例（その2） 5. 第1事例（その3） 6. 第2事例（その1） 7. 第2事例（その2） 8. 第2事例（その3） 9. 第3事例（その1） 10. 第3事例（その2） 11. 第3事例（その3） 12. 口頭発表会の準備 13. 口頭発表会（その1） 14. 口頭発表会（その2）（予備を兼ねる） 15. まとめと振り返り（予備日）	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各事例1回目の授業後は、授業中の活動を通じて抽出した学習課題について、各自が調査・検討し、2回目の授業では、その結果を持ち寄って、さらに学習課題を抽出し、授業後は、その課題について各自が調査・検討して、3回目の授業にその結果を寄せ合い、検討してまとめる、というサイクルになります。		
テキスト、参考文献	学習に必要な文献・資料は、原則として受講者自身が協力し合って調査・収集するのを基本としますが、必要に応じて、教員が指示ないし配布します。		
評価方法	ラーニング・ポートフォリオ（受講者自身による学習成果のまとめ）による評価とします。		

13 年度以降 12 年度以前	交流文化論（地域開発論） 交流文化論（市民参加のまちづくり論）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
草の根レベル、ミクロの視点から、開発問題について、日本と海外、都市と農村など地域や分野を横断的に取り扱い、そこにある普遍的な理論や問題を考えます。地域や町が発展するということはどういうことでしょうか。道路やビルを造ること、景観を整備すること、イベントにより集客を図り商店街を活性化させる等々いろいろな捉え方があります。そこに、なぜ住民の参加が必要なのでしょう。それは互いに異なる者同士が、コミュニケーションする場と空間が必要だからです。本講義では、「開発・発展＝人々の間のコミュニケーションの総和」として捉えます。取り上げる事例は、生ゴミリサイクルによる地産地消、都市近郊での環境教育、NYのドッグランと防犯、インドネシアでのNGO活動など、多様ですが、人々のコミュニケーションという共通の視座を考えていきます。教科書として指定する書籍には、地域計画に関するやや専門的な内容も含まれますが、できるだけ分かりやすくかみ砕いて解説するように努めますので、この点に関する心配は無用です。		1. イントロダクション 2. 地域の発展を理解するための視座（教科書 1 章） 3. 住民参加(participation)の意義と多義性（2 章） 4. 生ごみリサイクルにみる町づくり制度構築：山形県（3 章） 5. 地域づくり・環境教育におけるキーパーソン：兵庫県（4 章） 6. つながりを育む仕組み（ビデオ『坂本龍一・地域通貨の未来』） 7. 共益から公益の創出へ：NYと東京のドッグラン（10 章） 8. スラムとコミュニティ開発：ブラジル（ビデオ） 9. 地域づくりと外部者のまなざし：島根県（7 章） 10. 参加型開発：熊本の事例（教室内ワークショップ） 11. 開発とコミュニケーション：インドネシア NGO 支援（11 章） 12. ソーシャルキャピタル・社会関係資本 13. 百年先を考えたまちづくり（ビデオ『湯布院癒しの里の百年戦争』『ドイツの持続可能な町づくり』） 14. アクセシブル観光・ユニバーサル交流：北海道、山梨、岩手等の事例（8 章） 15. まとめ、試験対策	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	テキストの熟読、授業ノートを踏まえたテキストの再読		
テキスト、 参考文献	（テキスト）北野収編『共生時代の地域づくり論』農林統計出版 ※DUO で各自購入してください		
評価方法	期末試験（70%）、学期中課題（30%）、教室内ワークショップ貢献（+α）。		

09 年度以降	交流文化論（トランスナショナル社会学）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
目的：グローバル化時代の現代社会を考える手がかりとして、①国民国家・国境の存在を相対化することによって初めて見えてくる人々や文化の越境現象の<u>実際を知る</u>こと、②それを踏まえたより踏み込んだ意味での「<u>共生</u>」<u>概念の可能性を考える</u>こと、③国際的視点のみならず民際的視点も併せ持った複眼的な視点から、文化・社会・政治における諸現象を考えられるようになること、の3点です。 21 世紀のキーワードである「共生」を基底概念として、人間と価値の越境現象に着目する。グローバル化に伴う社会構造の変動に規定された様々な越境現象の実情と、当事者のアイデンティティ・民族・国家の相関関係について考察します。関連する理論・言説について講義するとともに、ディアスポラとしての外国人花嫁、アイヌと在日の問題、消えた民「サンカ」などの日本国内の事例を中心に上げます。それらを踏まえて、「国際」視点から「民際」視点の転換の意義、地域における交流活動や「学び」の実践の可能性について展望します。		1. 授業の概要 2. 社会学とは 3. 諸概念の概説：トランスナショナリズムとは 4. 国境・国民概念①：アイヌからみた日本とロシア 5. 国境・国民概念②：知られざる漂泊民サンカの末路 6. グローバル化と越境現象①：移民とトランスナショナリズム 7. グローバル化と越境現象②：移民と地域における受容 8. グローバル化と越境現象③：若者の『文化移民』と日本回帰 9. 国際結婚①：国際結婚の語源と歴史 10. 国際結婚②：日本人の国際結婚と越境する女性達 11. 中間まとめ ※ビデオ『となりの外国人』（予定） 12. アイデンティティについて 在日コリアンを例に 13. 民際協力としての自治体国際協力 14. 講義全体のまとめ 15. 試験対策	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	資料の通読、自分でとったノートの整理。		
テキスト、参考文献	参考文献は適宜授業中に示す。		
評価方法	期末試験（85％）、学期中宿題としてレポート課題が1回ある（15％）。		

09 年度以降	交流文化論（ツーリズム・マネジメント論）	担当者	鈴木 涼太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
現代ツーリズムの発展は、旅行にかかわる諸サービスを大量生産・消費可能な商品として提供するツーリズム／観光関連産業の発展抜きに語ることが出来ない。 本科目では、これまでツーリズム研究で蓄積されてきた理論的枠組みをいくつか紹介しながら、ツーリズムの現場における人間や空間、イメージの管理の在り方について批判的視点を身につけることを目標とする。それゆえ、本講義で扱うマネジメントの範囲は、ツーリズム産業の企業活動における問題解決や現実的課題には限定されない点に留意されたい。 講義では、まずツーリズム商品の基本的な特徴に留意しつつ、関連産業のしくみについて概説する。次に、ツーリズム商品のマネジメントにかかわる具体的な事例を取り上げ、現在のツーリズム産業が抱える課題について検討する。ゲストスピーカーによる授業となることもある。		1. ガイダンス 2. ツーリズム商品の特徵①：マーケティングからの視点 3. ツーリズム商品の特徵②：記号・イメージ消費 4. ツーリズム産業の競争環境 5. パッケージツアー①：マクドナルド化された旅行？ 6. パッケージツアー②：イメージをパッケージ化する 7. パッケージツアー③：身体化される団体旅行 8. パッケージツアー④：商品企画における「知識」 9. 空間の管理とテーマ化 10. テーマ化された空間とハイブリッド消費 11. 感情労働 12. テーマ化された空間に暮らす 13. 生活とツーリズム 14. 「ツーリズムの終焉」とツーリズム産業 15. まとめ	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業内での指示に従い各自が予習復習を行うこと。		
テキスト、参考文献	授業内で適宜紹介する。		
評価方法	授業への参加度／講義内小課題 20% 期末試験 80%		

09 年度以降	交流文化論（ツーリズム文化論）	担当者	鈴木 涼太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
人間の地球規模での移動の一形態であるツーリズムは、必然的にそれに付随した「モノ」の移動をとまなう。本講義では、ツーリズムに関連したモノの移動の代表例として観光みやげを取り上げ考察する。おみやげという身近な存在を通じて、グローバルな人とモノの移動と文化をめぐる動態について考える視野を身につけることを目標とする。 講義では、まず日本における観光みやげの成立やその生産や流通、販売にかかわる産業の現状について紹介し、次にみやげの存在を規定するいくつかの論理について概説する。その上で、ツーリズムを介したみやげというモノの移動が、文化の消費、移転、生産にいかにかかわっているのかについて具体的な事例をあげながら考察する。		1. ガイダンス 2. ツーリズムにおけるモノの文化的消費 3. おみやげとスーベニア 4. 観光みやげの近代 5. 「民芸品」をめぐるまなざし 6. 観光みやげと真正性 7. 観光みやげのギフト性 8. 観光みやげの儀礼的倒錯性 9. 観光みやげと「ものがたり」 10. こけしと木彫り熊 11. 旅するマトリョーシカ① 12. 旅するマトリョーシカ② 13. 民芸品としてのアジア雑貨 14. アジアン雑貨が創る旅 15. まとめ	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業内での指示に従い各自が予習復習を行うこと。		
テキスト、参考文献	授業内で適宜紹介する。		
評価方法	授業への参加度／講義内小課題 20% 期末試験 80%		

13 年度以降	交流文化論（トランスナショナル文化特殊講義 （グローバル化と子ども））	担当者	堀 芳枝
講義目的、講義概要		授業計画	
世界では約 2 億 6000 万人の子どもが児童労働に従事している。こうした子どもたちが抱える問題やその背景を理解すると同時に、グローバル化や私たちがどのようにかかわっているのかを理解する。また、問題を解決するために、国際機関や NGO の取り組みについて理解する。 この授業を通じて、世界の子どもたちの問題について単に「かわいそう」というだけでなく、社会科学的に理解し説明できるようになります。また、「子どもの権利条約」を理解して、現状を分析し、解決方法について考えることができるようになります。また、国際社会の規範の変容における国連の役割、国家・社会の規範や政策の変容プロセスを理解し、説明することができるようになります。		1. ガイダンス（概要と、予習・復習について） 2. アジアの児童労働 3. タイのストリート・チルドレン 4. 赤ちゃんの値段－国際養子縁組問題 5. 女性と子どものヒューマン・トラフィック Part I 6. 女性と子どものヒューマン・トラフィック Part II 7. ヒューマン・トラフィック撲滅への取り組み 8. 日本の子どもの貧困 9. 在日外国人の子どもたちの問題（アクティブラーニング） 10. アフリカの子ども兵士 11. イラク戦争と子どもたち 12. 子どもの権利の実現に向けての国連の役割 13. 子どもと教育について（アクティブラーニング） 14. 国連の安全保障と子どもの保護 15. 今学期のまとめ（質疑応答など）	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された部分を事前に読んでおくこと。授業で示されるポイントに従って復習する。あるいは、授業で出された課題に取り組むこと。		
テキスト、参考文献	テキスト 初瀬龍平・戸田真紀子・松田哲編『国際関係の中の子どもたち』（晃洋書房、2015 年） 参考文献 授業中に紹介		
評価方法	定期試験 80%、授業中に課すリアクションペーパー 20%		

13 年度以降	交流文化論（トランスナショナル文化特殊講義 （グローバル経済とジェンダー））	担当者	堀 芳枝
講義目的、講義概要		授業計画	
経済のグローバル化が進展しているが、女性はどうのよう な影響を受けているのだろうか。それを知るためには、現 在経済成長が著しいアジアに着目するとよいだろう。アジ ア開発銀行は『アジア2050－アジアの世紀の誕生』（2012） の中で、現在のアジアの成長が続けば、その名目GDPは世 界全体の50%を超え、21世紀はまさしくアジアの世 紀だと述べた。したがって、アジア経済の成長（および日 本）と女性（ジェンダー）の関係に着目しながら、グロー バル経済の実態を解いてゆく。この授業を通して、古典的 国際分業から今日のグローバル経済を構成している3つの 新国際分業、金融領域のグローバル化、そしてそれぞれに おける女性の労働の問題を理解し、自分自身の問題として 考えることができるようになってもらいたい。		1. ガイダンスー授業の内容、進め方、予習復習について 2. 古典的国際分業の成立と植民地・女性 3. 冷戦とアジアの工業化政策（1950・60年代） 4. 新国際分業体制（1970年代）とアジアNIES・中国 5. 再生産領域の新国際分業とフィリピン（1980年代） 6. フィリピンの「移住労働の女性化」が抱える課題 7. サービスの新国際分業インド・フィリピン（2000年代） 8. グローバリゼーションと新自由主義 9. 日本の女性の労働力の商品化“輝ける女性の活躍”？ 10. 金融領域のグローバル化とは？ 11. アジア通貨危機を考える 12. 金融領域のジェンダー化の問題 13. ASEANと東アジア共同体について 14. これからの中国の経済成長について考える 15. 今学期のまとめ（質疑応答など）	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	授業の指示に従って予習を行うこと。復習は授業で示されるポイントに従って、プリントやノートに書か れたことをまとめておくこと。		
テキスト、 参考文献	授業の初回で参考文献リストを配布		
評価方法	定期試験 80%、授業中に課すリアクションペーパー 20%		

09 年度以降	交流文化論（トランスナショナル・メディア論）	担当者	山口 誠
講義目的、講義概要		授業計画	
メディアとは、人と人をつなげ、事実やメッセージを伝えるための透明な「パイプ」ではありません。ときに事実と異なる情報を伝え、あるいは「事実」そのものを作り出し、そして人と人を分断することもあります。 ならば、いつ、どうして「メディア」は生まれ、どのような仕組みを持ち、いかなる機能を果たすようになったのでしょうか。そしてトランスナショナル・メディアとは、いかなる存在でしょうか。 この講義では、「国際報道」「国際宣伝」「国境を越えて流通するイメージや情報」を柱とするトランスナショナル・メディアの事例を歴史的に検討し、その特性を理解することを目的とします。たとえば中世の活版印刷術と新約聖書、近代の戦争報道と国際プロパガンダ、現代のインターネット・ジャーナリズムなどを多角的に分析します。 メディア研究の基礎から最新の議論を学ぶことで「メディア」の機能と仕組みを考え、トランスナショナル・メディアを「読み解く」だけでなく「使いこなす」ための批判的思考とリテラシーを習得することを目指します。		1. ガイダンス:「トランスナショナル」と「メディア」とは？ 2. メディアの源流①:メディアとしての新約聖書 3. メディアの源流②:宗教戦争とナショナルな想像力 4. 近代とメディア①:ジャーナリズムとリテラシーの曙 5. 近代とメディア②:「個人」の誕生と「国家」の変容 6. 近代とメディア③:「日刊新聞」以前・以後 7. 近代とメディア④:ニューヨーク・タイムズの19世紀 8. 近代日本のトランスナショナル・メディア 9. 20世紀とメディア①:国際プロパガンダと「宣伝」 10. 20世紀とメディア②:ベトナム戦争と ニュー・ジャーナリズム 11. 20世紀とメディア③:湾岸・イラク戦争と”Media War” 12. 国際報道の現在形①:「ライブ」という問題 13. 国際報道の現在形②:ネット時代の「ニュース」 14. 国際報道の現在形③:トランスナショナル・メディアと わたしたち 15. まとめ	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	授業中に示す事例や重要概念について図書館などで自ら調べ、さらに理解を深めてください。		
テキスト、 参考文献	授業で適宜紹介します。		
評価方法	期末試験 85%、授業参加度および学期中レポート 15%。		

13 年度以降	交流文化論（トランスナショナル文化特殊講義 （「観る」ことの文化史）	担当者	山口 誠
講義目的、講義概要		授業計画	
旅するとき、人はなぜ写真を撮るのでしょうか。何を撮り、何を撮らないのでしょうか。そもそも旅行にカメラを持って行くことを否定する人がいます。その人は何を忌避しているのでしょうか。逆にSNSへアップするためにフォトジェニックな場所へ旅する人や、旅先で「自撮り」する人が増えています——いったい「撮る」という行為は、いかなる意味を持つのでしょうか？ 「じっさい、観光はたいていが、写真になりそうなところを探し求める行為となった」という考え方もあります（アーリ&ラーソン、2011＝2014）。こうした観光写真あるいは写真観光の研究は世界的に注目を集めてきた一方、日本では極めて希少なのが現状です。 そのためこの講義では、(1) 海外の研究成果を日本の社会文脈に導入し、(2) 写真とツーリズムが出会い、相互に交渉してきた歴史を紐解き、(3) また「自撮り（Selfie）」や「絶景」や「SNSフォト」など最近のトランスナショナルな社会現象を考えること、を試みます。そうして「観る」という行為（パフォーマンス）の社会的意味を探り、近代社会におけるイメージとイマジネーションの諸問題を考えることを目的とします。		1. ガイダンス：「観る」ことと「まなざし」 2. 写真の歴史①：遠近法と写真術 3. 写真の歴史②：コダック化、作品化、ドキュメント化 4. 写真の歴史③：写真が「写真」になるとき 5. 海外の「まなざし」①：帝国主義と写真術 6. 海外の「まなざし」②：外国人が写した「日本」 7. 海外の「まなざし」③：天皇のイメージとイマジネーション 8. 「撮る」の政治学①：「動く画」の衝撃（映画の誕生） 9. 「撮る」の政治学②：映画が「映画」になるとき 10. 「撮る」の政治学③：ディズニー映画とdomestication 11. 「撮る」の政治学④：「まなざし」の政治と主体 12. 写真とツーリズム①：「撮る」ために移動する人々 13. 写真とツーリズム②：「自撮り」とセルフ・ポートレート 14. 写真とツーリズム③：SNS時代の「観る」体験 15. まとめ	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業中に示す事例や重要概念について図書館などで自ら調べ、さらに理解を深めてください。		
テキスト、参考文献	授業で適宜紹介します。		
評価方法	期末試験 85%、授業参加度および学期中レポート 15%。		

13 年度以降	交流文化論（トランスナショナル文化特殊講義 （シティズンシップ教育論））	担当者	花本 広志
講義目的、講義概要		授業計画	
シティズンシップ教育とは、citizenship（市民性）、すなわち、市民社会の一員としての知識、技能、態度や価値観を育む教育のことです。「主権者教育」と呼ばれることもあります。もっとも、そもそも「市民性」とは何かについては議論のあるところですし、主権者教育と同じなのかについても議論があります。さらには、法教育との関係も問題となります。これらの点も含めて、この授業では、シティズンシップ教育とは何か、どうあるべきか、その教育方法などについて、協同学習の手法の1つである「LTD話し合い学習法」により学習していきます。そのうえで、最終的には、受講者が協同して、小学校高学年～中学生向けのシティズンシップ教育用教材（1時限分）を作成することを目指します。 第1回のオリエンテーションでは、授業の目的と概要、成績評価の方法などについてより詳しく説明します。受講者のみなさんの主体的な参加が必須となる授業ですので、受講希望者は、可能な限り第1回目オリエンテーションに出席して、どのような授業が理解したうえで履修してください。		1. オリエンテーション 2. LTD導入ガイダンスとグループ分け 3. LTDの説明、予習及びミーティングの練習 4. LTDウォーミングアップ（練習用教材使用） 5. LTD第1回（市民性論・市民社会論） 6. LTD第2回（シティズンシップ教育） 7. LTD第3回（主権者教育） 8. LTD第4回（法教育） 9. LTD第5回（道徳教育との関係） 10. シティズンシップ教育用教材作成（その1） 11. シティズンシップ教育用教材作成（その2） 12. 教材発表会（受講者作成教材による模擬授業）1 13. 教材発表会 （受講者作成教材による模擬授業）2（予備） 14. 教材発表会の反省会（予備） 15. 授業全体のまとめと振り返り、 ラーニング・ポートフォリオの説明	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学修では、LTDの方法に従って、教材となる文献につき予習ノートを作成します。事後学修では、授業でのLTDミーティングの結果を受けてノートを整理します。また、教材作成では、素材の選定や原案の作成、発表会の準備などを授業外で行うことがあります。		
テキスト、参考文献	教材は、必要に応じてその都度配布します。LTD話し合い学習法について予め知りたい人は、安永悟『実践・LTD話し合い学習法』（ナカニシヤ出版、2006年）などを参照してください。		
評価方法	成果物とラーニング・ポートフォリオ（受講者自身による学習成果のまとめ）により評価します。		

09 年度以降	交流文化論（ツーリズム人類学）	担当者	須永 和博
講義目的、講義概要		授業計画	
ツーリズムがそれを受け入れる社会に与える影響は、経済的側面のみならず、社会的・文化的・政治的側面など多岐にわたっており、それゆえツーリズムを学術的に考察する際の方法論も多様です。 本講義では、特に文化人類学という学問を手がかりに、ツーリズムを「文化」という側面から検討するための基礎的概念・考え方について学ぶことを目的としています。 具体的には、1. ツーリズムを生み出す仕掛け、2. ツーリズムがもたらす影響、3. ツーリズムが作り出す文化、という3つの側面から講義を行い、ツーリズムを社会・文化現象として分析する際の基本的な視座の習得を目指します。同時に、ツーリズム研究に関連する現代人類学における主要な問題意識・諸概念についての理解を深めていきたいと思ひます。受講に際しては、文化人類学の基礎知識は必ずしも必要ありませんが、授業内で紹介する文献資料の読解を各自行なうなど、予習・復習が不可欠となります。		1. 趣旨説明 2. 映画『海と大陸』 3. グローバリゼーションの民族誌1 4. グローバリゼーションの民族誌2 5. 旅と観光 6. ビデオ上映『深夜特急1』 7. 表象の政治学—情報資本主義と観光 8. メディアと観光—「楽園」ハワイの文化史 9. 植民地主義と観光—「神々の島」バリの誕生 10. 文化装置としてのホテル 11. 世界遺産の窮状—カンボジアの事例 12. セックス・ツーリズム—タイの事例 13. エスニック・ツーリズム—タイの事例 14. 先住民文化の商品化と著作権—北欧サーミの事例 15. 「記憶の場」と観光—広島および西アフリカの事例	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	『観光学キーワード』『よくわかる観光社会学』などで、観光研究についての基本的知識について理解を深めておくこと。		
テキスト、参考文献	特に定めない。毎回、文献リストを配布する。		
評価方法	授業毎の小レポート(50%)、期末レポート(50%) 4 回以上の欠席で単位認定の条件を失う。		

09 年度以降	交流文化論（表象文化論）	担当者	高橋 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
（戦争の記憶と表象―記念碑とミュージアムを中心に） 昨年の授業に引き続いて、戦争の記憶と表象について、記念碑とミュージアムを中心に考察します。 今年は、若手の社会学者である古市憲寿が、やはり学生など若い読者を想定して書いた『誰も戦争を教えられない』をテキストとして使うので、少し身近な問題として考えてもらえるかな、と思っています。 靖国神社と「女たちの戦争と平和資料館」は、週末を利用して、授業のフィールドワークとして訪問したいと考えています。それ以外にもミュージアムの見学、映画鑑賞、学外でのセミナーへの参加など、積極的に行動してくれる学生に取って欲しい授業です。 テーマは昨年と同じですが、授業内容は変わります。続けて履修したい方は相談してください。		1. 映画『西部戦線異状なし』と『カサブランカ』（その1） 2. 映画『西部戦線異状なし』と『カサブランカ』（その2） 3. 映画『西部戦線異状なし』と『カサブランカ』（その3） 4. パールハーバーと南京 5. 「慰安婦」（その1） 6. 「慰安婦」（その2） 7. 靖国（その1） 8. 靖国（その2） 9. 東京 10. 広島 11. 沖縄 12. ロンドン 13. ベルリン 14. ワシントンDC 15. まとめのディスカッション	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	必ず事前にテキストを読み、自分の意見や質問をまとめた上で授業に臨んでください。事後は教室でのディスカッションをふまえ、クラスで作成するフェイスブック非公開グループにコメントを掲載してください。		
テキスト、参考文献	藤原帰一『戦争を記憶する』（講談社現代新書、2001、800 円）、古市憲寿『誰も戦争を教えられない』（講談社＋α 文庫、2015、850 円）、その他、論文、英文の新聞雑誌記事など。		
評価方法	学期末に提出するレポートに加えて、教室での発表、フェイスブックへのコメントを評価対象とします。		

09 年度以降	交流文化論（旅行・宿泊産業論）	担当者	井上 泰日子
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的： ツーリズムに大きく関わる旅行業、宿泊業（ホテル、旅館など）、航空産業の役割、ビジネスの現状と課題について学習する。 講義概要： 旅行産業の発展経緯、ビジネスの概要、さらに将来について学習する。宿泊産業においては、ホテルビジネスを中心に、経営及び運営方法、会計、さらにリゾートホテルの特色などについて学習する。航空産業においては、最近の動向等を中心に学習する。最後の「プレゼンテーション」では、各産業への提案を各自パワーポイント使用によって行う。		1. オリエンテーション 2. 海外旅行パッケージツアーの歴史と現状 3. 旅行産業の現状と課題① 4. 旅行産業の現状と課題② 5. 宿泊産業（ホテル、旅館）の概要① 6. 宿泊産業（ホテル、旅館）の概要② 7. リゾートホテル・ビジネス 8. ディスカッション（テーマ：各産業の課題等） 9. 航空産業の最近の動向① 10. 航空産業の最近の動向② 11. プレゼンテーション① 12. プレゼンテーション② 13. プレゼンテーション③ 14. プレゼンテーション④ 15. 講義全体の“まとめ”	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	新聞や関連文献から各産業の最近の動向を事前に調べておくこと。講義内容の復習。		
テキスト、参考文献	適宜個別資料を配布する。		
評価方法	受講姿勢、発言、講義参画 70%、プレゼンテーションとレポート 30%		

09 年度以降	交流文化論（オルタナティブ・ツーリズム論）	担当者	須永 和博
講義目的、講義概要		授業計画	
オルタナティブ・ツーリズムと呼ばれる「新しい」観光形態・観光実践の動向や諸議論について検討します。 オルタナティブ・ツーリズムとは、観光の大衆化（マス・ツーリズム）がもたらす様々な弊害(生活文化の形骸化や自然環境の破壊、新植民地主義等)を克服するために登場した観光開発の理念です。本講義ではまず、オルタナティブ・ツーリズムが生まれた歴史的・社会的背景について概説します。その上で、エコツーリズムやコミュニティ・ベース・ツーリズムなどのオルタナティブな観光実践の現状について、主に文化人類学・社会学などの視点から検討し、その可能性について考えます。 本講義では、出来る限り実際の観光の現場で生じている個別具体的な事例から、観光の問題と可能性について考えてみたいと思います。その際に扱う事例としては、東南アジアをはじめとする「第三世界」や、先住民民族や少数民族、都市のスラムといった「第四世界的状況」を取り上げることが多くなります。		1. 趣旨説明 2. オルタナティブ・ツーリズムの背景 3. ビデオ上映（ジャマイカの観光開発） 4. 貧困の商品化―スラム・ツーリズムの事例 5. 場所性の商品化―アマンリゾーツの戦略 6. 環境主義の商品化―エコリゾート 7. 世界遺産と観光1―ラオス・ルアンパバンの事例 8. 世界遺産と観光2―中国・麗江の事例 9. 先住民とアート―北米イヌイットの事例 10. 先住民とミュージアム―アイヌの事例 11. エコツーリズムと先住民1 12. エコツーリズムと先住民2 13. コミュニティ・ベース・ツーリズム:タイの事例 14. 現代日本における農山村の再編と観光 15. まとめ	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	『観光学キーワード』『よくわかる観光社会学』などで、観光研究についての基本的知識について理解を深めておくこと。		
テキスト、参考文献	特に定めない。毎回、文献リストを配布する。		
評価方法	授業毎の小レポート(50%)、期末レポート(50%) 4 回以上の欠席で単位認定の条件を失う。		

13 年度以降 12 年度以前	交流文化論（ツーリズム特殊講義（ツーリズム・メディア論）） 交流文化論（ツーリズム・メディア論）	担当者	山口 誠
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、ツーリズムとメディアが取り結ぶ多様な関係を、さまざまな事例から考えます。その目的は、多くの人々が「観光（ツーリズム）」という形での移動（モビリティ）を実行することで、きっと体験できるだろうと想像する「観光的現実」が、どのように生まれるのかを理解することにあります。 「観光的現実」とは、単に観光者と観光地の人々が共有するイメージ（疑似イベント）には留まりません。ときに「観光まちづくり」や「観光くにつくり（観光立国）」のシンボルにもなります。また「観光的現実」は必ずしも経済的発展や地域再生などに役立つばかりではなく、その逆に観光者や観光地の人々を対立させ、歴史や文化を根本から造り替えたりすることがあります。 ここでは担当者が研究しているグアム、観光ガイドブック、映画観光などの具体的な事例を解説することで、ツーリズムとメディアの節合（アーティキュレーション）から生じる「観光的現実」の特性とメカニズムを検討します。		1. ガイダンス：メディアとツーリズムが取り結ぶ関係 2. グアムから考える①：かつてグアムは日本の島だった 3. グアムから考える②：ツーリズムとメディアの「節合」 4. グアムから考える③：「日本人の楽園」が埋立てた記憶 5. 理論編①：「疑似イベント論」をアップデートする 6. ツーリズム・メディア史①：近代の観光ガイドブック 7. ツーリズム・メディア史②：ミシュランと自動車文化 8. ツーリズム・メディア史③：「地球の歩き方」と若者 9. 理論編②：真正性とアーティキュレーション 10. メディア・ツーリズム①：観光地とメディア 11. メディア・ツーリズム②：映画観光の特徴 12. メディア・ツーリズム③：「歴史」の観光資源化 13. 理論編③：複製技術時代の真正性と観光 14. 理論編④：メディア・ツーリズムのメカニズム 15. まとめ	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業中に示す事例や重要概念について図書館などで自ら調べ、さらに理解を深めてください。		
テキスト、参考文献	授業で適宜紹介します。		
評価方法	期末試験 85%、授業参加度および学期中レポート 15%。		

13 年度以降	交流文化論（トランスナショナル文化特殊講義 （グローバル社会での平和））	担当者	堀 芳枝
講義目的、講義概要		授業計画	
平和とは単に戦争やテロがない状態をいうのではなく、構造的暴力（貧困や差別・偏見によって生じる不平等や権力の非対称性など）のない状態をいう。今日のグローバル社会の中で、どのような構造的暴力が存在するのか、それに対して私たちは何ができるのだろうか。また、私たちにとって身近なアジアとの関係はどのような歩みを経て、何が問題となっているのかを振り返り、アジアの平和についても考えてみたい。そして、現代の紛争と平和構築の問題や環境問題についても取り上げる。この授業を通して、みなさんが国際社会の様残な問題についての構造を分析し、解決方法について考える力を身につけてくれることを期待する。		1. ガイダンス 平和学の基本概念について 2. 低価格の洋服から考える平和 3. ファストファッションの是非を考える 4. モノから考えるグローバル経済と私たちがつくる平和 5. アジアのフェアトレード（民衆交易）とNGO 6. アジアの戦争と平和の歴史（1） 7. アジアの戦争と平和の歴史（2） 8. アジアの戦争－和解に向けての市民交流やNGOの役割 9. 地球人として平和を創るピースボート 10. グローバル時代の紛争と平和構築（1） 11. グローバル時代の紛争と平和構築（2） 12. 移民・難民問題と日本 13. 環境と平和について（1） 14. 環境と平和について（2） 15. これまでのまとめ（質疑応答など）	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業に該当するテキストの部分を予習・あるいは復習としてまとめるよう、適宜指示していきます。		
テキスト、参考文献	テキスト：堀芳枝編『学生のためのピースノート2』コモンズ、2015 年。 参考文献：授業で紹介する		
評価方法	授業中に出す課題 20% 期末テスト 80%		

13 年度以降	交流文化論（トランスナショナル文化特殊講義 （グローバリゼーションと市民社会））	担当者	堀 芳枝
講義目的、講義概要		授業計画	
グローバル化が進む今日の国際社会において、NGOやNPOは市民社会の形成にどのような役割を果たしているのか。NGO（非政府組織）、NPO（非営利団体）、PO（住民組織）といった市民社会における主要なアクターの概念を理解し、アジアにおける平和運動や市民社会がどのような歴史を歩んできたのかについて考える。また、企業と異なるNGOやNPOはどのような組織形態で、どのようにマネージメントをしているのだろうか。非営利組織の運営という観点からもNGOやNPOを分析できるような力を身につけていきたいと思います。		1. ガイダンス 2. NPO、NGO、POについての概要 3. NPOの組織とマネージメント（1） 4. NPOの組織とマネージメント（2） 5. 国際社会における市民運動の歴史を振り返る 6. 日本の市民社会とNGO・NPO（1） 7. 日本の市民社会とNGO・NPO（2） 8. フィリピンの市民社会とNGO（1） 9. フィリピンの市民社会とNGO（2） 10. タイの市民社会とNGO 11. カンボジアの市民社会とNGO（1） 12. カンボジアの市民社会とNGO（2） 13. バングラディッシュの市民社会とNGO 14. アジア諸国の市民社会とNGOのまとめ 15. 授業全体のまとめ 質疑応答など	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業に該当する資料の予習、あるいは復習を適宜指示しますので、それに従ってください。		
テキスト、参考文献	参考文献：秦辰也編『アジアの市民社会とNGO』晃洋書房、2014年。ピーター・ドラッカー『非営利組織の経営』ダイヤモンド社、2007年。		
評価方法	授業中に出す課題 20% 期末テスト 80%		

外国語学部共通科目シラバス

09 年度以降	総合講座	担当者	大重 光太郎 (コーディネーター)
講義目的、講義概要		授業計画	
「今、ナショナリズムについて改めて考える」 グローバリズムの進展がさまざまな弊害をもたらす中、それへの反動としてナショナリズムが強まっているように思われる。欧州でのイギリスのEU離脱、各国での極右・排外的ナショナリズムの台頭、アメリカ大統領選挙などは、そうした例とみることができる。こうしたなか、次のような問いが出てくる。 ・現在のナショナリズムの動きをどうとらえるべきなのか？ ・グローバリズムとナショナリズムの関係は？ ・グローバリズムの対案はナショナリズムなのか？ ・ナショナリズムは悪なのか？ ・「健全な」ナショナリズムとは何か？ ・日本のナショナリズムの現在とは？ 今後は？ こうした問いを念頭におきながら、地域的・歴史的に多様な角度から、また社会科学だけでなく人文科学の立場も含めて、あらためてナショナリズムという問題を考えたい。 なお第5回は英語のみでの授業です。		1. イントロダクション (大重光太郎) 2. スイス学入門：スイスのパンは、なぜ美味しくないのか (田中善英) 3. ナショナリズムとハプスブルク君主 (上村敏郎) 4. ドイツにおけるナショナリズムの変遷 (黒田多美子) 5. Nationalism and Language (J. Wendel) 6. イギリスの女性参政権運動が現在に伝えるもの (片山亜紀) 7. Origin of Jewish Nationalism (佐藤唯行) 8. モバイルネーション——移民・ディアスポラ、国民国家 (上野直子) 9. 日本のナショナリズムをどう見るか (渡辺治 一橋大学名誉教授) 10. 日本の難民受け入れの現状と課題 (新島彩子 NPO法人難民支援協会) 11. “Stop the boats” —オーストラリアの難民政策 (永野隆行) 12. 冷戦とナショナリズムの交錯 (水本義彦) 13. 2015年パリテロ事件 (横地卓哉) 14. ローカリズムともう1つのグローバル化 (北野収) 15. まとめ	
到達目標	学科の専門領域を越えた総合的な知識を習得し、国際的・学際的視野をもって分析のうえ、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	講義の後、プリントならびに授業で紹介した文献を読み、自分で関心を持ったテーマを調べてほしい。		
テキスト、参考文献	大澤真幸ほか『ナショナリズムとグローバリズム 越境と愛国のパラドックス』新曜社、2014 年。 塩川伸明『民族とネイション—ナショナリズムという難問』岩波書店 (岩波新書)、2008 年。		
評価方法	期末テストは行わない。毎回提出のコメントペーパーをもとに成績評価を行う。		

09 年度以降	総合講座	担当者	M. ビティヒ (コーディネーター)
講義目的、講義概要		授業計画	
「文化の学問的多様性 ― 学際的概念とアプローチ」 我々現代人は様々な場面で「文化」という言葉、そして「文化」を用いた合成語（食文化、文化遺産等）や外来語（コーポレート・カルチャー、カルチャー・ショック等）に出会う。「文化」「カルチャー」という表現は日常的にメディアにおいても溢れている。 本講座では「文化」の語源、定義、概念等を議論するだけでなく文化科学、1960年代から文化一般に関する学問研究を進めているカルチュラル・スタディーズの様々な研究分野（文化理論、比較文化論、政治経済、社会学、メディア論、映画理論、哲学、芸術史等）のアプローチと具体的な研究テーマを（サブ/ポップカルチャー）挙げ、紹介することが目的である。		1. 入門：文化とは何か 2. 文化―教養―学問 3. 大衆文化としての西洋絵画―カレンダーとルノワール 4. 世界文学とはなにか・フランスにおける外国文学の受容 5. ドイツの文化施設のあり方に文化学はどのような影響を与えたか？ 6. 芸術に想像力は必要か？・哲学的概念史と作品制作の観点から 7. 異文化間コミュニケーション 8. Tawaraya Sotatsu and the creative re-imagination of themes from classical Japanese culture 9. 〈越境〉のデザイン史：1920年代ウィーン・キネティシズム派の検証を例に 10. オペラ文化の現状と展望 11. GAMANする身体―アメリカのスラップスティック・コメディの系譜から考える我慢の精神 12. 芸術作品における「傑作」の条件とは何か・美術史学の観点から 13. 文化を超えたコミュニケーション方略を探る 14. まとめ 15. 復習	
到達目標	学科の専門領域を越えた総合的な知識を習得し、国際的・学際的視野をもって分析のうえ、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各講義後コメントペーパーを提出するため出席と前講義の内容の復習が不可欠である。		
テキスト、参考文献	授業内で指示する。		
評価方法	各講義が70分かかる。その後担当の先生の各テーマについて20分ほどのテストを行う。		

09 年度以降	総合講座	担当者	木村 佐千子
講義目的、講義概要		授業計画	
西洋音楽史（１） いわゆるクラシック音楽をたくさんの録音資料で聴き、楽しみながら西洋音楽の歴史をたどっていく授業です。春学期は、古代から18世紀半ば頃までの音楽を扱う予定です。 「ドイツ語圏の音楽」（ドイツ語学科開設科目、金II）との内容重複をできるだけ少なくするよう、鑑賞する曲目を変える等の調整をしますので、「ドイツ語圏の音楽」との併修もおすすしめします。 注意事項：音楽を鑑賞する授業なので、授業中は絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講生の迷惑となる学生には、退室を指示することがあります。音楽の専門的な知識は必要ありませんが、楽譜を用いて説明することがありますので、予め了解しておいてください。		1. 導入、概観 2. 日本人と西洋音楽 3. 古代ギリシャ・ローマの音楽、グレゴリオ聖歌 4. ヨーロッパの中世の音楽 5. ルネサンス音楽（１） フランドルを中心に 6. ルネサンス音楽（２） イギリス・スペインを中心に 7. ルネサンス音楽（３） イタリアを中心に 8. バロック音楽（１） イタリアを中心に 9. バロック音楽（２） フランスを中心に 10. バロック音楽（３） リュリとラモーを中心に 11. バロック音楽（４） イギリスを中心に 12. バロック音楽（５） ヴィヴァルディとペルゴレージ 13. バロック音楽（６） ドイツを中心に 14. バロック音楽（７） J. S. バッハを中心に 15. 授業内試験	
到達目標	学科の専門領域を越えた総合的な知識を習得し、国際的・学際的視野をもって分析のうえ、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で扱う内容に関連する音楽を聴いたり、文献を読んだりしてください。		
テキスト、参考文献	必要に応じ、『音楽中辞典』、『ニューグローヴ世界音楽大事典』、『図解音楽事典』等を参照してください。その他の参考文献は、授業中に紹介します。		
評価方法	授業への参加度 25%、試験 75%（初回の授業で説明します）		

09 年度以降	総合講座	担当者	木村 佐千子
講義目的、講義概要		授業計画	
西洋音楽史（２） いわゆるクラシック音楽をたくさんの録音資料で聴き、楽しみながら西洋音楽の歴史をたどっていく授業です。秋学期は、18世紀後半から現代までの音楽を扱う予定です。春学期の授業内容を踏まえて話しますので、なるべく春学期から受講してください。 「ドイツ語圏の音楽」（ドイツ語学科開設科目、金II）との内容重複をできるだけ少なくするよう、鑑賞する曲目を変える等の調整をしますので、「ドイツ語圏の音楽」との併修もおすすしめします。 注意事項：音楽を鑑賞する授業なので、授業中は絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講生の迷惑となる学生には退室を指示することがあります。音楽の専門的な知識は必要ありませんが、楽譜を用いて説明することがありますので、予め了解しておいてください。		1. 古典派の音楽（１） ハイドン 2. 古典派の音楽（２） モーツァルト 3. 古典派の音楽（３） ベートーヴェン 4. 19世紀の音楽（１） ヴェーバー、シューベルト、シューマン 5. 19世紀の音楽（２） ヴィルトゥオーソの時代 6. 19世紀の音楽（３） フランスを中心に 7. 19世紀の音楽（４） ロシアを中心に 8. 19世紀の音楽（５） 北欧と東欧を中心に 9. 19世紀の音楽（６） スペインを中心に 10. 19～20世紀の音楽（１） チェコ、ロシアを中心に 11. 19～20世紀の音楽（２） フランスを中心に 12. 19～20世紀の音楽（３） イタリアを中心に 13. ヨーロッパのクリスマス音楽 14. 19～20世紀の音楽（４） イギリス、アメリカを中心に 15. 授業内試験	
到達目標	学科の専門領域を越えた総合的な知識を習得し、国際的・学際的視野をもって分析のうえ、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で扱う内容に関連する音楽を聴いたり、文献を読んだりしてください。		
テキスト、参考文献	必要に応じ、『音楽中辞典』、『ニューグローヴ世界音楽大事典』、『図解音楽事典』等を参照してください。その他の参考文献は、授業中に紹介します。		
評価方法	授業への参加度 25%、試験 75%（初回の授業で説明します）		

09 年度以降	情報科学概論 a	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
高度情報化社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。とくに、コンピュータを使用する多言語情報処理の重要性がますます増大しています。 本講義では、（１）コンピュータと情報処理に関する基礎知識（２）コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組み（３）コンピュータによる多言語処理の技術と応用法などについて知識の形成と応用力の育成を目標とします。 本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係、コンピュータのハードウェアとソフトウェアについて学びます。そのうえで、コンピュータとインターネット技術を利用した多言語情報処理の仕組みについて学びます。さらに、実習を通じて、多言語情報の活用法などの理解を深めます。		1. 講義の概要と目標、情報科学の発展 2. データ表現、基数変換、論理演算 3. コンピュータの構成要素 4. ソフトウェアの役割、体系と種類 5. オペレーティングシステム（OS） 6. プログラム言語 7. データ構造—リスト、スタック、キュー、2分木 8. アルゴリズムの表現法、アルゴリズムの例 9. コンピュータによる言語情報処理技術（１） 10. コンピュータによる言語情報処理技術（２） 11. 総合演習 12. 情報検索と質問応答システム 13. インターネット上の多言語処理技術 14. 講義のまとめ 15. 講義のまとめ	
到達目標	コンピュータの基礎理論およびコンピュータ言語に関する知識を習得し、コンピュータの基本的操作ができるようになる。		
事前・事後学修の内容	サーバー上に開示するテキストの指定される内容を予習し、前回出される課題を次回に提出してください。		
テキスト、参考文献	授業中指示するテキスト・参考文献を使用します。		
評価方法	定期試験の成績、課題の完成度、授業への参加度を併せて評価します。		

09 年度以降	[入門] 情報科学各論（情報処理演習 総合）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。 コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用] 科目を履修できる。		1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09 年度以降	[入門] 情報科学各論（情報処理演習 総合）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。 コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用] 科目を履修できる。		1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09 年度以降	[入門] 情報科学各論（情報処理演習 英語）	担当者	内田 富男
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。 コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用] 科目を履修できる。		1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09 年度以降	[入門] 情報科学各論（情報処理演習 英語）	担当者	内田 富男
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生生活、社会生活で実際に必要、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。 コンピュータ初心者を対象に、1 人 1 台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用] 科目を履修できる。		1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09 年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 ヨーロッパ言語)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。受講生の外国語の能力自体は問わない。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。 コンピュータ初心者を対象に、1 人 1 台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用] 科目を履修できる。		1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09 年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 ヨーロッパ言語)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。受講生の外国語の能力自体は問わない。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。 コンピュータ初心者を対象に、1 人 1 台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用] 科目を履修できる。		1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09 年度以降	[応用] 情報科学各論 (Excel・プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、ExcelおよびPowerPointの使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、受講生の習熟度等によって、進度・扱う内容が多少異なることがある。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1) 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数の利用(1) 6. 関数の利用(2) 7. 関数の利用(3) 8. マクロの利用(1) 9. マクロの利用(2) 10. プレゼンテーション実習(1)-1 11. プレゼンテーション実習(1)-2 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09 年度以降	[応用] 情報科学各論 (Excel・プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、ExcelおよびPowerPointの使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、受講生の習熟度等によって、進度・扱う内容が多少異なることがある。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1) 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数の利用(1) 6. 関数の利用(2) 7. 関数の利用(3) 8. マクロの利用(1) 9. マクロの利用(2) 10. プレゼンテーション実習(1)-1 11. プレゼンテーション実習(1)-2 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09 年度以降	[応用] 情報科学各論（プレゼンテーション中級）	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、受講生の習熟度等によって、進度・扱う内容が多少異なることがある。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 書式設定、スライドの設定 3. スライドショーと特殊効果(1) 4. スライドショーと特殊効果(2) 5. 図形の作成、SmartArtグラフィック(1) 6. 図形の作成、SmartArtグラフィック(2) 7. オブジェクトの挿入(1) 8. オブジェクトの挿入(2) 9. プレゼンテーション実習(1)-1 10. プレゼンテーション実習(1)-2 11. 配付資料の作成 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09 年度以降	[応用] 情報科学各論（プレゼンテーション中級）	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、PowerPointの使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、受講生の習熟度等によって、進度・扱う内容が多少異なることがある。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 書式設定、スライドの設定 3. スライドショーと特殊効果(1) 4. スライドショーと特殊効果(2) 5. 図形の作成、SmartArtグラフィック(1) 6. 図形の作成、SmartArtグラフィック(2) 7. オブジェクトの挿入(1) 8. オブジェクトの挿入(2) 9. プレゼンテーション実習(1)-1 10. プレゼンテーション実習(1)-2 11. 配付資料の作成 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09 年度以降	[応用] 情報科学各論 (Word 中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Wordの使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、受講生の習熟度等によって、進度・扱う内容が多少異なることがある。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 段落、段組、その他書式設定(1) 3. 段落、段組、その他書式設定(2) 4. アウトラインに沿った編集(1) 5. アウトラインに沿った編集(2) 6. 脚注・コメントの作成 7. ワードアートの利用 8. 図形の利用(1) 9. 図形の利用(2) 10. 図形の利用(3)・組織図の作成 11. 目次作成・索引作成 12. Excelとの連携(1) 13. Excelとの連携(2) 14. まとめ 15. まとめ	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09 年度以降	[応用] 情報科学各論（Word 中級）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Wordの使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、受講生の習熟度等によって、進度・扱う内容が多少異なることがある。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 段落、段組、その他書式設定(1) 3. 段落、段組、その他書式設定(2) 4. アウトラインに沿った編集(1) 5. アウトラインに沿った編集(2) 6. 脚注・コメントの作成 7. ワードアートの利用 8. 図形の利用(1) 9. 図形の利用(2) 10. 図形の利用(3)・組織図の作成 11. 目次作成・索引作成 12. Excelとの連携(1) 13. Excelとの連携(2) 14. まとめ 15. まとめ	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

16 年度以降 15 年度以前	情報科学各論（コーパス言語学 a） 情報科学各論（言語情報処理 1）	担当者	羽山 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業は、コンピューターを活用して計量的に言語を見る洞察力和分析力を身につけることを目標とします。 コーパス言語学aでは、「コーパス（＝言語データ）とは何か？」という基本的な概念を共有するところから始めます。その上で、「コーパスを分析することで何がわかるのか?」、「コーパスをどのように分析するのか?」という実習へ発展していきます。その後は、受講生が自ら考えた言語分析課題（Research question(s)）をたて、実際にコーパスデータを分析し、その成果を発表するという一連の演習を行います。 授業では、教科書（下記参照）に沿って様々な研究例を見ながら、「言語を分析する」適切な視点を養って頂きたいと思います。		1. 【ガイダンス】 2. 第1章「コーパス言語学への招待」 3. 第2章「コーパスとは何か」 4. 第3章「さまざまなコーパス」 5. 第5章「コーパス検索の技術」 6. 第6章「コーパス頻度の処理」 7. 第7章「コーパスと語彙」（1） 7. 第7章「コーパスと語彙」（2） 8. 第8章「コーパスと語法」（1） 9. 第8章「コーパスと語法」（2） 10. 第9章「コーパスと文法」（1） 11. 第9章「コーパスと文法」（2） 12. プレゼンテーション準備（1）：RQを検討 13. プレゼンテーション準備（2）：データ分析 14. プレゼンテーション準備（3）：資料作成 15. プレゼンテーション	
到達目標	コンピューターの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピューターを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	課題が授業時間内に終わらない場合は、期日までに仕上げ、講義支援システム経由で提出する。		
テキスト、参考文献	『ベーシックコーパス言語学』（石川慎一郎著 ひつじ書房）		
評価方法	毎回の授業における課題への取り組み（50%）、最終プレゼンテーション（50%）		

16 年度以降 15 年度以前	情報科学各論（コーパス言語学 b） 情報科学各論（言語情報処理 2）	担当者	羽山 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
「日本人英語学習者のコーパス」を扱います。究極的な研究課題（Research question）は、「日本人英語学習者の話す／書く英語の特徴にはどのようなものがあるか？」ということです。それらの特徴は、使用する語彙、使用する（あるいはしない）文法項目、誤り（error）などの観点から特定できるものを指します。加えて、「英語力」が異なる学習者グループを比較することによって、英語力が低い段階から高まってくるに従い、どのような語彙・文法項目が使われるようになるのか、あるいはどのような誤りは減少し、どのようなものは高い英語力を持つ学習者でもおかしてしまうのか、といったことも、本授業で扱うテーマに含まれます。従って、英語教員を目指す人、英語学習に対する興味・関心が強い人に向いている内容といえます。 授業では、演習が中心になります。コーパス言語学aを履修していなくても構いません。		1. 【ガイダンス】 学習者コーパスとは何か 2. 学習者の言語データと第二言語習得 3. 学習者コーパスの仕組み 4. 学習者データの収集（1） 5. 学習者データの収集（2） 6. 学習者データの入力 7. 学習者データの加工 8. 学習者コーパスの語彙分析 9. 学習者コーパスの文法分析 10. 学習者コーパスの流暢さ分析 11. 学習者コーパスの誤り分析 12. プレゼンテーション準備（1）：RQを検討 13. プレゼンテーション準備（2）：データ分析 14. プレゼンテーション準備（3）：資料作成 15. プレゼンテーション	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	課題が授業時間内に終わらない場合は、期日までに仕上げ、講義支援システム経由で提出する。		
テキスト、参考文献	テキストは使用せず。講義支援システムに掲載する PPT スライドを使用する。		
評価方法	毎回の授業における課題への取り組み（50%）、最終プレゼンテーション（50%）		

09 年度以降	[HTML] 情報科学各論（HTML 初級）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要： この授業は、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする半期完結授業である。 まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つであるWWW（World Wide Web）における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」（Hyper-Text Markup Language）を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、受講生の習熟度等によって、進度・扱う内容が多少異なることがある。		1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. WWWとホームページの基礎知識 3. 情報の単位と情報通信 4. ハイパーテキストとHTML 5. インターネットと情報倫理 6. ページの構造とHTML 7. ホームページの作成 テキスト 8. ホームページの作成 イメージ 9. ホームページの作成 リンク 10. ホームページの作成 テーブル 11. ホームページの作成 その他 12. ホームページの作成 完成 13. ファイルの転送とページの更新 14. 総合復習 15. 総合復習	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09 年度以降	[HTML] 情報科学各論（HTML 初級）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要： この授業は、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする半期完結授業である。 まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つであるWWW（World Wide Web）における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」（Hyper-Text Markup Language）を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、受講生の習熟度等によって、進度・扱う内容が多少異なることがある。		1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. WWWとホームページの基礎知識 3. 情報の単位と情報通信 4. ハイパーテキストとHTML 5. インターネットと情報倫理 6. ページの構造とHTML 7. ホームページの作成 テキスト 8. ホームページの作成 イメージ 9. ホームページの作成 リンク 10. ホームページの作成 テーブル 11. ホームページの作成 その他 12. ホームページの作成 完成 13. ファイルの転送とページの更新 14. 総合復習 15. 総合復習	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09 年度以降	[HTML] 情報科学各論（HTML 中級）	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業は、「HTML 初級」の次に位置する中級科目である。コンピュータやインターネットの基礎知識、及び「HTML を用いたホームページ作成技術を習得した人（FTP の理解を含む）を対象」に、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブなページ作成を通じて、コンピュータの深い理解とコミュニケーション技術を得ることを目標とする。 この授業ではまず、ファイルの種類、フォルダ構造などのコンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び HTML、FTP などの復習を行う。次に JavaScript や CGI プログラムを利用して、メッセージの表示や画像の変化、カウンタ、掲示板の設置等を行う。作成の成果は、受講生相互で批評・検討する。 受講上の注意：評価方法等を詳しく説明しますので、ガイダンスには必ず出席すること。平常点評価の実習授業ですので、全回出席する、という前提で授業は構成、進行します。		1. ガイダンスとイントロダクション 2. HTMLとFTPの復習（1） 3. HTMLとFTPの復習（2） 4. インタラクティブなページ（HTMLとCGI） 5. プログラミングの基礎知識 6. JavaScript（1） 7. JavaScript（2） 8. JavaScript（3） 9. JavaScript（4） 10. JavaScript（5） 11. CGIの利用 12. 総合課題（1） 13. 総合課題（2） 14. 総合課題（3） 15. 鑑賞会	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各回で指示される、課題、復習、準備等を行うこと。		
テキスト、参考文献	授業用 Web にて資料等を配布。参考文献等は随時紹介。		
評価方法	授業中に作成する課題（60％）と平常点（課題の途中経過等 40％）で総合評価する。		

09 年度以降	経済原論 a	担当者	野村 容康
講義目的、講義概要		授業計画	
講義概要 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。 講義目的 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。		1. 経済学の目的と方法 2. 家計の行動①－効用の概念と予算制約 3. 家計の行動②－効用最大化 4. 家計の行動③－消費者余剰の概念 5. 企業の行動①－生産技術の決定 6. 企業の行動②－費用曲線と利潤最大化 7. 企業の行動③－生産者余剰の概念 8. 市場価格の決定 9. 不完全競争市場 10. 厚生経済学の基本定理 11. 市場の失敗 12. 所得分配の決定 13. 政府の役割①－規制および補助金政策 14. 政府の役割②－租税政策 15. まとめ	
到達目標	経済学の基礎知識を習得し、様々な経済事象を分析できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各回の講義で解説した専門用語（プリントを配布）について復習し、十分に理解したうえで、次回の講義に臨むこと。		
テキスト、参考文献	特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて紹介する。		
評価方法	定期試験の成績（80％）に授業内での小テストの結果（20％）を加味して評価する。		

09 年度以降	経済原論 b	担当者	野村 容康
講義目的、講義概要		授業計画	
講義概要 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。 講義目的 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。		1. マクロ経済学の体系 2. 国民所得の諸概念 3. 消費と貯蓄の理論 4. 企業投資の理論 5. 国民所得決定の理論 6. 生産物市場の分析 7. 金融市場の分析 8. 財政政策の有効性 9. 金融政策の有効性 10. 国際収支と為替レートの決定要因 11. 開放マクロ経済下での経済政策 12. 公債発行と財政赤字 13. 経済成長の決定要因 14. 日本の公的債務と経済成長 15. まとめ	
到達目標	経済学の基礎知識を習得し、様々な経済事象を分析できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各回の講義で解説した専門用語（プリントを配布）について復習し、十分に理解したうえで、次回の講義に臨むこと。		
テキスト、参考文献	特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて紹介する。		
評価方法	定期試験の成績（80％）に授業内での小テストの結果（20％）を加味して評価する。		

09 年度以降	社会心理学 a	担当者	樋口 匡貴
講義目的、講義概要		授業計画	
人間は必ず、他者と関わりを持ちながら生きている。その中で、他者から影響を受け、そして他者に影響を与えている。つまり、人間の関わる事象はすべて社会心理学の研究対象と言える。社会心理学a, bでは、日常生活の中に存在する様々なトピックを科学的にとらえ、社会心理学的に解釈していく。特に社会心理学aでは、個人の心の働きに主に焦点を当てる。		1. イントロダクション - 「社会心理学」講義の前に 2. 社会心理学の概要 3. 社会的認知(1)：人の印象はどう決まるか 4. 社会的認知(2)：ステレオタイプと差別 5. 社会的アイデンティティ理論(1)：個人の中の集団 6. 社会的アイデンティティ理論(2)：差別は集団から生まれる 7. 自己(1)：自分はどんな人間か 8. 自己(2)：自分のことを相手にどう伝えるか 9. 態度と態度変容：好きになるのはどうしてか 10. 社会的影響(1)：集団での意思決定における個人の役割 11. 社会的影響(2)：規範的影響と情報的影響 12. 社会的影響(3)：「助けて!」と聞こえてきたらどうするか 13. 社会的影響(4)：そして集団全体が動き出す 14. 期末試験と振り返り 15. 社会的影響(5)：人間の力	
到達目標	社会心理学に関する基礎知識を習得し、社会に生きる個人および集団の認知過程や行動特徴などについて分析のうえ、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回、事前に配布する資料に目を通して頂くこと。またリアクションペーパーにコメントした内容について、授業後に自らの答えを出して頂くこと。		
テキスト、参考文献	テキストは使用しない。参考書として以下 2 冊を勧める。亀田達也・村田光二（2000）．『複雑さに挑む社会心理学－適応エージェントとしての人間』 有斐閣；池田謙一 他（2010）．『社会心理学』 有斐閣		
評価方法	中間レポート 30%，期末試験 60%，その他 10%で評価する。なお、第 1 回目の授業において授業実施上の注意点等を詳細に説明する。特に、授業中に他者に迷惑をかける行為を禁止する。		

09 年度以降	社会心理学 b	担当者	樋口 匡貴
講義目的、講義概要		授業計画	
人間は必ず、他者と関わりを持ちながら生きている。その中で、他者から影響を受け、そして他者に影響を与えている。つまり、人間の関わる事象はすべて社会心理学の研究対象と言える。社会心理学a, bでは、日常生活の中に存在する様々なトピックを科学的にとらえ、社会心理学的に解釈していく。特に社会心理bでは、主に個人と社会との間の相互作用や、社会心理学の応用的発展領域に焦点を当てる。		1. イントロダクション：「社会心理学」講義の前に 2. コミュニケーション(1)：言語的・非言語的コミュニケーション 3. コミュニケーション(2)：コミュニケーションと対人行動 4. コミュニケーション(3)：コミュニケーションのズレ 5. ソーシャルネットワーク(1)：ネットワークの諸相 6. ソーシャルネットワーク(2)：つながりを生み出すもの 7. ソーシャルネットワーク(3)：つながりが生み出すもの 8. 信頼社会と安心社会 9. 社会的感情(1)：互惠性を生み出す感情～感謝 10. 社会的感情(2)：表情と感情 11. 社会的感情(3)：生死を分ける感情 12. 健康行動と社会心理学(1)：健康に関する様々な理論 13. 健康行動と社会心理学(2)：感染予防のための挑戦 14. 期末試験と振り返り 15. 社会心理学の未来	
到達目標	社会心理学に関する基礎知識を習得し、社会に生きる個人および集団の認知過程や行動特徴などについて分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回、事前に配布する資料に目を通して頂くこと。またリアクションペーパーにコメントした内容について、授業後に自らの答えを出して頂くこと。		
テキスト、参考文献	テキストは使用しない。参考書として以下 2 冊を勧める。亀田達也・村田光二（2000）．『複雑さに挑む社会心理学－適応エージェントとしての人間』 有斐閣；池田謙一 他（2010）．『社会心理学』 有斐閣		
評価方法	中間レポート 30%，期末試験 60%，その他 10%で評価する。なお、第 1 回目の授業において授業実施上の注意点等を詳細に説明する。特に、授業中に他者に迷惑をかける行為を禁止する。		

シラバス フランス語学科

2017 年 4 月 1 日発行

獨協大学教務課

〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1

電 話 048-946-1656



DOKKYO UNIVERSITY

学 科	学年	氏 名
学科	年	